

公セ工補 第7-機高-5号
下水道センター耐水化対策(建築)工事

設 計 図

上 越 市

※図面中の工事番号は表紙の工事番号に読み替える

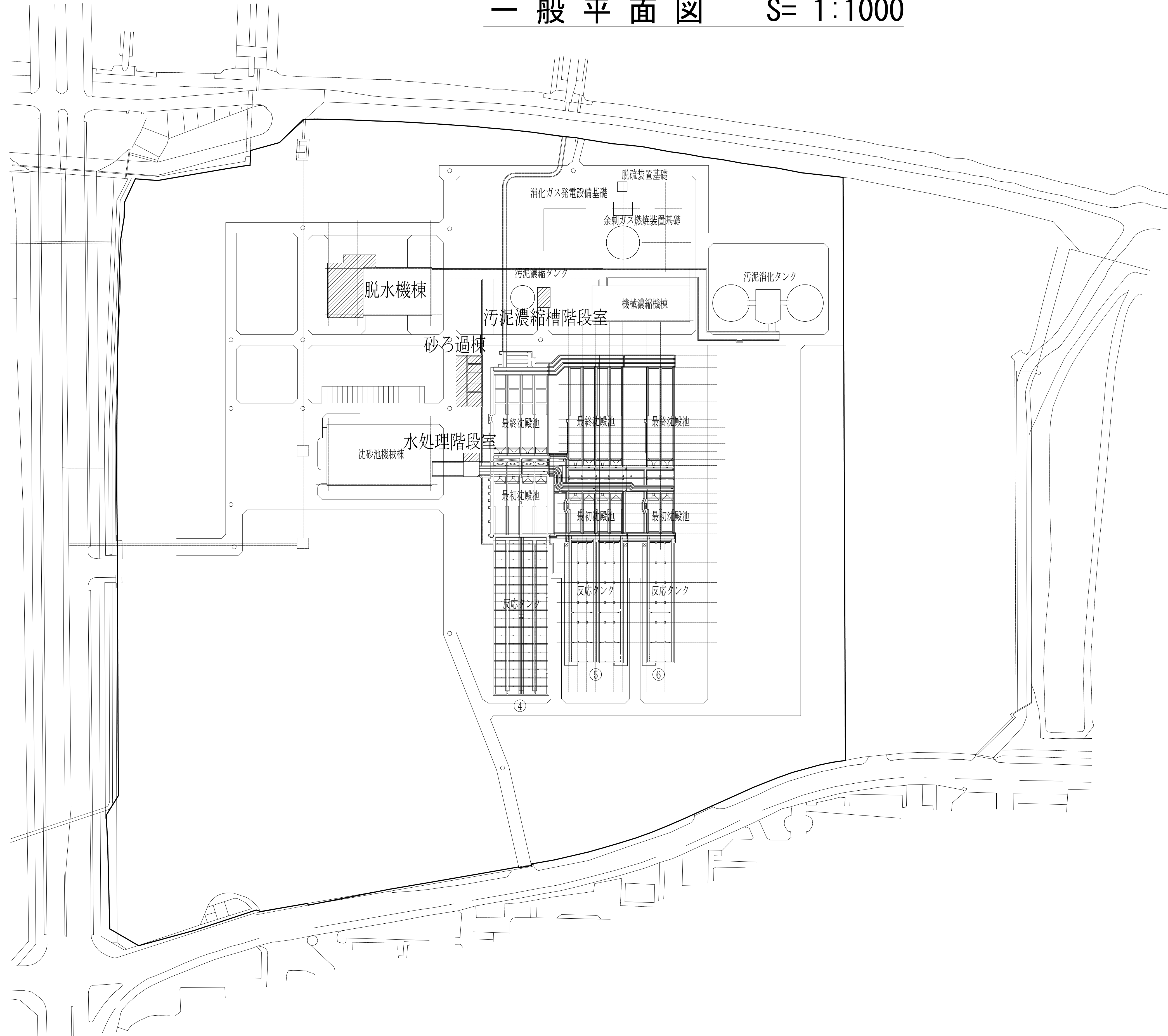
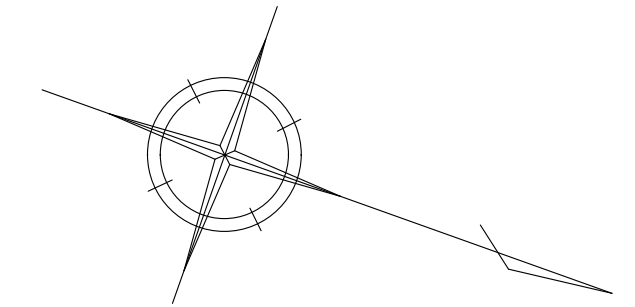
目 次

図面 番号	図 面 名 称	縮尺 (A1版)
A0-00	一般平面図	1/1000
A0-01	特記仕様書 (1)	－
A0-02	特記仕様書 (2)	－
A0-03	特記仕様書 (3)	－
A0-04	特記仕様書 (4)	－
A0-05	特記仕様書 (5)	－
A0-06	特記仕様書 (6)	－
A1-01	脱水機棟 耐水化改修 仕上表	－
A1-02	脱水機棟 耐水化改修 平面図 (1)	1/100
A1-03	脱水機棟 耐水化改修 平面図 (2)	1/100
A1-04	脱水機棟 耐水化改修 平面図 (3)	1/100
A1-05	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (1)	1/100
A1-06	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (2)	1/100
A1-07	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (3)	1/100
A1-08	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (4)	1/100
A1-09	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (5)	1/100
A1-10	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (6)	1/100
A1-11	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (7)	1/100
A1-12	脱水機棟 耐水化改修 立面図 (8)	1/100
A1-13	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (1)	1/100
A1-14	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (2)	1/100
A1-15	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (3)	1/100
A1-16	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (4)	1/100
A1-17	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (5)	1/100
A1-18	脱水機棟 耐水化改修 断面図 (6)	1/100
A1-19	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図 (1)	1/50
A1-20	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図 (2)	1/50
A1-21	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図 (3)	1/50
A1-22	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図 (4)	1/50
A1-23	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図 (5)	1/50
A1-24	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (1)	1/10
A1-25	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (2)	1/10
A1-26	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (3)	1/10
A1-27	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (4)	1/10
A1-28	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (5)	1/10
A1-29	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (6)	1/10
A1-30	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (7)	1/10
A1-31	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (8)	1/10
A1-32	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (9)	1/10
A1-33	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (10)	1/10
A1-34	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (11)	1/10
A1-35	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (12)	1/10
A1-36	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (13)	1/5

図面 番号	図 面 名 称			縮尺(A1版)
A1-37	脱水機棟	耐水化改修	雑詳細図 (14)	図示
A1-38	脱水機棟	耐水化改修	建具	1/50
A1-39	脱水機棟	耐水化改修	仮設図	1/100
S1-01	脱水機棟	改修標準詳細図		-
S1-02	脱水機棟	構造図		1/20
A2-01	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 仕上表	-
A2-02	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 平面図	-
A2-03	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 立面図	-
A2-04	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 立面図・仮設図	-
A2-05	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 部分詳細図	1/50
A2-06	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 雑詳細図 (1)	1/10
A2-07	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 雑詳細図 (2)	1/10
A2-08	汚泥濃縮槽	階段室	耐水化改修 雑詳細図 (3)	1/10
S2-01	汚泥濃縮槽	階段室	改修標準詳細図	-
S2-02	汚泥濃縮槽	階段室	構造図	1/20
A3-01	砂ろ過棟	耐水化改修	仕上表	-
A3-02	砂ろ過棟	耐水化改修	平面図	1/100
A3-03	砂ろ過棟	耐水化改修	立面図	1/100
A3-04	砂ろ過棟	耐水化改修	断面図	1/100
A3-05	砂ろ過棟	耐水化改修	部分詳細図 (1)	1/50
A3-06	砂ろ過棟	耐水化改修	部分詳細図 (2)	1/50
A3-07	砂ろ過棟	耐水化改修	雑詳細図 (1)	1/10
A3-08	砂ろ過棟	耐水化改修	雑詳細図 (2)	1/10
A3-09	砂ろ過棟	耐水化改修	雑詳細図 (3)	1/10
A3-10	砂ろ過棟	耐水化改修	雑詳細図 (4)	1/10
A3-11	砂ろ過棟	耐水化改修	仮設図	1/100
S3-01	砂ろ過棟	改修標準詳細図		-
S3-02	砂ろ過棟	構造図		1/20
A4-01	水処理棟	階段室	耐水化改修 仕上表	-
A4-02	水処理棟	階段室	耐水化改修 平面図・立面図・断面図	1/100
A4-03	水処理棟	階段室	耐水化改修 部分詳細図・仮設図	1/50・1/100
A4-04	水処理棟	階段室	耐水化改修 雑詳細図 (1)	1/10
A4-05	水処理棟	階段室	耐水化改修 雑詳細図 (2)	1/10
S4-01	水処理棟	階段室	改修標準詳細図	-
S4-02	水処理棟	階段室	構造図	1/20

[illegible]

一般平面図 S= 1:1000



工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	A0-00
工 事 名	下水道センター耐水化対策（建築）工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図 面 名	一般平面図		
縮 尺	1：1000		
設計年月日	令和7年2月28日		
新 潟 県 上 越 市			

工事名称
下水道センター
耐水化対策（建築）工事

令和 7 年 2 月（全 80 枚）
表紙含む

工事概要

1. 工事場所
上越市大字藤野新田地内

2. 敷地面積
139,500㎡

3. 工事内容
耐水化改修工事

4. 工事種目（建物概要）

建 物 名 称	工事種別	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	消防令 別表第一	備 考
脱水機棟	改修	ＲＣ造	地下１階 地上４階	3,457.40㎡	１５項	
砂ろ過棟	改修	ＲＣ造	平屋建	109.87㎡	１５項	
汚泥濃縮槽 階段室	改修	ＲＣ造	平屋建	34.24㎡	１５項	
水処理棟 階段室	改修	ＲＣ造	平屋建	25.41㎡	１５項	

※延べ面積は建物全体の面積とする。

仕 様 書

I 共通仕様

1. 共通仕様及び特記仕様に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修仕様」という。）により、改修標仕に記載されていない事項は、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。

2. 改修標仕に用いられている用語を、次のとおり読み替える。

(1) 「契約書」を「上越市財務規則(昭和46年4月29日上越市規則第35号)別記(第173条関係)建設工事請負基準約款」（以下「約款」という。）に読み替える。

(2) 「監督職員」を「監督員」に読み替える。

(3) 「特記仕様書」を「特記仕様」に読み替える。

3. 次の各号に該当する改修標仕の項目について、改修標仕の規定を別表に置き換えて適用する。

(1) 1 章 各章共通事項 1 節 共通事項

1. 1. 2 用語の定義の(7)及び(7)

(2) " 1. 4. 2 材料の品質等の(1)及び(2)

(3) " 1. 4. 4 材料の検査等の(1)

(4) " 1. 8. 1 工事検査の(2)及び(3)

4. 改修標仕の次の項目の規定は適用しない。

1 章 1. 1. 2 用語の定義の(二)

" 1. 8. 2 技術検査

別 表（建築改修工事）

号	項 目	置 き 換 え 後 の 改 修 標 仕 の 規 定
	1 章 各章共通事項	
	1 節 共通事項	
(1)	1. 1. 2 用語の定義	(7)「監督員」とは、約款第10条に基づき受注者に通知された者をいう。 <div>(7)「工事検査」とは、約款に基づく次の各事項の確認をするために発注者又は検査職員が行う検査をいい、工事の施工体制、施工状況、出来形、品質及び出来ばえの検査を含む。<div>(ただし、②に係る検査を除く。)</div><div>①工事の完成(約款第32条)</div><div>②部分払の請求に係る出来形部分又は部分払指定工事材料等(約款第38条)</div><div>③部分引渡しの指定部分に係る工事の完成(約款第39条)</div><div>④契約の解除時における出来形部分(約款第47条)</div><div>⑤必要があるときとの臨時検査(約款第49条)</div></div>

| (2) | 1. 4. 2 材料の品質等 | (1) 工事に使用する材料は、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 建築材料等評価名簿（一般社団法人公共建築協会）契約時の最新版」の名簿に記載されている品目については、当該名簿に記載されている材料又は製造所の製品とするほか、設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、新品とする。ただし、設計図書に定める場合は、この限りでない。 なお、「新品」とは、品質及び性能が製造所から出荷された状態であるものを指し、製造者による使用期限等の定めがある場合を除き、製造後一定期間以内であることを条件とするものではない。 (2) 使用する材料が設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料を、監督員に提出する。 ただし、設計図書に定める J I S 又は J A S の材料で、J I S 又は J A S のマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合(次の(7)から(9)のいずれかに該当する材料を使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けたとみなすことができる。)は、この限りでない。 (7) 建築基準法その他の認定品で、マーク等の確認ができる材料 (4) 建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿に記載されている材料又は製造所の製品（特記で改修標仕及び標仕の規定に基づく品質及び性能以外を規定した場合を除く。) (9) 特記により指定された材料又は製造者の製品 |

| (3) | 1. 4. 4 材料の検査等 | (1) 工事現場に搬入した材料は、種別ごとに監督員の検査を受ける。 ただし、次の(7)若しくは(4)に該当する場合又はあらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 (7) 工事完成検査時又は工事写真で、J I S 若しくは J A S のマークを確認できる場合 (4) 建築基準法その他の認定品と指定された材料で、工事完成検査時又は工事写真で品質、性能を証明するマーク等を確認できる場合 |

| (4) | 1. 8. 1 工事検査 | (2) 約款に基づく部分払を請求する場合は、当該請求に係る出来形部分等の算出方法について監督員の指示を受けるものとする。 (3) (1)の通知又は(2)の請求に基づく検査及び約款第47条及び第49条に規定する検査は、発注者から通知された検査日に受ける。 |

Ⅱ 特記仕様	
1. 項目は、番号に ○ 印の付いたものを適用する。 2. 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。 3. 特記事項の記載の〔 〕 内表示番号は、改修標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 特記事項に記載の() 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図または当該表を示す。 4. 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また () 内は製品名を示す。	
章 項 目	特 記 事 項
① 工事実績情報サービス(CORINS)への登録	※請負工事費500万円以上の場合、登録する [1. 1. 4]
各 2 概成工期	※工期 令和 年 月 日 [1. 2. 1]
章 3 内部の工事期間等	※着手 令和 年 月 日 ～ 終了 令和 年 月 日までとする。 ※部分使用に係る条件に変更がある場合は、部分使用承諾書により、施設内部の使用を開始する。 ※次の作業は内部工事着手前に行える。ただし、着手日、作業箇所は施設及び監督員と協議のうえ決定する。 ※外脚足場組等の仮設工事 ※工場制作のための現場寸法調査
④ 品質計画等	建築基準法に基づき指定する条件 [1. 2. 2] ○地区の区分に応じた風速 (V ₀ (m/sec)) ○ 3 0 ・ 3 2 ○地表面粗度区分 ・ I ・ II ○ III ・ IV ○多雪地域の指定 積雪区分 建造示第 1 4 5 5 号 別表 (30)
5 監理技術者の要件	※建築工事に係る監理技術者証を有するもので、次のいずれかの要件を満たす監理技術者を専任で配置できること。 1 建築工事の施工に関し、1 0 年以上の実務経験を有すること。 2 一級建築士又は一級建築施工管理技士の資格取得後 4 年以上の実務経験を有すること。
6 電気保安技術者	※要 () [1. 3. 3]
⑦ 発生材の処理等	1 0 追加特記 7 「発生材の処理等」による。 [1. 3. 12]
⑧ 特別な材料の工法	改修標仕及び標仕に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定工法による。
9 施工数量調査の方法	目視及び打診(必要に応じて破壊)による調査を行う。調査範囲及び調査内容は各章による。 [1. 6. 2]
⑩ 技能士	[1. 7. 2]
適用工事種別 技 能 検 定 の 職 種	
防水改修工事 ・ アスファルト防水工事作業 ・ 塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ シーリング防水工事作業 ・ 左官 ・ 建築板金 (内外装板金作業)	
外壁改修工事 ・ 左官 ・ タイル張り ○ 塗装 (建築塗装作業) ・ 樹脂接着剤注入施工	
建具改修工事 ・ サッシ施工 ・ ガラス施工	
内装改修工事 ・ 建築大工 ○ 左官 ・ 表装 (壁装作業) ・ 内装仕上げ施工 (・ フラッシュ系床仕上げ工事作業 ・ ガード仕上げ工事作業 ・ 鋼製下地工事作業) ・ タイル張り	
塗装改修工事 ・ 塗装 (建築塗装作業)	
耐震改修工事 ・ とび ・ 型枠施工 ・ 鉄筋施工	
環境配慮改修工事 ・ 防水施工 (アスファルト防水工事作業) ・ ガラス施工 ・ 造園	
ブロック・ALCパネル工事 ・ ブロック建築 ・ ALCパネル施工	
石工事 ・ 石材施工 (石張り作業)	
鉄筋工事 ○ 鉄筋施工 (鉄筋組立て作業)	
コンクリート工事 ○ 型枠施工	
※ これにより難しい場合は監督員と協議する。	
11 見本施工	※実施する () [1. 7. 5]
12 化学物質の濃度測定	1 0 追加特記 8 「化学物質の濃度測定」による。 [1. 7. 9]
⑬ 完成図等	下記のものを作成し提出する。 [1. 9. 1～1. 9. 3] ※設計図の図面目録と同一の図面一式 ※施工図一式 ※建物の保全に関する説明書 (取扱説明書を含む)。 下記による作成方法、提出部数とする。 ※図面は原図サイズにて製本し、 ※完成図 2部 ※施工図 1部 提出 (表紙及び背表紙 (可能な場合に限り) に工事名、受注者名を入れること) ※C A D で作成した図面はデータ化し電子媒体にて提出する。 ※説明書はファイルに綴り ※2部 ・ 部 提出 ・ その他監督員が指示した図面等 ・ 図 部 提出
⑭ 施工図等の取扱	施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用权は、発注者に委譲するものとする。
⑮ 工事完成写真	工事履行後、整理のうえ監督員に提出する。 提出部数 1 部 同一箇所の改修前と改修後が比較出来るようにし、撮影箇所及び撮影方向が分かるキープランを添付する。
⑯ 工事施工状況写真	工事施工状況写真の撮影は、工事に係る材料、施工及び品質管理の状況が確認できるように行うものとし、「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 営繕工事写真撮影要領 (令和5年版)」による工事写真撮影ガイドブック建築工事編及び解体工事編 (令和5年版) を参考に、監督員に提出する。 提出部数 1 部
17 設備工事との取合い	1 0 追加特記 6 「工事区分表」による。

仮設工事

2

1

騒音・粉じん等の対策

・ 防音パネル

・ 防音シート

[2. 1. 3]

2

監督員事務所等

・ 監督員事務所

・ 10

・ 20

・ 35

・ 65

・ m程度を設ける。

[2. 4. 1]

・ 仮設事務所の中に監督員用空間を

m程度確保する。

・ 監督員が使用できる備品として、下記のことを工事期間中現場に用意し、貸与する。

・ 保護帽

ケ

・ 雨具

着

・ 長靴

足

・ 安全帯

組

3

工 事 用 水

構内既存の施設

・ 利用できない

※利用できる（※有償

・ 無償）

4

工 事 用 電 力

構内既存の施設

・ 利用できない

※利用できる（※有償

・ 無償）

5

仮 設 建 物 等

現場事務所、倉庫、下小屋等の仮設建物の位置はあらかじめ監督員の承諾を受ける。

6

足 場

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、

[2. 2. 1]

同ガイドラインの別紙 1 「手すり先行工法による足場の組立等に関する基準」

[2. 3. 1]

における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

7

養生

既存部分の養生

※ビニールシート、合板等

[2. 3. 1]

既存家具等の養生

※ビニールシート等

・

[2. 3. 1]

備品等の移動

[2. 3. 1]

※監督員の指示による施設内移動とする。(対象備品の移動先は、図示による)

・ 行わない

8

仮設間仕切り

仮設間仕切り等の種別

[2. 3. 2] [表 2. 3. 1]

種 別	下 地	仕上げ材(厚さmm)	充填材(mm)	塗 装	
・ A種	※軽量鉄骨	※せつこうボード(※9.5	・)	厚さ()	※無し
※B種	・ 木造	・ 合板(※9	・)		・ 片面・両面
・ C種	・ 単管	・ 防炎シート			
仮設扉	※木製扉	合板張り程度	・ 行う	※無し	
・			厚さ()	・ 片面・両面	

3

1

施工数量調査

[1. 6. 2]

下記の調査結果について、施工方法、施工箇所、施工数量等をまとめた施工数量調査報告書を提出し、監督員の承諾を得て施工する。

調査範囲

屋根、底等の防水改修工事の対象となる既存コンクリート面、もたれ面等

調査内容

ひび割れの幅及び長さをも屋根面等に図示する。

浮き部分、欠損部を屋根面等に表示する。また、脆弱部を調査する。

部分的な水はけ不良部や勾配不良の箇所を屋根面等に表示する。

2

防水の施工

※ 防水工事は、以下のいずれかの施工業者（元請業者又は一次下請業者に限る）による施工とする。

○新潟県内に主たる事業所を置く事業者であり、かつ以下のいずれかの資格を有する者が所属している事業者。なお、当該資格を有する者が本工事の施工に関与することとする。契約後、証する資料の写しを提出し監督員の確認を受けること。

・ 建築仕上り改修施工管理技術者〔（一財）建築保全センター〕

・ 防水施工管理技術者（Ⅰ種）〔（一社）全国防水工業協会〕

・ 登録防水基幹技能者〔（一社）全国防水工業協会〕

○新潟県防水工業業協同組合員

3

防水保証

・ 提出しない

※「受注者」「一次下請業者」「補償団体・損保会社又は新潟県防水工業業協同組合」と3者連名の保証書を提出する。

ただし、これにより難い場合は監督員と協議すること。

工 法 種 別	施 工 箇 所	保 証 期 間
・ 工法		1 0年間
・ 工法		1 0年間
・ 工法		1 0年間

※保証書の提出部数 正本 1部

4

アスファルト防水

[3. 1. 4] [表 3. 1. 1] [3. 3. 3] [表 3. 3. 3～表 3. 3. 10]

防水改修工法の種類	施 工 箇 所	新規防水工法の種類	立上り部の保護工法
・ P1B		・ B-1 ・ B-2	・
・ P1B1		・ B1-1 ・ B1-2	・
・ P2A1		・ AI-1 ・ AI-2 ・ AI-3	・
・ P2A		・ A-1 ・ A-2 ・ A-3	・
・ M4C		・ C-1 ・ C-2	
・ M3D ・ POD		・ D-1 ・ D-2	
・ POD1		・ D1-1 ・ D1-2	
・ M3D1		仕上り塗料塗り	
・ M4D1		※有（ ・ シルバー ・ カラー）	
屋内防水	・ P1E ・ P2E	・ E-1 ・ E-2	・ 保護層を設ける

仕上塗料の使用量は製造所の仕様による

アスファルトの種類

※ 3種

・

[3. 2. 2] [3. 3. 2]

・ 二重ドレンの設置（ ・ POD工法 ・ POD1工法）

[3. 2. 5]

・ 既存露出防水層表面の仕上り塗装の除去（M4C工法、M4D1工法）

[3. 2. 6]

・ 粘着層付改質アスファルトフイーグ

厚さ(mm)

※1.5以上

・

[3. 3. 2]

・ 改質アスファルトフイーグ

厚さ(mm)

※3.0以上

・

[3. 3. 2]

防水改修工事

4

アスファルト防水

・断熱材（屋根保護又は露出防水断熱工法）

厚さ（mm） ※25 ・

材質 屋根保護防水断熱工法 ・押出法※ リスレンフォーム断熱材3種bA（スチ層付）
（JIS A 9521 建築用断熱材）

材質 屋根露出防水断熱工法 ・ビーズ法※ リスレンフォーム断熱材
・押出法※ リスレンフォーム断熱材
・硬質ウレタンフォーム断熱材（2種1号又は2号の場合、透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの）
・※ リスレンフォーム断熱材
・フェノールフォーム断熱材

乾式保護材の材料

種 類	寸法（mm）：厚さ×幅	摘 要
・押出成型型シート板 ※Ⅰ類 （窯業系ハ 材） ・Ⅱ種	※15 × × ×	・無糸綿に限る
・金属複合板	※12 ×	

コンクリート仕上りの平たんさ ・a種 ・b種 ・c種

[3.3.2]

[3.3.2]

[3.3.5] [表8.1.5]

5

改質アスファルトシート防水

防水改修工法の種類

施工箇所

新規防水層の種類

シートの厚さ（mm）

密着工法	・M4AS	・AS-T1	下層用 ※2.5以上 ・ 上層用 ※3.0以上 ・
		・AS-T2	※4.0以上 ・
		・AS-J2	※3.0以上 ・
絶縁工法	・M3AS ・POAS	・AS-T3	下層用 ※1.5以上 ・ 上層用 ※3.0以上 ・
		・AS-T4	※4.0以上 ・
		・AS-J1	※1.5以上 ・ ※2.0以上 ・
断熱工法	・M3ASI ・M4ASI ・POASI	・AS-J3	※3.0以上 ・
		・ASI-T1	下層用 ※1.5以上 ・ 上層用 ※3.0以上 ・
		・ASI-J1	下層用 ※1.5以上 ・ 上層用 ※2.0以上 ・

仕上塗料の使用量は製造所の仕様による

・二重ドレンの設置（POAS工法及びPOASI工法の場合）

[3.2.5]

・既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（M4AS工法及びM4ASI工法）

[3.2.6]

・断熱工法の断熱材 厚さ（mm） ・ 材質 ・

[3.4.2]

・地下に部分的に密着又は接着を行う工法 ※製造所の標準仕様

[3.4.4]

[3.1.4] [表3.1.1] [3.2.5] [3.5.2] [3.5.3] [表3.5.1～表3.5.3]

6

合成高分子系
ルーフィングシート防水

防水改修工法の種類

施工箇所

新規防水層の種類
（厚さ（mm））

備 考
脱気装置 二重ドレン

・POS ・S4S		・S-F1（※1.2 ・ ） ・S-F2（※1.5 ・ ） ・S-M1（※1.5 ・ ） ・S-M2（※1.5 ・ ）	POS工法 POS工法 ・設ける ・設ける
		・S3S	・S-F1（※1.2 ・ ） ・S-F2（※1.5 ・ ） ・設ける
		・M4S	・S-M1（※1.5 ・ ） ・S-M2（※1.5 ・ ）
断熱工法	・POS1 ・S4S1	・S1-F1（※1.2 ・ ） ・S1-F2（※1.5 ・ ） ・S1-M1（※1.5 ・ ） ・S1-M2（※1.5 ・ ）	POS1工法 POS1工法 ・設ける ・設ける
	・S3S1	・S1-F1（※1.2 ・ ） ・S1-F2（※2.0 ・ ）	・設ける
	・M4S1	・S1-M1（※1.5 ・ ） ・S1-M2（※1.5 ・ ）	
・P1S		・S-G1（※1.0 ・ ）	

仕上げ塗料塗り（S-F1、S1-F1、S-M1、S1-M1の場合） ・シムバ ー ・カー

新規防水層の使用分類 ※非歩行 ・ 軽歩行

仕上塗料の使用量は製造所の仕様による

断熱工法の断熱材 厚さ（mm） ・ 材質 ・

[3.5.2]

プレキャストコンクリート部材下地

[3.5.4]

目地処理（接着工法） ※図示

入隅部の増張り（種別S-F1、S1-F1の場合） ・行う（幅 mm程度）

[3.1.4] [表3.1.1] [3.6.3]

7

塗膜防水

防水改修工法の種類

施工箇所

新規防水層の種類

仕上げ塗料塗り

・POX		・X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H ・シムバ ー
・L4X		・X-1 ・X-2 ・X-1H ・X-2H ・カー
・P1Y		※Y-2
・P2Y		※Y-2

仕上塗料の使用量は製造所の仕様による

二重ドレンの設置（POX工法の場合）

[3.2.5]

・既存塗膜防水層表面仕上げ塗装の除去（L4X工法の場合）

[3.2.6]

・保護層 ・設ける（P1Y、P2Y工法の場合）

[3.6.3]

[3.3.3] [表3.3.8] [表3.3.9] [3.4.3] [表3.4.2] [表3.4.3] [3.5.3] [3.6.3]

8

脱気装置

種 類

仕 様

材 料

・平面部脱気型	※製造所標準仕様（立上り型）	※アルミ鋳造製 ・ステンレス製
・立上り部脱気型	※製造所標準仕様	・

※設置数量は製造所指定数量による。

工事番号	公セ工補 第7-機高-5号	図面番号	A0- 1
工事名	下水道センター 耐水化対策（建築）工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	排水管路・砂ろ過槽・汚泥濃縮槽 開設室・水処理棟 開設室 耐水化改修 特記仕様書（1）		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		

新 潟 県 上 越 市

③

シーリング

防水改修工事

⑨

改修工法の種類

施工箇所

○シーリング 充填工法

防水扉周囲、開口塞ぎ周囲

・シーリング 再充填工法

・拡幅シーリング 再充填工法

・ブリード工法

シーリング 材の種類及び施工箇所

[3.7.2][表3.7.1]

※下表以外は、改修標準表3.7.1を標準とする

施工箇所

シーリング 材の種類（記号）

接着性試験

[3.7.8]

※簡易接着性試験 ・引張接着性試験（施工部位）

ただし試験成績書を監督員に提出し、承諾を得た場合は試験を省略できる

撤去既存シーリング の処理

事前調査等 ・行う（下記の要領で分析する） ○行わない

現場においてサンプルを採集し、専門分析機関で分析を行う。

採取箇所 ※外壁目地 ・建具周囲目地 ・図示

採取箇所数 ・部材が異なる毎に1箇所 ・図示

分析によりPCBの含有が確認された場合は、下記により施工調査等を行い、適切に処理を行う

調査範囲 ※今回改修工事範囲全て ・図示

調査内容 シーリング 使用部位及び長さの確認

施工範囲と工事監理区分の確認

仮設計画

廃棄物等の搬出方法

材種

[3.8.2][表3.8.1]

・配管用鋼管 ※硬質塩化ビニル管 ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管

多雪地域の軒どい取付け間隔 [3.8.2]

・適用する（0.5m以下） ・適用しない

銅管製といの防露

[3.8.3][表3.8.4]

※改修標準表3.8.4による ・

たてどい受け金物の取付け ※図示 ・標準13.5.3(4)(イ)による [3.8.3](13.5.3)

7アルミニウム製笠木の種類

[3.9.2][3.9.3][表3.9.1]

形式

種類

幅(mm)

板厚(mm)

表面処理・色合い

固定間隔

下地補修

・250形

・300形

・350形

・板材折

・曲げ形

・2.0

・2.0

・2.0

・2.0

・2.0

・A-A-1

・B-A-2

・

・ブランク系

・ブランク

・スタンダード

建築基準法に基づく指定する条件により定める

・行わない

シー

ル

板

折

曲

げ

形

7アルミニウム製笠木の取付工法

笠木の固定金具は改修標準3.9.3(2)(7)とし、それ以外の取付方法は図示による

4-1

1

施工数量調査

・行わない

※下記の劣化状況調査の結果について、施工方法、施工箇所、施工数量等をまとめた施工数量調査報告書を提出し、監督員の承諾を得て施工する。

調査範囲

仕上塗材仕上の下地となる外壁、庇、軒裏等の躯体コンクリート面、既存モルタル等の面

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面等に図示する。

ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。

浮き部分を壁面に表示する。また、モルタルの剥離・剥落など欠陥部分を調査する。コンクリートの表面の剥がれ及び剥落部を壁面に表示する。

仕上塗材等の劣化部分、剥落部等を壁面に表示する。

新規仕上塗材の美観に影響を与えるおそれのある段差部等を壁面に表示する。

②

2

外壁改修の施工

※外壁改修工事（劣化状況調査、劣化部補修及び下地処理、シーリング、仕上塗材仕上）は、以下のいずれかの施工業者（元請業者又は一次下請業者に限る）による施工とする。

○新潟県内に主たる事業所を置く事業者であり、かつ以下のいずれかの資格を有する者が所属している事業者。なお、当該資格を有する者が本工事の施工に関与することとする。契約後、証する資料の写しを提出し監督員の確認を受けること。

・建築仕上改修施工管理技術者〔（一財）建築保全センター〕

・防水施工管理技術者〔（一社）全国防水工事業協会〕

・登録左官基幹技能者〔（一社）日本左官業組合連合会〕

・登録建設塗装基幹技能者〔（一社）日本塗装工業会〕

・登録防水基幹技能者〔（一社）全国防水工事業協会〕

○新潟県外壁補修工事業協同組合員

・提出しない

※ 下地補修工事を含む外壁（コンクリートブロック造の外壁は除く）改修工事について「受注者」「一次下請業者」「補償団体・損保会社又は新潟県外壁補修工事業協同組合」と3者連名の施工保証書を提出する。

ただしこれにより難しい場合は監督員と協議すること。

種類

保証範囲

保証期間

防水形複層塗材E（JIS-A6909）

外壁下地・塗装面

5年

施工保証書の提出部数

正本

1部

4-2

1

ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法

[4.1.4][4.2.5]

注入工法の種類

ひび割れ幅(mm)

注入口間隔(mm)

注入量(ml/m)

※自動式低圧注入法

0.2以上～1.0以下

※200～300

※130

樹脂注入工法

・

・

・手動式注入法

0.2以上～0.3以下

※50～100

※40

樹脂注入工法

0.3超え～0.5以下

※100～200

※70

・機械式注入法

0.5超え～1.0以下

※150～250

※130

樹脂注入工法

・

・

注入材料

[4.2.4]

※建築補修用及び建築補強用ポリシリ樹脂(JIS A6024)

・

検査（コア抜き）

[4.2.5]

※行わない

・行う 抜き取り部の補修方法 [4.2.8]

※充填工法（・ポリシリ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル）

・ウレタン樹脂材充填工法

[4.1.4][4.2.6][4.3.5][4.3.7]

充 填 材 料

種 別

備 考

・シーリング 材

※1成分形又は2成分形

ポリウレタン系シーリング 材

※行わない ・行う

・可とう性ポリシリ樹脂

・シリ工法

[4.1.4][4.2.7][4.3.5][4.3.8]

シリ材料

・パテ状ポリシリ樹脂

・可とう性ポリシリ樹脂

改修標準4.3.6(2)(ウ)を「プライマーを塗布したのち、シリ材をパテへら等でクワッ

に押し込み、周囲と平滑に仕上げる。」と読み替える。

3

欠損部改修工法

・充填工法

[4.1.4][4.2.8][4.3.5][4.3.9]

充填材料

・ポリシリ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル

・モルタル塗替え工法

[4.1.4][4.3.5][4.3.10]

・現場調査材料

（セメントは本特記仕様書8-1、8-2「セメントの種類」による）

・既調合材料（

仕上り厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の処置

※ステン製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る。

・図示

既製目地材 ・適用する（形状 ※図示 ・） [4.3.5]

4-3

4

浮き部改修工法

モルタルを撤去しない場合 [4.1.4][4.3.5][4.3.11～4.3.16][表4.3.3][表4.3.6]

改修工法の種類

アンカーピンの本数(本/m)

注入口の箇所数(箇所/m)

注入量

一般部

指定部

一般部

指定部

(ml/箇所)

・アンカーピン部分

※16

※25

※25

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・アンカーピン全面

※13

※20

※12

※20

※25

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・

・

・アンカーピン全面

※13

※20

※12

※20

※50

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・

・

アンカーピン

[4.3.5]

材質

※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全径切り加工したもの

4-4

1

既存ポリシリ張りの撤去

・外壁ポリシリ張り全面 ・図示の範囲

撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで

2

ひび割れ部改修工法

改修箇所 ※既存ポリシリ張り面

・既存ポリシリ撤去面（・コンクリート面 ・モルタル面）

・樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5][4.4.2][4.4.6]

注入工法の種類

ひび割れ幅(mm)

注入口間隔(mm)

注入量(ml/m)

※自動式低圧注入法

0.2以上～1.0以下

※200～300

※130

樹脂注入工法

・

・

・手動式注入法

0.2以上～0.3以下

※50～100

※40

樹脂注入工法

0.3超え～0.5以下

※100～200

※70

・機械式注入法

0.5超え～1.0以下

※150～250

※130

樹脂注入工法

・

・

注入材料

[4.3.5]

※建築補修用及び建築補強用ポリシリ樹脂(JIS A6024低粘度形又は中粘度形)

・

検査（コア抜き）

[4.2.5][4.4.6]

※行わない

・行う 抜き取り部の補修方法 [4.2.5][4.4.6]

※充填工法（・ポリシリ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル）

3

欠損部改修工法

・ポリシリ部分張替え工法 [4.1.4][4.4.7]

接着材の種類 [4.4.5]

※ポリマーセメントモルタル

・JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコン樹脂系

・ポリシリ張替え工法 [4.1.4][4.4.8]

張替え用材料

・接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化形成シリコン樹脂系

・張付けモルタル（・現場調査材料 ・既調合モルタル）

伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地 [4.4.8][表4.4.2]

位置 ※改修標準表4.5.1による ・図示

4

浮き部改修工法

モルタルを撤去しない場合 [4.1.4][4.4.4][4.4.5][4.4.9～4.4.15][表4.3.5][表4.3.6]

改修工法の種類

アンカーピンの本数(本/m)

注入口の箇所数(箇所/m)

注入量

一般部

指定部

一般部

指定部

(ml/箇所)

・アンカーピン部分

※16

※25

※25

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・アンカーピン全面

※13

※20

※12

※20

※25

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・

・

・アンカーピン全面

※13

※20

※12

※20

※50

ポリシリ樹脂注入工法

・

・

・

・

・

アンカーピン

[4.4.5]

材質

※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全径切り加工したもの

5

ポリシリ張り

ポリシリの種類 [4.4.5][4.4.7][4.4.8]

施工場所・用途

形状寸法(mm)

耐凍害性

うわぐすり

役物

色

備考

ありなし

施釉

無釉

ありなし

標準

特注

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

・

5

8 鋼製軽量建具
(標準型鋼製軽量
建具を含む)

9 ステンレス製建具

10 木製建具

11 建具用金具

12 自動ドア開閉装置

13 自閉式上吊り
引戸装置

14 重量シャッター

15 軽量シャッター

16 オーバーヘッドドア

17 ガラス

簡易気密型ドアの性能値の適用は建具表による

[5.5.2][5.5.6]

鋼板類の種類

[5.5.3]

・垂鉛めつき鋼板

・ビニル被覆鋼板

・カー鋼板

・ステンレス鋼板

簡易気密型ドアの性能値の適用は建具表による

[5.4.2][5.6.2][表5.4.1]

外部に面する建具の耐風圧性

[5.4.2][5.6.2][表5.2.1]

・S-4

・S-5

・S-6

フラッシュ戸

[5.7.2][5.7.3][表5.7.6]

表面材の種類

・表面材の剥離防止の放散量 ※F☆☆☆☆

・MDFボード

表面材の状態 () 曲げ強さ ()

接着剤 () 難燃性 ()

表面板の厚さ

普通合板(※2.5mm (mm))

天然木化粧合板(※3.2mm (mm))

特殊加工化粧合板(※2.4mm (mm))

かまち戸

[5.7.2][表5.7.3][表5.7.7]

かまちの樹種 ()

鏡板の樹種 ()

ふすまの種別

・I型

・II型

ふすまの上張り

・鳥の子

・新鳥の子

・ビニル紙程度

・雲花紙程度

ふすま縁の仕上げ

・塗り縁

・生地縁

見込み寸法

かまち戸 (※36mm (mm))

ふすま (※19.5mm (mm))

戸ふすま (※30mm (mm))

紙張り障子 (※30mm (mm))

建具材の加工・組立時の含水率 ※A種

・B種

[5.7.2][表5.7.1]

接着剤の剥離防止の放散量 ※F☆☆☆☆

[5.7.2]

くつずりの材料

・枠の材料

[5.7.2]

マナーキー

・製作する (本)

・※製作しない

[5.8.4]

鍵札数量

・※錠前1組に2枚とする

・錠前1組に

枚とする

かざ箱

市販品(鋼製)

形式

・30組用

・60組用

・120組用

・

自動ドアの開閉機構

[5.9.2][表5.9.4]

開閉方法

引き戸用検出装置の種類

・タッチスイッチ

・※光線(反射)センサー

・スイングドア

・音波センサー

・熱線センサー

・光電センサー

・電波センサー

・押しボタンスイッチ

・多機能トイスイッチ

凍結防止措置

※行わない

・行方 ()

[5.9.2]

※適用する (適用建具及び適用位置は図示による)

[5.10.1]

外部に面するシャッターの耐風圧強度 () N/m²

[5.11.2]

開閉機能

※上部電動式(手動併用)

・上部手動式

[5.11.2][表5.11.1]

急降下制動装置、急降下停止装置等を設けた電動シャッターの設置箇所

[5.11.2]

・図示

・

・図示

・

障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所

・図示

・

屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置

・設ける(設置箇所: 図示)

・

一般重量シャッターのシャッターケース

※設ける

・設けない

[5.11.2]

開閉形式

※手動式

・上部電動式(手動併用)

[5.12.2][表5.12.1]

外部に面するシャッターの耐風圧強度 () N/m²

[5.12.2]

スラット

厚さ(mm)

・0.5

・0.6

・0.8

・1.0

[表5.12.2]

材質

※塗装溶融亜鉛めつき鋼板及び鋼帯

[5.12.3]

形状

※インターロック形

・オーバーラップ形

[5.12.4]

ガイドレール等

※鋼板製

・ステンレス製SUS304(厚さ1.5mm)

[表5.12.2]

シャッターケース

厚さ(mm)

・0.4

・

[表5.12.2]

セクション材料

開閉方式

収納形式

ガイドレール

※スチールタイプ

※バネ式

・スリット形

・溶融亜鉛めつき鋼板

・アルミニウムタイプ

・チェーン式

・ローベッド形

※ステンレス鋼板(SUS304)

・ファイバークラスタイプ

・電動式

・ハブリット形

・バーナクル形

耐風圧性能による区分

・50

・75

・100

・125

[5.13.2]

下記以外は、建具表による

[5.14.2]

・合わせガラス

特性による種類

※Ⅱ-1類

・

・強化ガラス

材料板ガラスによる種類

特性による種類

・フロート強化ガラス

・Ⅲ類(曲面はⅠ類)

・型板ガラス

・

・複層ガラス

材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ

・建具表による

品 質

断熱性

日射取得性・遮へい性乾燥気体の種類

・断熱複層ガラス

・T1・T2・T3・G

・空気

・日射熱遮へい複層ガラス

・T4・T5・T6・S

・

・熱線吸収板ガラス

材料板ガラスによる種類

特性による種類

色 調

・熱線吸収フロート板ガラス

・Ⅰ 種

・ブルー・グレー

・熱線吸収網入り磨き板ガラス

・Ⅱ 種

・ブロンズ・グリーン

・熱線反射ガラス

品 質

反射被膜面

材料板ガラスの種類

日射遮へい性

耐久性

映像調整

※熱線反射

※内面

・フロート板ガラス

・1 種

・A 類

※行わ

ガラス

・外面

・熱線吸収フロート板ガラス

・2 種

・B 類

ない

・高性能熱線

・内面

・強化ガラス

・3 種

・行方

反射ガラス

・倍強度ガラス

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称

色 調

※フロート倍強度ガラス

・熱線吸収倍強度ガラス

・グレー

・ブルー

・ブロンズ

・

6 製材

内装改修工事

「製材の日本農林規格」による製材

[6.5.2]

品 名

施工箇所

樹種

等級

形状

含水率

保存処理

材面の品質

・下地用

針葉樹製材

・造作用

針葉樹製材

・広葉樹製材

※2級

・上小節

・小節以上

※1等

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

・A種

・B種

内装改修工事	21 吸音材	<table><tr><td colspan="4">[表6.13.1]</td></tr><tr><td colspan="2">種 類</td><td>記 号</td><td>厚さ(mm)</td></tr><tr><td colspan="2">・ロックウール吸音ボード1号</td><td>RW-B</td><td>※25 ・</td></tr><tr><td colspan="2">※グラスウール吸音ボード32K</td><td>GW-B</td><td>※25 ・</td></tr></table>	[表6.13.1]				種 類		記 号	厚さ(mm)	・ロックウール吸音ボード1号		RW-B	※25 ・	※グラスウール吸音ボード32K		GW-B	※25 ・	29 階段滑止め	<table><tr><td>材 種</td><td colspan="2">※ステンレス(SUS304) ・7#ミニム ・黄銅</td><td>(20.2.7)</td></tr><tr><td>形 状</td><td colspan="2">※ビニル貼付入り ・ビニル貼付無し</td><td></td></tr><tr><td colspan="4">両端ワットエンド ※有り(・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し</td></tr><tr><td>幅(mm)</td><td colspan="3">・50 ・65 ・75 ○35</td></tr><tr><td colspan="4">取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法</td></tr></table>	材 種	※ステンレス(SUS304) ・7#ミニム ・黄銅		(20.2.7)	形 状	※ビニル貼付入り ・ビニル貼付無し			両端ワットエンド ※有り(・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し				幅(mm)	・50 ・65 ・75 ○35			取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法				6 42 しっくい塗り	※施工箇所 <table><tr><td>室 名</td><td>部 位</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table> ※左官業者 新潟県左官業協同組合(平成26年12月31日に解散した新潟県左官同業会を含む。以下、同様。)主催の「漆喰塗り技能者資格講習会」の修了者立ち会いのもとで施工すること。ただし、これによることができない場合は、理由及び施工者を明らかにした書面を提出し、監督員の承諾を受けて施工するものとする。 ※材料、下地、調合、塗り厚、工程及び工法 使用する材料については、材料の品質が確認できる品質規格票(証明書)等を監督員へ提出し、承諾を得たものとする。 上記以外については、「既調合しっくい塗り標準仕様書」(新潟県土木部都市局営繕課)による。	室 名	部 位					7 9 つやや合成樹脂 エマルジョンペイント塗り (EP-G)	<table><tr><td colspan="3">[7.9.2]～[7.9.5][表7.9.1]～[表7.9.4]</td></tr><tr><td>下地の種類</td><td>塗替えの種類</td><td>新規塗りの種類</td></tr><tr><td>コンクリート面、モルタル面等</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>・A種 ※B種</td></tr><tr><td>木部</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>※A種 ・B種 ・C種</td></tr><tr><td>鉄鋼面</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>※A種</td></tr><tr><td>亜鉛めっき鋼面</td><td>※A種 ・B種</td><td>※A種</td></tr></table>	[7.9.2]～[7.9.5][表7.9.1]～[表7.9.4]			下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類	コンクリート面、モルタル面等	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種	木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種 ・C種	鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	※A種	亜鉛めっき鋼面	※A種 ・B種	※A種																																			
	[表6.13.1]																																																																																																						
	種 類		記 号	厚さ(mm)																																																																																																			
	・ロックウール吸音ボード1号		RW-B	※25 ・																																																																																																			
	※グラスウール吸音ボード32K		GW-B	※25 ・																																																																																																			
	材 種	※ステンレス(SUS304) ・7#ミニム ・黄銅		(20.2.7)																																																																																																			
	形 状	※ビニル貼付入り ・ビニル貼付無し																																																																																																					
	両端ワットエンド ※有り(・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し																																																																																																						
	幅(mm)	・50 ・65 ・75 ○35																																																																																																					
	取付け工法 ※接着工法 ・埋込み工法																																																																																																						
室 名	部 位																																																																																																						
[7.9.2]～[7.9.5][表7.9.1]～[表7.9.4]																																																																																																							
下地の種類	塗替えの種類	新規塗りの種類																																																																																																					
コンクリート面、モルタル面等	・A種 ※B種 ・C種	・A種 ※B種																																																																																																					
木部	・A種 ※B種 ・C種	※A種 ・B種 ・C種																																																																																																					
鉄鋼面	・A種 ※B種 ・C種	※A種																																																																																																					
亜鉛めっき鋼面	※A種 ・B種	※A種																																																																																																					
22 壁紙張り	<table><tr><td colspan="4">[6.14.2]</td></tr><tr><td rowspan="2">施工箇所</td><td colspan="3">壁 紙 の 種 類</td><td>防火性能の級別</td><td>備 考</td></tr><tr><td>紙製</td><td>織物</td><td>ビニル</td><td>化学繊維</td><td>無機質</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>※不燃・準不燃・難燃</td></tr><tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>※不燃・準不燃・難燃</td></tr></table>	[6.14.2]				施工箇所	壁 紙 の 種 類			防火性能の級別	備 考	紙製	織物	ビニル	化学繊維	無機質		・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃		・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃	30 階段手すり	<table><tr><td colspan="2">種 類</td><td>施工箇所</td></tr><tr><td colspan="2">※集成材クリacker仕上げ(市販品 径 約45mm又は約60mm)</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">・ビニル製ハンドレール(幅 約50mm)</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">・</td><td></td></tr></table>	種 類		施工箇所	※集成材クリacker仕上げ(市販品 径 約45mm又は約60mm)			・ビニル製ハンドレール(幅 約50mm)			・			7 1 塗装業者	※塗装工事は、以下のいずれかの施工業者(元請業者又は一次下請業者に限る)による施工とする。 ○新潟県内に主たる事業所を置く事業者であり、かつ以下のいずれかの資格を有する者が所属している事業者。なお、当該資格を有する者が本工事の施工に関与することとする。契約後、証する資料の写しを提出し監督員の確認を受けること。 ・建築仕上げ改修施工管理技術者〔(一財)建築保全センター〕 ・登録建設塗装基幹技能者〔(一社)日本塗装工業会〕 ○(一社)日本塗装工業会会員	7 10 合成樹脂 エマルジョンペイント塗り (EP)	<table><tr><td>塗替えの種類</td><td>・A種 ※B種 ・C種</td><td>[7.10.2][表7.10.1]</td></tr><tr><td>新規塗りの種類</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr></table>	塗替えの種類	・A種 ※B種 ・C種	[7.10.2][表7.10.1]	新規塗りの種類	・A種 ※B種		7 11 ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	<table><tr><td>塗替えの種類</td><td>・A種 ※B種</td><td>[7.11.2][表7.11.1]</td></tr><tr><td>新規塗りの種類</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr></table>	塗替えの種類	・A種 ※B種	[7.11.2][表7.11.1]	新規塗りの種類	・A種 ※B種																																										
[6.14.2]																																																																																																							
施工箇所	壁 紙 の 種 類			防火性能の級別	備 考																																																																																																		
	紙製	織物	ビニル	化学繊維	無機質																																																																																																		
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																																	
	・	・	・	・	・	※不燃・準不燃・難燃																																																																																																	
種 類		施工箇所																																																																																																					
※集成材クリacker仕上げ(市販品 径 約45mm又は約60mm)																																																																																																							
・ビニル製ハンドレール(幅 約50mm)																																																																																																							
・																																																																																																							
塗替えの種類	・A種 ※B種 ・C種	[7.10.2][表7.10.1]																																																																																																					
新規塗りの種類	・A種 ※B種																																																																																																						
塗替えの種類	・A種 ※B種	[7.11.2][表7.11.1]																																																																																																					
新規塗りの種類	・A種 ※B種																																																																																																						
23 モルタル塗り	モルタル ○現場調合材料 (セメントは本特記仕様書8-1、8-2「セメントの種類」による) ・既調合材料 既製目地材 ※適用しない ・適用する(形状は図示による) [6.15.3] 仕上り厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 [6.15.5][4.3.10]	31 黒板及び ホワイトボード	<table><tr><td>種類</td><td>区分</td><td>種類</td><td>寸法(mm)</td><td>備 考</td></tr><tr><td>・黒板</td><td>※焼付け ・</td><td>・鋼製</td><td></td><td>※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td></tr><tr><td>・ホワイトボード</td><td>・</td><td>・</td><td></td><td>※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分</td></tr></table>	種類	区分	種類	寸法(mm)	備 考	・黒板	※焼付け ・	・鋼製		※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	・ホワイトボード	・	・		※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分	7 12 ステン塗り	<p>[7.12.2][表7.12.1]</p> <table><tr><td>種 別</td><td>適 用 箇 所</td><td>塗 料</td></tr><tr><td>・ビグメントステイン塗り</td><td>・</td><td>・油性 ・水性</td></tr><tr><td>・オイルステイン塗り(OS)</td><td>・</td><td>・油性 ・水性</td></tr></table>	種 別	適 用 箇 所	塗 料	・ビグメントステイン塗り	・	・油性 ・水性	・オイルステイン塗り(OS)	・	・油性 ・水性	7 13 木材保護塗料塗り (WP)	<table><tr><td>塗替えの種類</td><td>・A種 ※B種</td><td>[7.13.2][表7.13.1]</td></tr><tr><td>新規塗りの種類</td><td>・A種 ※B種</td><td></td></tr></table>	塗替えの種類	・A種 ※B種	[7.13.2][表7.13.1]	新規塗りの種類	・A種 ※B種																																																																			
種類	区分	種類	寸法(mm)	備 考																																																																																																			
・黒板	※焼付け ・	・鋼製		※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																																																																																																			
・ホワイトボード	・	・		※平面 ・曲面 ・スクリーン付引分																																																																																																			
種 別	適 用 箇 所	塗 料																																																																																																					
・ビグメントステイン塗り	・	・油性 ・水性																																																																																																					
・オイルステイン塗り(OS)	・	・油性 ・水性																																																																																																					
塗替えの種類	・A種 ※B種	[7.13.2][表7.13.1]																																																																																																					
新規塗りの種類	・A種 ※B種																																																																																																						
24 タイル	<table><tr><td colspan="7">[6.16.3]</td></tr><tr><td>タイルの種類</td><td>形状寸法(mm)</td><td>耐凍害性</td><td>うわぐすり</td><td>役 物</td><td>色</td><td>備 考</td></tr><tr><td>施工場所・用途</td><td></td><td>あり なし</td><td>施釉 無釉</td><td>あり なし</td><td>標準 特注</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> タイルの試験張り ※行わない ・行う [6.16.2] タイルの見本焼き ※行わない ・行う [6.16.2] コンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 ・ [6.16.3] 壁タイル張りの工法 [6.15.5][6.16.3][6.16.4][表6.16.4][表6.16.6] 内装タイル ※タイル接着剤張り ・密着張り ・改良圧着張り ユニットタイル(内装タイル以外) ・マスウ張り ・モザイクタイル張り	[6.16.3]							タイルの種類	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり	役 物	色	備 考	施工場所・用途		あり なし	施釉 無釉	あり なし	標準 特注				・	・	・	・	・			・	・	・	・	・			・	・	・	・	・			・	・	・	・	・	33 ブラインド	<p>・既存再使用する(養生方法：) [2.3.1][5.1.6]</p> <p>・新設する (20.2.14)</p> <table><tr><td>形 式</td><td>種 類</td><td colspan="2">スラットの材質</td><td>スラットの幅(mm)</td></tr><tr><td>※横形</td><td>※ギア式 ・コード式</td><td colspan="2">※7#ミニウム合金製</td><td>※25 ・35</td></tr><tr><td></td><td>・操作棒式</td><td colspan="2">・樹脂製 ・木製</td><td>・100</td></tr><tr><td>・縦形</td><td>・1本操作コード</td><td colspan="2">・焼付け塗装仕上げの7#ミニウムスラット</td><td>・80</td></tr><tr><td></td><td>※2本操作コード</td><td colspan="2">・特殊防炎加工のガラススラット</td><td>・100</td></tr></table>	形 式	種 類	スラットの材質		スラットの幅(mm)	※横形	※ギア式 ・コード式	※7#ミニウム合金製		※25 ・35		・操作棒式	・樹脂製 ・木製		・100	・縦形	・1本操作コード	・焼付け塗装仕上げの7#ミニウムスラット		・80		※2本操作コード	・特殊防炎加工のガラススラット		・100	7 14 カリカリ反応性による区分	<p>[8.1.3][表8.1.1]</p> <p>※Ⅰ類 ・Ⅱ類</p> <p>普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.3][8.1.4]</p> <p>設計基準強度F_c(N/mm²)</p> <table><tr><td>適 用 箇 所</td><td>スランプ</td></tr><tr><td>※24</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・</td></tr></table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ a種 ・b種 ・c種 [8.1.4][表8.1.5]</p> <p>[8.2.1][表8.2.1]</p> <table><tr><td>種類の記号</td><td>呼 び 名 (mm)</td></tr><tr><td>○SD295</td><td>○D16以下</td></tr><tr><td>○SD345</td><td>○D19以上</td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr></table>	適 用 箇 所	スランプ	※24	・	・	・	種類の記号	呼 び 名 (mm)	○SD295	○D16以下	○SD345	○D19以上	・		7 15 鉄骨の工作図	あと施工アンカーの材料 ・金属拡張アンカー ※接着系アンカー カワセムの種類 ※有機系	7 16 鉄骨の工作図	※普通ｶﾞｰﾙﾗﾝﾄﾞセﾒﾝﾄ、高炉セメントA種、ｼﾘｶﾒﾝﾄA種又はﾌﾗｲｱｯｼｭセﾒﾝﾄA種 ・普通工コセメント ・高炉セメントB種(適用箇所：) ・ﾌﾗｲｱｯｼｭセﾒﾝﾄB種(適用箇所：) 普通ｶﾞｰﾙﾗﾝﾄﾞセﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 <table><tr><td>水和熱</td><td>7 d</td><td>352J/g以下</td></tr><tr><td></td><td>2 8 d</td><td>402J/g以下</td></tr></table>	水和熱	7 d	352J/g以下		2 8 d	402J/g以下
[6.16.3]																																																																																																							
タイルの種類	形状寸法(mm)	耐凍害性	うわぐすり	役 物	色	備 考																																																																																																	
施工場所・用途		あり なし	施釉 無釉	あり なし	標準 特注																																																																																																		
		・	・	・	・	・																																																																																																	
		・	・	・	・	・																																																																																																	
		・	・	・	・	・																																																																																																	
		・	・	・	・	・																																																																																																	
形 式	種 類	スラットの材質		スラットの幅(mm)																																																																																																			
※横形	※ギア式 ・コード式	※7#ミニウム合金製		※25 ・35																																																																																																			
	・操作棒式	・樹脂製 ・木製		・100																																																																																																			
・縦形	・1本操作コード	・焼付け塗装仕上げの7#ミニウムスラット		・80																																																																																																			
	※2本操作コード	・特殊防炎加工のガラススラット		・100																																																																																																			
適 用 箇 所	スランプ																																																																																																						
※24	・																																																																																																						
・	・																																																																																																						
種類の記号	呼 び 名 (mm)																																																																																																						
○SD295	○D16以下																																																																																																						
○SD345	○D19以上																																																																																																						
・																																																																																																							
水和熱	7 d	352J/g以下																																																																																																					
	2 8 d	402J/g以下																																																																																																					
25 フリーアクセスフロア	<p>(20.2.2)</p> <table><tr><td>施工箇所</td><td>構 法</td><td>仕上り高(mm)</td><td>適用地震時水平力</td><td>耐荷重性能</td><td>表面仕上げ材</td></tr><tr><td></td><td>・ﾊﾙ構法</td><td>・</td><td>・1.0G</td><td>・3,000N</td><td>・帯電防止床タイル</td></tr><tr><td></td><td>・溝構法</td><td>※50未満</td><td>・0.6G</td><td>・5,000N</td><td>・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ</td></tr><tr><td></td><td>・ﾊﾙ構法</td><td>・</td><td>・1.0G</td><td>・3,000N</td><td>・帯電防止床タイル</td></tr><tr><td></td><td>・溝構法</td><td>※50未満</td><td>・0.6G</td><td>・5,000N</td><td>・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ</td></tr></table> <p>注1：耐荷重性能5,000Nについては、国土交通省の建設技術評価「耐震型フリーアクセスフロアの開発」において評価を取得したもの又は同等のものとする。</p> <p>注2：表面仕上げ材の品質・規格等は、13 帯電防止床タイル張り、16 カーペット敷きによる。</p>	施工箇所	構 法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材		・ﾊﾙ構法	・	・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル		・溝構法	※50未満	・0.6G	・5,000N	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ		・ﾊﾙ構法	・	・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル		・溝構法	※50未満	・0.6G	・5,000N	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ	34 プライントボックス 及びカーテンボックス	<p>[5.1.6]</p> <p>・既存再使用する</p> <p>・新設する</p> <p>※市販品(7#ミニウム製 押出し型材)</p> <table><tr><td>使用区分</td><td colspan="2">溝幅×深さ(mm)</td></tr><tr><td>・横形「ブラインド」</td><td>※90×150</td><td>・120×150 ・</td></tr><tr><td>・縦形「ブラインド」</td><td>※120×80</td><td>・150×80 ・</td></tr><tr><td>・カーテン(又はレール共)</td><td>※150×80</td><td>・180×80 ・</td></tr><tr><td>・カーテン+横形「ブラインド」</td><td>※180×150</td><td>・</td></tr></table> <p>色彩 ・B-1 ・B-2 (・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー)</p> <p>・図示</p>	使用区分	溝幅×深さ(mm)		・横形「ブラインド」	※90×150	・120×150 ・	・縦形「ブラインド」	※120×80	・150×80 ・	・カーテン(又はレール共)	※150×80	・180×80 ・	・カーテン+横形「ブラインド」	※180×150	・	7 17 鉄骨の継手	※重ね継手 ・ [8.3.4][表8.3.3]																																																					
施工箇所	構 法	仕上り高(mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材																																																																																																		
	・ﾊﾙ構法	・	・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル																																																																																																		
	・溝構法	※50未満	・0.6G	・5,000N	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ																																																																																																		
	・ﾊﾙ構法	・	・1.0G	・3,000N	・帯電防止床タイル																																																																																																		
	・溝構法	※50未満	・0.6G	・5,000N	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ																																																																																																		
使用区分	溝幅×深さ(mm)																																																																																																						
・横形「ブラインド」	※90×150	・120×150 ・																																																																																																					
・縦形「ブラインド」	※120×80	・150×80 ・																																																																																																					
・カーテン(又はレール共)	※150×80	・180×80 ・																																																																																																					
・カーテン+横形「ブラインド」	※180×150	・																																																																																																					
26 可動間仕切	<p>(20.2.3)</p> <table><tr><td>構造形式</td><td>ﾊﾙ部の総厚さ(mm)</td><td>表面材種厚さ(mm)</td><td>ﾊﾙ部表面仕上げ</td><td>遮音性(JISによる記号)</td></tr><tr><td>※ﾊﾙ式</td><td>・</td><td>※鋼板</td><td>・メラミン樹脂焼付け</td><td>・有り</td></tr><tr><td>・ｽﾀｯﾄﾞ式</td><td>・</td><td>※0.6 ・0.8</td><td>・ﾌﾞﾗｯｸﾞ樹脂焼付け</td><td>・</td></tr><tr><td>・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾙ式</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table> <p>不燃材料の認定 ・有り</p>	構造形式	ﾊﾙ部の総厚さ(mm)	表面材種厚さ(mm)	ﾊﾙ部表面仕上げ	遮音性(JISによる記号)	※ﾊﾙ式	・	※鋼板	・メラミン樹脂焼付け	・有り	・ｽﾀｯﾄﾞ式	・	※0.6 ・0.8	・ﾌﾞﾗｯｸﾞ樹脂焼付け	・	・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾙ式	・	・	・	・	36 カーテン及び カーテンレール	<p>[2.3.1][5.1.6]</p> <p>カーテン</p> <p>・既存再利用する(養生方法：) [2.3.1][5.1.6]</p> <p>・新設する (20.2.16)(表20.2.1)</p> <table><tr><td>取付箇所</td><td>形 式</td><td>開閉操作方式</td><td>ひだの種類</td><td>きれ地の種類、品質、特殊加工品</td></tr><tr><td>・</td><td>・シングル・片引き</td><td>・手引き</td><td>・箱ひだ、つまみひだ</td><td>・</td></tr><tr><td>・</td><td>・ダブル・引分け</td><td>・ひも引き</td><td>・ブレンひだ、片ひだ</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td>・電動</td><td></td><td></td></tr></table> <p>暗幕用カーテンの両端、上部及び召合せの重なり ※300mm以上 ・</p> <p>カーテンレール</p> <p>・既存再使用する [5.1.6]</p> <p>・新設する (20.2.16)</p> <table><tr><td>強さによる区分</td><td>材 料</td><td>仕 上 げ</td><td>形 状</td></tr><tr><td>※10-90</td><td>※7#ミニウム製</td><td>※7#ミニウム</td><td>※角形</td></tr><tr><td>・</td><td>・ステンレス製</td><td>・</td><td>・</td></tr></table>	取付箇所	形 式	開閉操作方式	ひだの種類	きれ地の種類、品質、特殊加工品	・	・シングル・片引き	・手引き	・箱ひだ、つまみひだ	・	・	・ダブル・引分け	・ひも引き	・ブレンひだ、片ひだ	・			・電動			強さによる区分	材 料	仕 上 げ	形 状	※10-90	※7#ミニウム製	※7#ミニウム	※角形	・	・ステンレス製	・	・	7 18 鉄骨の最小かぶり厚さ	[8.3.5][表8.3.6] 最小かぶり厚さは、目地底から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 <table><tr><td>施 工 箇 所</td><td>改修仕様表8.3.6の値に加える寸法(mm)</td></tr><tr><td>柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面</td><td>※10 ・</td></tr></table>	施 工 箇 所	改修仕様表8.3.6の値に加える寸法(mm)	柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※10 ・																																										
構造形式	ﾊﾙ部の総厚さ(mm)	表面材種厚さ(mm)	ﾊﾙ部表面仕上げ	遮音性(JISによる記号)																																																																																																			
※ﾊﾙ式	・	※鋼板	・メラミン樹脂焼付け	・有り																																																																																																			
・ｽﾀｯﾄﾞ式	・	※0.6 ・0.8	・ﾌﾞﾗｯｸﾞ樹脂焼付け	・																																																																																																			
・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾙ式	・	・	・	・																																																																																																			
取付箇所	形 式	開閉操作方式	ひだの種類	きれ地の種類、品質、特殊加工品																																																																																																			
・	・シングル・片引き	・手引き	・箱ひだ、つまみひだ	・																																																																																																			
・	・ダブル・引分け	・ひも引き	・ブレンひだ、片ひだ	・																																																																																																			
		・電動																																																																																																					
強さによる区分	材 料	仕 上 げ	形 状																																																																																																				
※10-90	※7#ミニウム製	※7#ミニウム	※角形																																																																																																				
・	・ステンレス製	・	・																																																																																																				
施 工 箇 所	改修仕様表8.3.6の値に加える寸法(mm)																																																																																																						
柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※10 ・																																																																																																						
27 移動間仕切	<p>(20.2.4)</p> <table><tr><td>遮音性能区分</td><td>厚さ(mm)</td><td>表面材</td><td>表面仕上げ</td><td>操作方法</td></tr><tr><td>・一般タイプ</td><td>・</td><td>※鋼板</td><td>・焼付け塗装</td><td>・手動式 ・電動式</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・部分電動式</td></tr><tr><td>・遮音タイプ</td><td>・</td><td>※鋼板</td><td>・焼付け塗装</td><td>・手動式 ・電動式</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・部分電動式</td></tr></table>	遮音性能区分	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法	・一般タイプ	・	※鋼板	・焼付け塗装	・手動式 ・電動式					・部分電動式	・遮音タイプ	・	※鋼板	・焼付け塗装	・手動式 ・電動式					・部分電動式	37 天井点検口	<table><tr><td>目地形状</td><td>適 用 箇 所</td><td>寸 法 (mm)</td></tr><tr><td>・額縁タイプ</td><td>下記以外全て</td><td>※450×450</td></tr><tr><td>・目地タイプ</td><td>※図示</td><td>・600×600</td></tr><tr><td colspan="3">・天井仕上げ材がDRの範囲</td></tr></table>	目地形状	適 用 箇 所	寸 法 (mm)	・額縁タイプ	下記以外全て	※450×450	・目地タイプ	※図示	・600×600	・天井仕上げ材がDRの範囲			7 19 鉄骨の工作図	高力ボルト及び普通ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2] ※建築工事監理指針による ・図示																																																													
遮音性能区分	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	操作方法																																																																																																			
・一般タイプ	・	※鋼板	・焼付け塗装	・手動式 ・電動式																																																																																																			
				・部分電動式																																																																																																			
・遮音タイプ	・	※鋼板	・焼付け塗装	・手動式 ・電動式																																																																																																			
				・部分電動式																																																																																																			
目地形状	適 用 箇 所	寸 法 (mm)																																																																																																					
・額縁タイプ	下記以外全て	※450×450																																																																																																					
・目地タイプ	※図示	・600×600																																																																																																					
・天井仕上げ材がDRの範囲																																																																																																							
28 トイレブース	表面仕上げの壁紙張りの品質 22壁紙張りによる。 遮音性能 ※36dB/500Hz以上 ・36dB/500Hz未満 パネル圧接装置操作方法 ※製造所標準仕様 ・	38 床下点検口	<table><tr><td>本体の材質</td><td>目地の材質</td><td>適用箇所</td><td>寸法(mm)</td></tr><tr><td>※7#ミニウム製</td><td>※7#ミニウム ・ステンレス ・黄銅</td><td>下記以外全て</td><td>※600×600</td></tr><tr><td>・ステンレス製</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr></table>	本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法(mm)	※7#ミニウム製	※7#ミニウム ・ステンレス ・黄銅	下記以外全て	※600×600	・ステンレス製	・	・	・	7 20 鉄骨の工作図	高力ボルト及び普通ボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 [8.13.2] ※建築工事監理指針による ・図示																																																																																						
本体の材質	目地の材質	適用箇所	寸法(mm)																																																																																																				
※7#ミニウム製	※7#ミニウム ・ステンレス ・黄銅	下記以外全て	※600×600																																																																																																				
・ステンレス製	・	・	・																																																																																																				

8-2 耐震改修工事	1	コンクリートの類別及び強度、品質	レディーミストコンクリートの類別 ※Ⅰ類 ・Ⅱ類	[8. 1. 3][表8. 1. 1]	8-2	耐震改修工事	14	連続繊維シート巻き	材料・形状 採用した工法の規定を満足するもの 材質 引張り強度(含浸硬化後) ・2500N/mm ² 以上 ・3000N/mm ² 以上 ヤング係数(含浸硬化後) ・2.35×10 ⁴ N/mm ² 程度 ・2.00×10 ⁴ N/mm ² 以上 工法 ※(一財)日本建築防災協会の評価を受けた工法 ・ 下地調整 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 柱及び梁の隅角部の面取り ※工法の評価内容による ・ 継手工法 継手方法 呼び名(mm) 適用箇所 ・ガス圧接 ・重ね継手 ・ 柱の配筋 帯筋の組立ての形 ※各部配筋参考図2.2による 種別 ※H形 ・W-I形 ・図示	[8. 2. 13]	8-2	耐震改修工事	27	耐火被覆	種 別 所要性能及び適用構造区分 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックール ・半乾式吹付けロックール ・湿式ロックール ・ ・耐火板張り ・耐火材巻付け ・5mm張りモルタル塗り ・耐火塗料 耐火性能 ※建築基準法の規定に基づく所定の性能を有すること。 摩擦面の処理 ※プラスト処理 ・りん酸塩処理 目荒らしの程度 ※柱・梁面 打継ぎ面の15～30%程度 ※増打ち壁増設 既存壁打継ぎ面の10～15%程度 ※平均深さ2～5mm(最大5～7mm)程度の凹部を施す ・監督員の指示による ・構造標準図による 工法の種類 ※流し込み工法 ・圧入工法 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む ・図示 幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8. 18. 2]	9	環境配慮改修工事	①	石綿含有建材の処理	※建築物の解体工事、アスベスト除去について、以下の基準を適用する。 ・建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にはばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針(令和6年1月31日付け 技術上の指針公示第25号) ・建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル 令和6年2月(厚生労働省、環境省) ・新石綿技術指針対応版 石綿粉じんへのばく露防止マニュアル(建設業労働災害防止協会)	9	②	石綿含有吹付け材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.3による。	[9.1.3]	9	③	石綿含有保温材等の除去	除去工法 ※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。 ・掻き落とし・破砕・切断等による除去を行う。 ※9.1.3 [石綿含有吹付け材の除去]により、作業場を隔離する。	[9.1.4]	9	④	石綿含有成形板等の除去	養生等 建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で塞ぐ。 作業場所周辺の養生(養生シート等) ・行う ・行わない 石綿含有成形板の種類 材 料 名 使用 部 位 厚 さ(mm) 備 考 ※上記以外にアスベスト含有が疑われる建材があった場合は、速やかに監督員と協議すること。 除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。 除去した石綿等の処分等 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.5][9.1.3～9.1.6]	9	⑤	石綿含有仕上塗材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。	[9.1.6]	9	⑥	除去した石綿等の処分等	除去した石綿等の処分 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.6]	9	⑦	外断熱改修	外装材の種類 施 工 箇 所 防火性能 備 考 断熱材の種類 ・ (厚さ： mm) 既存外壁材の撤去 ・行う ・行わない 下地面の清掃 ・行う ・行わない 断熱材を設置する部分の下地に欠損部がある場合 ※4.1.4 [外壁改修工法の種類]による 建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を 改修標準仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。 不陸等の下地調整 ・ 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による ・ 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による ・ 通気層 ・設ける(厚さ： mm) ・設けない 外装材の外壁への取付け ・図示 ・	[9.2.2][9.2.2][9.2.3][9.2.3][9.2.4]	9	⑧	ガラス改修	本特記仕様 5 建具改修工事 17 ガラスによる	9	⑨	断熱・防露改修	断熱材打込み工法の材料 ・ビーズ法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・※ポリスチレンフォーム断熱材 ・A種1又はA種1Hとし、難燃性を有するものとする。(吹付け厚さ mm) 工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.3.2][9.4.3][9.4.3][9.4.4]	9	⑩	透水性アスファルト舗装改修	既存舗装の撤去 舗 装 撤 去 箇 所 再 利 用 す る 層 工事番号 公セ工補第7-機高-5号 図面番号 A0- 5 工事名 下水道センター耐水化対策(建築)工事 施工地名 上越市大字藤野新田 図面名 排水設備・砂ろ過機・汚泥濃縮機 簡易室・水処理機 簡易室 耐水化改修特記仕様書(5) 縮 尺 — 設計年月日 令和 7 年 2 月 2 8 日 新潟県上越市	[9.5.2]																																
	2	鉄骨製作工場	・監督員の承諾する製作工場 ・建築基準法第77条の4第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた 財団法人鉄骨評価センター又は 財団法人鉄骨評価機構の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「 グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場	[8.1.5]	15	鉄筋の継手	継手工法 継手方法 呼び名(mm) 適用箇所 ・ガス圧接 ・重ね継手 ・ 柱の配筋 帯筋の組立ての形 ※各部配筋参考図2.2による 種別 ※H形 ・W-I形 ・図示	[8.3.4]	28	溶融亜鉛メッキ高力ボルト接合	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.20.5]	29	既存コンクリート面の目荒し	目荒らしの程度 ※柱・梁面 打継ぎ面の15～30%程度 ※増打ち壁増設 既存壁打継ぎ面の10～15%程度 ※平均深さ2～5mm(最大5～7mm)程度の凹部を施す ・監督員の指示による ・構造標準図による 工法の種類 ※流し込み工法 ・圧入工法 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む ・図示 幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.21.3]	30		増設・補強工事のコンクリートの打込み	工法の種類 ※流し込み工法 ・圧入工法 溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 柱頭柱脚の隙間部間の型枠 ※ポリスチレンフォーム保温材等を埋込む ・図示 幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.21.8][8.23.5]	31	柱補強	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.23.5]	32	耐震スリットの施工	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.25.2]	①	石綿含有建材の処理	石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹付け材、成形版、建築材料等の使用の有無について調査するとともに記録の写しを現場に備え置く。また、発注者への説明、関係法令等に基づき官公署へ報告を行う。 調査範囲 ・ ・図示 貸与資料 ・ 分析による石綿含有建材の調査 ・行う ○行わない 分析方法 <table><tr><th rowspan="2">材 料 名</th><th colspan="2">定性分析方法</th><th colspan="2">定量分析方法</th></tr><tr><th>・JIS A 1481-1</th><th>・JIS A 1481-3</th><th>・JIS A 1481-2</th><th>・JIS A 1481-4</th></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> その他、石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(厚生労働省)による	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	[9.1.1]	②	石綿含有吹付け材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.3による。	[9.1.3]	③	石綿含有保温材等の除去	除去工法 ※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。 ・掻き落とし・破砕・切断等による除去を行う。 ※9.1.3 [石綿含有吹付け材の除去]により、作業場を隔離する。	[9.1.4]	④	石綿含有成形板等の除去	養生等 建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で塞ぐ。 作業場所周辺の養生(養生シート等) ・行う ・行わない 石綿含有成形板の種類 材 料 名 使用 部 位 厚 さ(mm) 備 考 ※上記以外にアスベスト含有が疑われる建材があった場合は、速やかに監督員と協議すること。 除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。 除去した石綿等の処分等 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.5][9.1.3～9.1.6]	⑤	石綿含有仕上塗材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。	[9.1.6]	⑥	除去した石綿等の処分等	除去した石綿等の処分 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.6]	⑦	外断熱改修	外装材の種類 施 工 箇 所 防火性能 備 考 断熱材の種類 ・ (厚さ： mm) 既存外壁材の撤去 ・行う ・行わない 下地面の清掃 ・行う ・行わない 断熱材を設置する部分の下地に欠損部がある場合 ※4.1.4 [外壁改修工法の種類]による 建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を 改修標準仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。 不陸等の下地調整 ・ 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による ・ 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による ・ 通気層 ・設ける(厚さ： mm) ・設けない 外装材の外壁への取付け ・図示 ・	[9.2.2][9.2.2][9.2.3][9.2.3][9.2.4]	⑧	ガラス改修	本特記仕様 5 建具改修工事 17 ガラスによる	9	⑨	断熱・防露改修	断熱材打込み工法の材料 ・ビーズ法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・※ポリスチレンフォーム断熱材 ・A種1又はA種1Hとし、難燃性を有するものとする。(吹付け厚さ mm) 工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.3.2][9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑩	屋上緑化改修	工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑪	透水性アスファルト舗装改修	既存舗装の撤去 舗 装 撤 去 箇 所 再 利 用 す る 層 工事番号 公セ工補第7-機高-5号 図面番号 A0- 5 工事名 下水道センター耐水化対策(建築)工事 施工地名 上越市大字藤野新田 図面名 排水設備・砂ろ過機・汚泥濃縮機 簡易室・水処理機 簡易室 耐水化改修特記仕様書(5) 縮 尺 — 設計年月日 令和 7 年 2 月 2 8 日 新潟県上越市	[9.5.2]
	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法																																																																																													
		・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4																																																																																												
		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																												
	3	施工管理技術者	※適用する	[8.1.6]	16	鉄筋の最小かぶり厚さ	最小かぶり厚さは、目地底から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋のかぶり厚さは下表による。 <table><tr><th>施 工 箇 所</th><th>改修標準仕8.3.6の値に加える寸法(mm)</th></tr><tr><td>柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面</td><td>※10</td></tr></table>	施 工 箇 所	改修標準仕8.3.6の値に加える寸法(mm)	柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※10	[8.3.5][表8.3.6]	31	柱補強	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.23.5]	32		耐震スリットの施工	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.25.2]	①	石綿含有建材の処理	石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹付け材、成形版、建築材料等の使用の有無について調査するとともに記録の写しを現場に備え置く。また、発注者への説明、関係法令等に基づき官公署へ報告を行う。 調査範囲 ・ ・図示 貸与資料 ・ 分析による石綿含有建材の調査 ・行う ○行わない 分析方法 <table><tr><th rowspan="2">材 料 名</th><th colspan="2">定性分析方法</th><th colspan="2">定量分析方法</th></tr><tr><th>・JIS A 1481-1</th><th>・JIS A 1481-3</th><th>・JIS A 1481-2</th><th>・JIS A 1481-4</th></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> その他、石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(厚生労働省)による	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	[9.1.1]	②	石綿含有吹付け材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.3による。	[9.1.3]	③	石綿含有保温材等の除去	除去工法 ※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。 ・掻き落とし・破砕・切断等による除去を行う。 ※9.1.3 [石綿含有吹付け材の除去]により、作業場を隔離する。	[9.1.4]	④	石綿含有成形板等の除去	養生等 建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で塞ぐ。 作業場所周辺の養生(養生シート等) ・行う ・行わない 石綿含有成形板の種類 材 料 名 使用 部 位 厚 さ(mm) 備 考 ※上記以外にアスベスト含有が疑われる建材があった場合は、速やかに監督員と協議すること。 除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。 除去した石綿等の処分等 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.5][9.1.3～9.1.6]	⑤	石綿含有仕上塗材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。	[9.1.6]	⑥	除去した石綿等の処分等	除去した石綿等の処分 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.6]	⑦	外断熱改修	外装材の種類 施 工 箇 所 防火性能 備 考 断熱材の種類 ・ (厚さ： mm) 既存外壁材の撤去 ・行う ・行わない 下地面の清掃 ・行う ・行わない 断熱材を設置する部分の下地に欠損部がある場合 ※4.1.4 [外壁改修工法の種類]による 建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を 改修標準仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。 不陸等の下地調整 ・ 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による ・ 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による ・ 通気層 ・設ける(厚さ： mm) ・設けない 外装材の外壁への取付け ・図示 ・	[9.2.2][9.2.2][9.2.3][9.2.3][9.2.4]	⑧	ガラス改修	本特記仕様 5 建具改修工事 17 ガラスによる	9	⑨	断熱・防露改修	断熱材打込み工法の材料 ・ビーズ法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・※ポリスチレンフォーム断熱材 ・A種1又はA種1Hとし、難燃性を有するものとする。(吹付け厚さ mm) 工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.3.2][9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑩	屋上緑化改修	工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑪	透水性アスファルト舗装改修	既存舗装の撤去 舗 装 撤 去 箇 所 再 利 用 す る 層 工事番号 公セ工補第7-機高-5号 図面番号 A0- 5 工事名 下水道センター耐水化対策(建築)工事 施工地名 上越市大字藤野新田 図面名 排水設備・砂ろ過機・汚泥濃縮機 簡易室・水処理機 簡易室 耐水化改修特記仕様書(5) 縮 尺 — 設計年月日 令和 7 年 2 月 2 8 日 新潟県上越市	[9.5.2]								
	施 工 箇 所	改修標準仕8.3.6の値に加える寸法(mm)																																																																																															
	柱、梁、壁及び底などの外気に接する打放し面	※10																																																																																															
材 料 名	定性分析方法		定量分析方法																																																																																														
	・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													
4	鉄筋の種類	種類の記号 呼 び 名 (mm) ・SD295 ・D16以下 ・SD345 ・D19以上 ・	[8.2.1][表8.2.1]	17	打増し壁に用いるコンクリート	現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いる既存部とのコンクリート種類 ※「6 あと施工コンクリートの材料」による 間隔(mm) ※500×500 ・図示	[8.3.7]	31	柱補強	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.23.5]	32	耐震スリットの施工	幅 ※30mm～50mm程度 ・ 長さ ※300mm以上 形状 ※完全スリット(※既存鉄筋切断 ・既存鉄筋を 本残す) ・部分スリット(既存コンクリートを厚さ50mm程度残す) 撤去部の補修 ・撤去材と同一材 ※無収縮モルタル(圧縮強度30N/mm ² 以上)	[8.25.2]	①	石綿含有建材の処理	石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹付け材、成形版、建築材料等の使用の有無について調査するとともに記録の写しを現場に備え置く。また、発注者への説明、関係法令等に基づき官公署へ報告を行う。 調査範囲 ・ ・図示 貸与資料 ・ 分析による石綿含有建材の調査 ・行う ○行わない 分析方法 <table><tr><th rowspan="2">材 料 名</th><th colspan="2">定性分析方法</th><th colspan="2">定量分析方法</th></tr><tr><th>・JIS A 1481-1</th><th>・JIS A 1481-3</th><th>・JIS A 1481-2</th><th>・JIS A 1481-4</th></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr><tr><td></td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td><td>・ 箇所</td></tr></table> その他、石綿則に基づく事前調査のアスベスト分析マニュアル(厚生労働省)による	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所		・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	[9.1.1]	②	石綿含有吹付け材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.3による。	[9.1.3]	③	石綿含有保温材等の除去	除去工法 ※粉じん飛散抑制剤等による湿潤化の後、手ばらしで行う。 ・掻き落とし・破砕・切断等による除去を行う。 ※9.1.3 [石綿含有吹付け材の除去]により、作業場を隔離する。	[9.1.4]	④	石綿含有成形板等の除去	養生等 建物内部で除去を行う場合、除去作業場所と他の場所を隔てるため、開閉部位(出入口、換気口、窓等)は閉とし、ガラスの破損箇所等で開となっている部位を養生シート等で塞ぐ。 作業場所周辺の養生(養生シート等) ・行う ・行わない 石綿含有成形板の種類 材 料 名 使用 部 位 厚 さ(mm) 備 考 ※上記以外にアスベスト含有が疑われる建材があった場合は、速やかに監督員と協議すること。 除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。 除去した石綿等の処分等 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.5][9.1.3～9.1.6]	⑤	石綿含有仕上塗材の除去	除去工法 ※改修標準仕9.1.6による。	[9.1.6]	⑥	除去した石綿等の処分等	除去した石綿等の処分 ※各種廃棄物分類に応じた最終処分場で埋立処分 ・中間処理 ・アスベストの中間処理に適する溶融施設において溶融処理 ・大臣認定を受けた無害化処理施設において無害化処理	[9.1.6]	⑦	外断熱改修	外装材の種類 施 工 箇 所 防火性能 備 考 断熱材の種類 ・ (厚さ： mm) 既存外壁材の撤去 ・行う ・行わない 下地面の清掃 ・行う ・行わない 断熱材を設置する部分の下地に欠損部がある場合 ※4.1.4 [外壁改修工法の種類]による 建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を 改修標準仕1.2.2[施工計画書]による品質計画で定める。 不陸等の下地調整 ・ 断熱材の施工 ・断熱材製造所の仕様による ・ 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による ・ 通気層 ・設ける(厚さ： mm) ・設けない 外装材の外壁への取付け ・図示 ・	[9.2.2][9.2.2][9.2.3][9.2.3][9.2.4]	⑧	ガラス改修	本特記仕様 5 建具改修工事 17 ガラスによる	9	⑨	断熱・防露改修	断熱材打込み工法の材料 ・ビーズ法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材 ・押出法※ポリスチレンフォーム断熱材 ・フェノールフォーム断熱材 ・※ポリスチレンフォーム断熱材 ・A種1又はA種1Hとし、難燃性を有するものとする。(吹付け厚さ mm) 工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.3.2][9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑩	屋上緑化改修	工法 ※「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」(平成12年5月31日付 建設省告示第1458号)による風圧力に対応した固定工法を改修標準仕1.2.2[施工計画]で定める。 かん水装置 ・設置する(図示による) ・設置しない 既存保護層等の撤去 ・行う ・行わない 枯補償及び枯損処理 期間 ※引渡しの日から1年間 ・ 年間 ・ 年 月 日迄	[9.4.3][9.4.3][9.4.4]	⑪	透水性アスファルト舗装改修	既存舗装の撤去 舗 装 撤 去 箇 所 再 利 用 す															
材 料 名	定性分析方法		定量分析方法																																																																																														
	・JIS A 1481-1	・JIS A 1481-3	・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-4																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													
	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																													

10追加特記

①公共事業労務費調査への協力

※協力する

②工事監理方式

共同監理　○有り　・無し

③適用基準等

別途「公セ工補第7-機高-4号　下水道センター耐水化対策(土木)工事」
・営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課施設評価室）
※工事運行マニュアル（上越市都市整備部建築住宅課営繕室作成）

4総合図

※作成する

⑤工事成績評定

※受注者は、工事成績評定の対象となる工事施工において、自ら立案し実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了までに所定の様式により提出することができる。
（様式等は、工事運行マニュアルによる。）

6工事区分表

注)原則○印を適用する。ただし、複数記載してある項目についての区分はその項目を必要とする施工者に適用する。

項　　目		建電空衛昇	備　考			
躯体関係						
1.RC造(梁・壁・床)の貫通孔・開口部	貫通スリ-ブ材及び取付け	○	○	○	○	○
	補強を要する型枠材及び取付け	○				
	補強を要しない型枠材及び取付け	○	○	○	○	○
	貫通孔・開口部の墨出し	○	○	○	○	○
2.S・SRC造・はり貫通口	貫通孔・開口部の補強	○				
	スリ-ブ・型枠の穴埋め	○	○	○	○	○
	S・SRC造貫通鋼管鋼管スリ-ブ・補強	○				
	使用されたスリ-ブの穴埋め	○	○	○	○	○
3.設備機器の基礎	予備スリ-ブの穴埋め	○	○	○	○	
	建築設計図に記入のあるもの	○				
	室内の基礎（建築設計図に記入のないもの）	○	○	○		
	屋外・屋上の基礎	○				
	屋上基礎で押さえコンにア-ンカ-しない軽微なもの		○	○	○	
	機器取付け用ア-ンカ-・架台		○	○	○	
屋内受水タンク用の基礎	○					
仕　上　げ　関　係						
軽鉄天井・壁下地	補強を用するボ-ドの切り込み及び下地の補強	○				
	補強を要しないボ-ドの切り込み		○	○	○	
	開口部の墨出し		○	○	○	
電　気　関　係						
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線(接地線共)			○	○	二次側
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線		○			一次側
	機器付属操作スイッチの取付及び渡り配管配線			○	○	
その他（工事区分を特に間違えやすい項目）						
天井材	取外し再取付(各種配管配線作業用)	○	△	△	△	小規模は要協議
床はつり補修	各種配管配線作業用	○	△	△	△	小規模は要協議
流し台、ガス台		○				
便所手洗いか-ンク		○				衛生陶器は衛生設備
洗面化粧台					○	
ガス漏れ警報器					○	
24H換気扇	機器納入				○	取付は電気設備
連動スイッチ	取付		○			機器納入は衛生設備
湯沸器	機器納入				○	取付は電気設備
連動スイッチ	取付		○			機器納入は衛生設備

⑦発生材の処理等

1　再生資材の利用

下記資材の使用に際し、再生資材を利用すること。

再　生　資　材　名	規　格	使用箇所	再資源化施設名・所在地	備　考

2　建設発生土の利用

盛土等に使用する発生土は、下記の工事からの建設発生土を利用すること。

発　注　機　関	工　事　名	発　生　場　所	施工会社名・連絡先	備　考

3　建設発生土の搬出

工事の施工により発生する建設発生土は、下記の場所に搬出するものとして積算している。

受入工事名／施設名称	場内敷き均し
工事場所／施設所在地	―
連絡先	―
仮置場所の有無	―
備考	―

10追加特記

④建設廃棄物の搬出

工事の施工により発生する廃棄物は、下記の場所に搬出するものとし積算している。

搬出する廃棄物名	右記以外の発生材	非飛散性石綿含有建材	石綿含有仕上塗材
処　理　施　設　名　称	最寄りの処施設	エコパークいずもざき	エコパークいずもざき
施　設　所　在　地		新潟県三島郡出雲崎町大字稲川884	新潟県三島郡出雲崎町大字稲川884
連絡先			
備考			

上表は積算上の条件であり、処理施設を指定するものではない。なお、受注者の提示する施設と異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。

⑤建設リサイクル法の対象建設工事において、特定建設資材廃棄物の再資源化等が完了したときは、同法第18条に基づき再資源化等完了報告書を提出すること。

⑥自ら産業廃棄物を運搬・処分する以外は、委託契約書の写しを提出すること。

⑦協議について

建設工事発注後に明らかになったやむを得ない事情により、上記の指定や条件によりがたい場合は、速やかに監督員に報告し、協議すること。

8化学物質の濃度測定

1)測定時期

[1.7.9]

測定時期は家具設置等の別途工事が行われる前とする。ただし、内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること、及び中央式空調と設備のように換気を行いながら空調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していることとする。

測定時期は工事完了時とする。なお、内部工事期間等が特記されている場合は、内部工事完了時とする。

※　測定時期の決定は、測定結果が指針値を超えた場合に、6)の措置を講じる時間を見込むこと。

2)測定対象物質

※ホルムアルデヒド　（指定値0.08ppm以下）

※トルエン　（指定値0.07ppm以下）

※キシレン　（指定値0.05ppm以下）

※エチルベンゼン　（指定値0.08ppm以下）

※ステレン　（指定値0.05ppm以下）

・パラジクロロベンゼン　（指定値0.04ppm以下）

3)測定室

・

・

室（測定箇所

箇所）

・

・

室（測定箇所

箇所）

・

・

室（測定箇所

箇所）

4)測定方法

測定機器

※バッシ-ブ型採取機器

・監督員の承諾する機器

測定要領（バッシ-ブ型測定法の場合）

※　測定前の措置

測定を開始する前に、測定対象室のすべての窓及び扉（造りつけ家具、押入等の収納部分の扉を含む。）を開放し、30分間換気する。その後、測定対象室のすべての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造りつけ家具、押入等の収納部分の扉は開放したままとする。

※　測定は次のイ～ハによる。

イ　上記測定前の措置の状態のままで測定する。

ロ　測定時間は、原則として24時間とする。ただし、工程等の都合により、24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間帯の中央となるよう10時30分から18時30分までの時間帯で測定する。

ハ　測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。

※　その他

上記測定前の措置及び測定においては、換気設備又は空調設備は稼働させたままとする。ただし、局所的な換気扇等で常時稼働させないものは停止させたままとする。

5)測定結果の分析

測定対象化学物質を採取したバッシ-ブ型採取機器を分析機関に送付し濃度を測定する。

6)測定結果が指針値を超えた場合の措置

※測定結果が厚生労働省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度4)、5)により、測定を行う。

7)報告書の提出

※測定結果の報告書を完了検査日までに監督員に提出する。なお、内部工事期間等が特記されている場合は、内部工事完了までに測定結果速報を監督員に提出する。

10追加特記

⑨アスベスト含有の建材

※アスベスト含有の建材は使用しない。
ただし、やむを得ずアスベスト含有建材を使用する場合は、事前に監督員と協議を行うこと。

⑩建設工事における市内下請及び資材発注について

1　下請発注について

受注者は本建設工事の施工に当たり、工事の一部を下請企業に請け負わせて施工しようとする場合には、下請企業を上越市内企業の中から選定するよう努めるものとする。

2　建設資材発注について

受注者は本建設工事の施工に当たり、建設資材を発注しようとする場合には、納入企業を上越市内企業の中から選定するよう努めなければならない。また、上越市産資材がある場合には、他に優先して使用するよう努めるものとする。

⑪火災保険等

建設工事請負約款第51条に基づき、受注者は工事目的物及び工事材料（支給材料含む）等を下記により火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む）に付すものとする。

1　保険の種類

保険の種類は、下記のいずれかとする。

1)　普通火災保険契約　2)　火災建築保険契約　3)　建設工事保険契約

4)　組立保険契約

2　保険の対象

工事目的物及び工事材料（支給材料を含む）に火災保険を付すものとする。

工事目的物：工事出来高見込額相当とする。

工事材料　：現場に搬入した検査済み工事材料とする。

支給材料　：受注者に引渡し済み支給材料とする。

但し、工事内容で基礎工事及び屋外工作物等については、保険に付する対象から除外することができる。また、継続工事での前回施設部分及び改築工事（修繕、改修、模様替え等を含む）での既製建築部分は保険契約の対象としない。

3　保険の時期、期間、金額　加入期間及び金額は、受注者が下表により選択できる。

保険の種類	・　普通火災保険	・　火災建築保険
	・　建設工事保険	・　組立保険
付保の除外	・　杭工事	・　地中埋設物
付加の時期	中間金請求前	
保険の期間	引渡日迄	
保険対象額	工事の請負金額から付加の除外部分の額を控除した金額以上の額	

⑫建設副産物の利用・搬出実績

請負金額が100万円以上となる工事については、建設副産物の利用・搬出実績を把握するため、再生資源利用[促進]計画書[実施書]（国土交通省ホームページよりダウンロード可能）を作成し、電子データにて提出する。（GOBRISを利用する場合は不要）

⑬C A Dデータ

設計図C A Dデータは、当該工事以外での使用を禁止する条件で、無償貸し出する。

⑭安全対策

○施設を使用しながらの工事であるため、適切な安全対策を行い施工すること。

○工事範囲への立ち入り禁止措置を行うこと。

○外部足場には、全面に養生シート（ネット状）を設置すること。

○騒音、振動、粉じん対策を行い施工すること。
（工法の検討、作業範囲の囲い、設備の設置等）

○工事に先立ち、必要に応じて周辺住民に対して工事説明を行うものとする。

⑮アスベスト含有建材の処理について（外壁改修工事）

外壁調査の結果、外壁塗材にアスベストが含有されているため、次のとおり処理すること。

該当作業

※脆弱塗膜部除去作業

※既存シーリング撤去作業（外壁塗材付着部のみ）

・

・

追加処理方法

※アスベスト除去作業に伴う法定掲示板作成、設置及び立入禁止措置

※HEPAフィルター付集塵機、防護服及び防護マスク使用

※作業範囲の床面のビニルシート養生

※作業足場の全面メッシュシート養生

※集塵材の管理型最終処分場での処理

※既存シーリング撤去における、外壁塗材の付着箇所の集じん装置併用による手工具での撤去

※施設できる保管庫の設置及び除去したアスベスト含有物の保管庫での管理

上記以外については、「改修標仕」9.1による

⑯木材利用推進

・本工事に使用する木材のうち、杉は「上越市産材」を使用する。
ただし、止むを得ないと監督員が認めた場合は「上越地域産材」とすることができる。（上越地域産材とは上越市・妙高市地域における森林から生産された木材をいう。）なお、上越地域産材を使用することができない特別な理由があり、監督員が止やむを得ないと認めた場合には、新潟県産材を使用できるものとする。

⑰墜落制止用器具

高さ5mを超える高所作業における墜落制止用器具は、フルハーネス型とする。

⑱法定外の労働災害の付保

本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
受注者は保険契約の証券又はこれに代わるものの写しを、現場着手前に工事打合せ簿により監督員に提出すること。

⑲景観保全への配慮

景観保全に配慮した建設整備を推進するため、現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせる等、周辺地域との調和を図るよう努めること。
※工事でシート（養生シートや保護シート等）を使用する場合は、積極的に自然色シートの使用に努めること。

10追加特記

⑳埋設電気設備配管配線切斷事故防止措置等

（1）対象作業

既存建物の躯体内の埋設電気設備配管・配線を切斷する恐れのある作業あと施工アンカー、カッター入れ、はつり、解体、コア抜き等
なお、地下の既設配管等の安全確保は改修工事標準仕様書(建築工事1.3.7(4)、電気設備工事1.3.5(4)、機械設備工事1.3.5(4))による。

（2）事故防止措置等

a 事前調査

既存図面および施設管理者からの聞き取りにより、埋設配管・配線の位置を事前に確認すること。

b 作業前調査

非破壊検査(電磁波レーダー法、電磁誘導法、X線法)により、埋設配管・配線の位置出しを行うこと。
X線調査箇所　・あり(図示による)　※なし

c 迂回措置

上記a,bによっても埋設配管・配線の位置が確認できない場合は、切り直しなどの迂回措置を検討すること。

d 被害防止措置

(7)原則、工事範囲内の各種設備の供給は、既存ブレーカー等で停止すること。

(4)工具は、メタルセンサー付き、またはメタルセンサー付き電工ドラムに接続し使用すること。

(7)重要機器の配管・配線を切斷する危険がある場合は、使用配管配線の迂回や発電機設置等による措置を行うこと。

e その他

配管工事のコア抜きに代えて、既存スリーブ周りを手はつりするなど、現地の状況を確認した上でリスクを回避する工法があれば、採用を検討すること。

（3）監督員の承諾

対象作業のある工種は工種別施工計画書に事故防止措置等を記載すること。

（4）事故発生時の報告



埋設配管・配線を誤って切斷した場合は、直ちに作業を中止し、監督員に報告し、指示を受けること。

工事番号	公セ工補 第7-機高-5号	図面番号	A0- 6
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	取水機棟・砂ろ過棟・汚泥濃縮棟　階段室・水処理棟　階段室　耐水化改修 特記仕様書（6）		
縮　尺	―		
設計年月日	令和　7年　2月　28日		
新　潟　県　上　越　市			

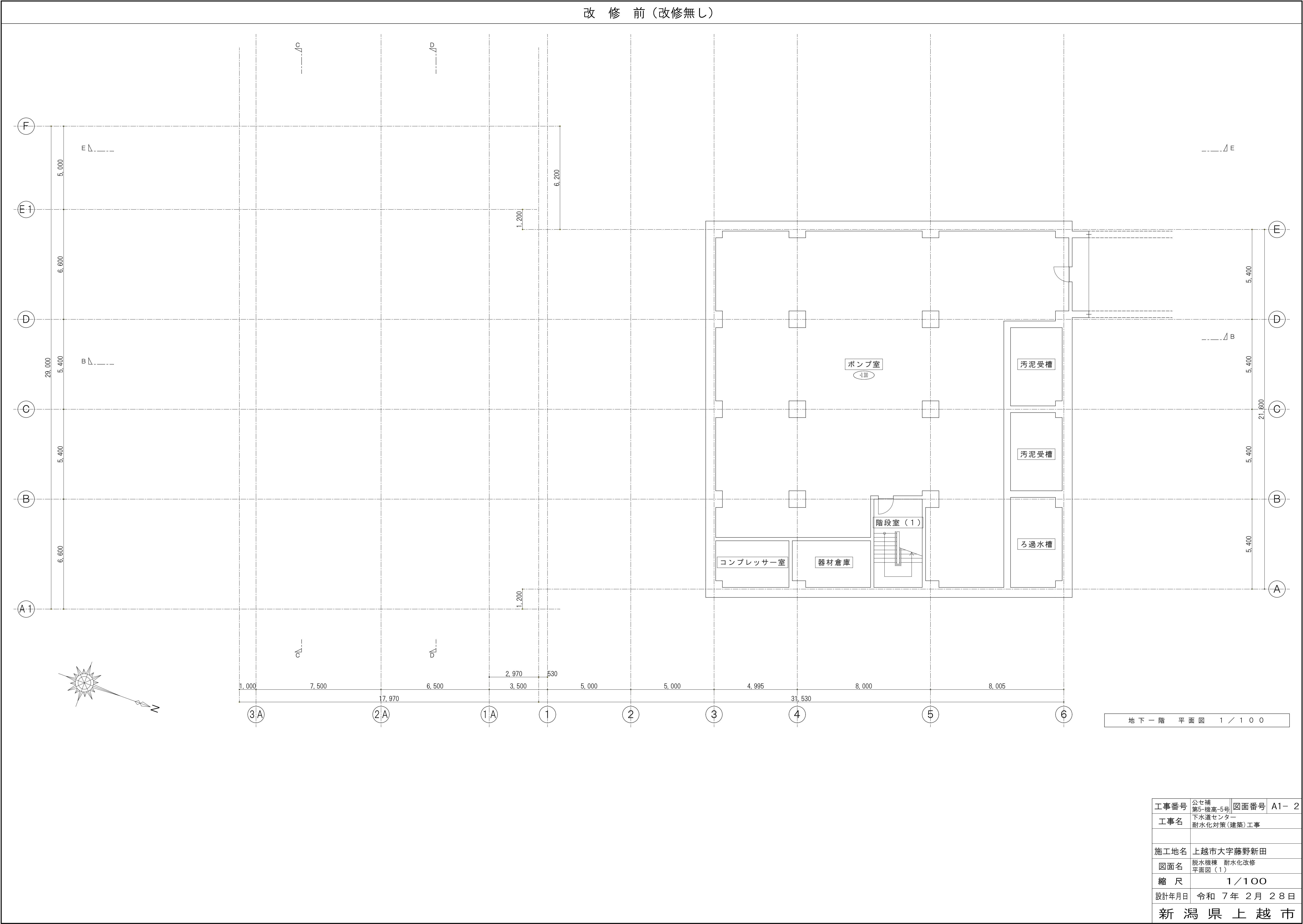
[illegible]

外 部 仕 上 表																										
	床			幅 木 ・ 腰			外 壁			屋 根			パラペット			庇・フード・バルコニー 天端			庇・フード・バルコニー 側面			庇・フード・バルコニー 軒天			備 考	改修 内容
	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容	下地	仕 上	改修 内容		
改修前				C	C (B)	D	C	C (B) 複層塗材 (RE)	D															アルミエクスパンションジョイントカバー [撤去・保管]	B	
改修後				C	C (B)	d	C	C (B) 複層塗材 (RE)	d															アルミエクスパンションジョイントカバー [再設置]	b	

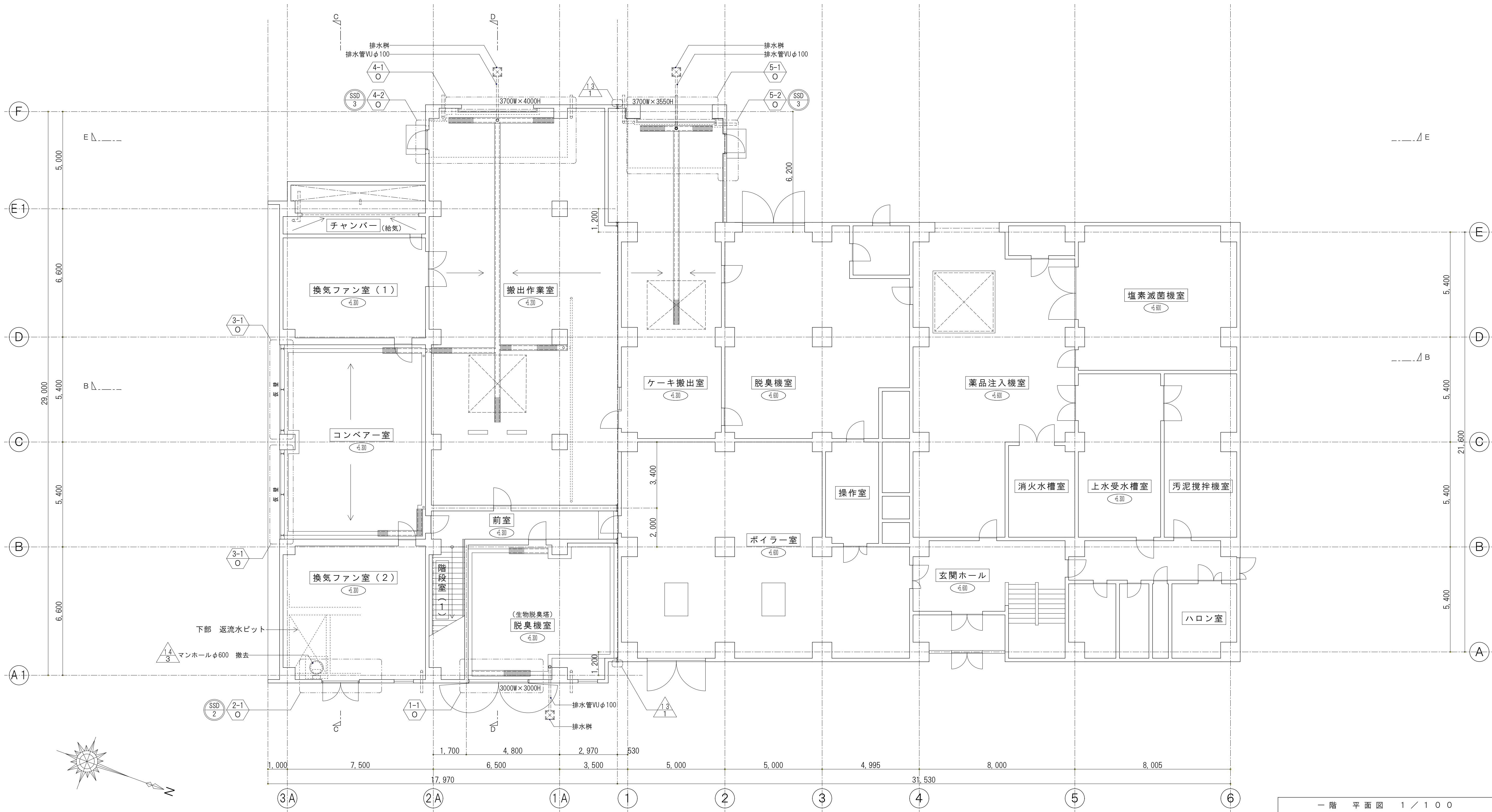
階	室 名		床				幅 木				腰 壁				壁				天 井				備 考	改修 内容							
			下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	高さ	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	下地	仕 上			詳細番号	改修 内容	下地	仕 上	詳細番号	改修 内容	
1 階	脱臭機室	改修前	C	無筋コンクリート直均しt=200 床用塗料	1-01-3	B					C	C (B)	2100	2-02-7	B	C	軽量骨材吹付 t = 5	F	腰壁・壁に同じ	F	C	軽量骨材吹付 t = 5	F	天井に同じ	直 天	F	側溝 [撤去] 水勾配モルタル [撤去] グレーチング受枠 [撤去] グレーチング蓋 [撤去・保管]	B			
		改修後	C	無筋コンクリート直均しt=200 床用塗料	1-01-3	b					C	C (B)	2100	2-02-7	b	C	軽量骨材吹付 t = 5	f	腰壁・壁に同じ	f	C	軽量骨材吹付 t = 5	f	既存のまま	直 天	f	防水板 [新設] 側溝 [新設] 水勾配モルタル [新設] グレーチング受枠 [新設] グレーチング蓋 [再設置]	b			
	換気ファン室 (2)	改修前	C	コンクリート直均し 床用塗料	1-01-3	C					C	C (B)	1500	2-02-7	D	C	軽量骨材吹付 t = 5	B	腰壁・壁に同じ	F	C	軽量骨材吹付 t = 5	F	天井に同じ	直 天	F	扉 [撤去] マンホール蓋 [撤去]	B			
		改修後	C	コンクリート直均し 床用塗料	1-01-3	c					C	C (B)	1500	2-02-7	d	C	軽量骨材吹付 t = 5	b	腰壁・壁に同じ	f	C	軽量骨材吹付 t = 5	f	天井に同じ	直 天	f	防水扉 [新設] マンホール蓋 [新設]	b			
	コンペアー室	改修前	C	無筋コンクリート直均しt=200 床用塗料	1-01-3	F					C	C (B)				C	C (B)	2-01-7	F	壁に同じ	F	C	C (C)	3-01-11	F	C (B)	直 天	F			
		改修後	C	無筋コンクリート直均しt=200 床用塗料	1-01-3	f					C	C (B)				C	C (B)	2-01-7	f	壁に同じ	f	C	C (C)	3-01-11	f	C (B)	直 天	f	樹脂モルタル [新設]	b	
	搬出作業室	改修前	C	無筋コンクリート直均しt=200~300	1-01-3	B					C	C (B)				C	C (B)	2-01-7	D	壁に同じ	F	C	C (C) 外装薄塗材 (E)	3-01-11	F	C (B) 外装薄塗材 (E)	直 天	F	扉 [撤去] 側溝 [撤去] 水勾配モルタル [撤去] グレーチング受枠 [撤去] グレーチング蓋 [撤去・保管]	B	
		改修後	C	無筋コンクリート直均しt=200~300	1-01-3	b					C	C (B)				C	C (B)	2-01-7	d	壁に同じ	f	C	C (C) 外装薄塗材 (E)	3-01-11	f	C (B) 外装薄塗材 (E)	直 天	f	防水板 [新設] 側溝 [新設] 水勾配モルタル [新設] グレーチング受枠 [新設] グレーチング蓋 [再設置]	b	
	ケーキ搬出室	改修前	C	無筋コンクリート直均しt=200~300	1-01-3	B	C	モルタル直均しt=20	300 (水上げ)	2-02-7	B	C	モルタル直均しt=20	2350 (水上げ)	2-02-7	B	C	C (C) 外装薄塗材 (E)	2-01-7	F	巾木・腰壁・壁に同じ	F	C	木毛版 外装薄塗材 (E)	3-01-11	F	C (B) 外装薄塗材 (E)	直 天	F	扉 [撤去] 側溝 [撤去] 水勾配モルタル [撤去] グレーチング受枠 [撤去] グレーチング蓋 [撤去・保管]	B
		改修後	C	無筋コンクリート直均しt=200~300	1-01-3	b	C	モルタル直均しt=20	300 (水上げ)	2-02-7	b	C	モルタル直均しt=20	2350 (水上げ)	2-02-7	b	C	C (C) 外装薄塗材 (E)	2-01-7	f	巾木・腰壁・壁に同じ	f	C	木毛版 外装薄塗材 (E)	3-01-11	f	C (B) 外装薄塗材 (E)	直 天	f	防水扉 [新設] 防水板 [新設] 側溝 [新設] 水勾配モルタル [新設] グレーチング受枠 [新設] グレーチング蓋 [再設置]	b

凡例										工事番号 公セ補 第5-機高-5号 図面番号 A1- 1											
特記なき限り  改修対象範囲を示す。  アスベスト含有建材レベル3を示す。										工事名 下水道センター 耐水化対策(建築)工事											
改修仕上の材料の厚さ	材 料 名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁(m/m)	天井(m/m)	備 考	工事区分略号	<	>	C	:	土工工事	改修内容凡例	改修前		改修後	
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板(タイプ2)		12	10	NM-8578		<	>	AM	:	建築機械設備工事		A: 仕上撤去	a: 仕上新設		
		下地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25			<	>	AE	:	建築電気設備工事		B: 図示の仕上撤去	b: 図示の仕上新設		
	GB-NC(N)	下地		9.5	NM-8613 又は同等	壁紙						<	>	PM	:	プラント機械設備工事		C: 下地共撤去	c: 下地共新設		
	GB-NC(NT)			9.5								<	>	PE	:	プラント電気設備工事		D: 図示の下地共撤去	d: 図示の下地共新設		
	GB-D(W)				12.5	NM-8614												E: 図示の下地調整	e: 図示の塗装塗り替え		
	DR				12	NM-8599												F: 既存のまま	f: 既存のまま		
										施工地名 上越市大字藤野新田											
										図面名 脱水機棟 耐水化改修 仕上表											
										縮 尺 —											
設計年月日										令和 7 年 2 月 2 8 日											
新 潟 県 上 越 市																					

改 修 前（改修無し）






改 修 前



改修内容一覧表

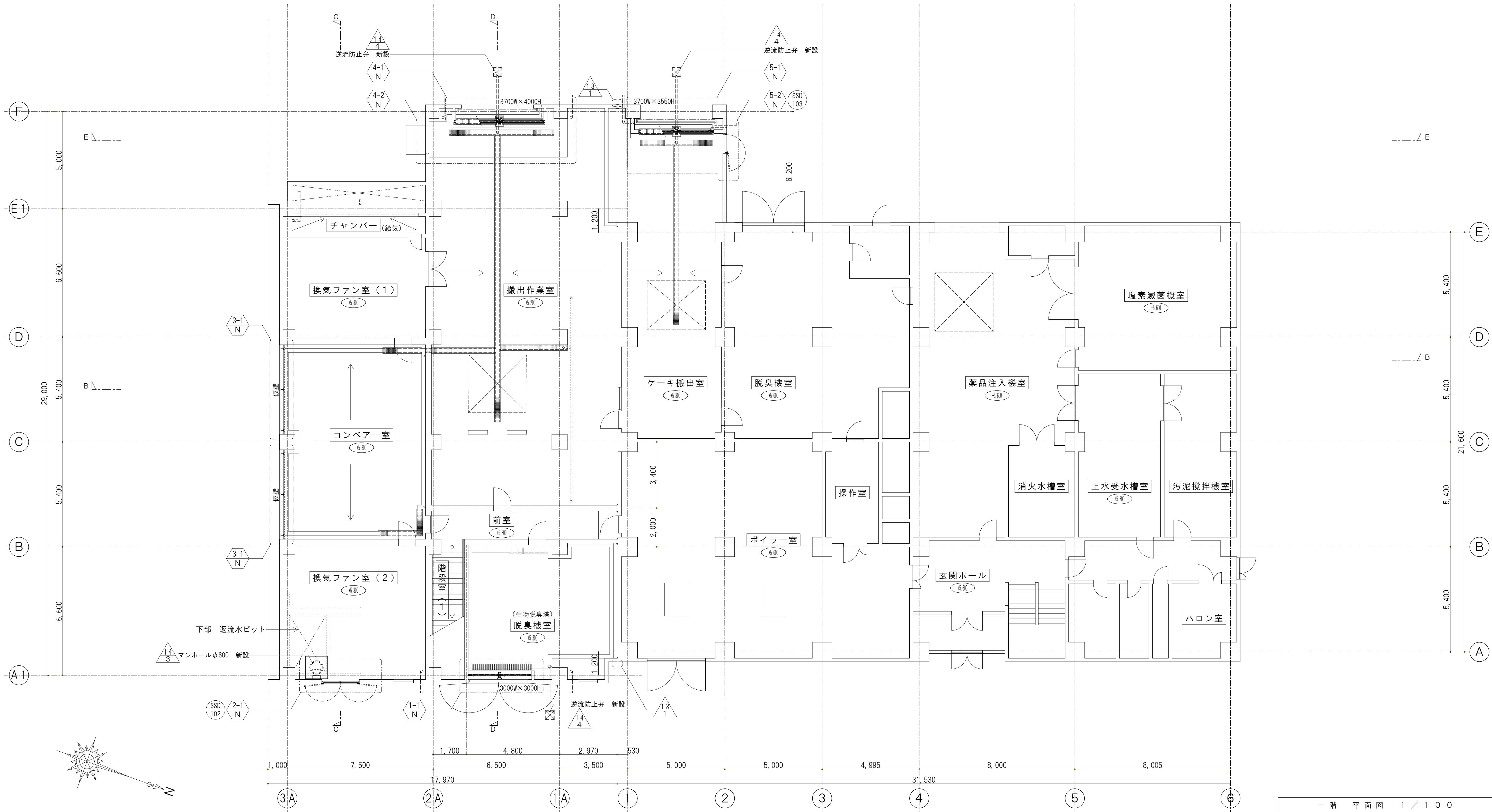
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 脱臭機室	防水板 設置	床無筋コンクリート 撤去 側溝グレーチング 撤去・保管 側溝グレーチング受枠 撤去		1F 搬出作業室前	防水板 設置	無筋コンクリート 撤去 側溝 撤去 グレーチング 撤去・保管 グレーチング受枠 撤去 床スラブ 撤去 排水目皿 撤去 (AM工事) 排水管 撤去 (AM工事)
	1F 換気ファン室 (2)	扉 改修	扉 撤去		1F 搬出作業室	開口 閉塞	扉 撤去
	1F コンベアー室	仮壁部 耐水改修			1F ケーキ搬出室	防水板 設置	無筋コンクリート 撤去 側溝 撤去 グレーチング 撤去・保管 グレーチング受枠 撤去 床スラブ 撤去 排水目皿 撤去 (AM工事) 排水管 撤去 (AM工事)

凡 例

-  部分詳細図番号を示す。
-  撤去建具番号を示す。
-  雑詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 3
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱臭機棟 耐水化改修 平面図(2)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			




改 修 後



改修内容一覧表

凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 脱臭機室	防水板 設置	防水板 新設 RC袖壁 新設 床無筋コンクリート 新設 側溝グレーチング 再設置 側溝グレーチング受枠 新設		1F 搬出作業室	防水板 設置	無筋コンクリート 新設 側溝 新設 グレーチング 再設置・加工再設置 グレーチング受枠 新設 床スラブ 新設 排水目皿 新設 (AM工事) 排水管 新設 (AM工事)
	1F 換気ファン室 (2)	扉 改修	防水扉 新設		1F 搬出作業室	開口 閉塞	コンクリート壁 新設
	1F コンベアー室	仮壁部 耐水改修	樹脂モルタル 新設		1F ケーキ搬出室	防水板 設置	無筋コンクリート 新設 側溝 新設 グレーチング 再設置・加工再設置 グレーチング受枠 新設 床スラブ 新設 排水目皿 新設 (AM工事) 排水管 新設 (AM工事)
	1F ケーキ搬出室	扉 改修	防水扉 新設		1F 外部EXP部	EXP部 耐水改修	エキスパンションジョイントカバー 再設置 防水モルタル 新設
	1F 換気ファン室 (2)	マンホール改修	マンホール 新設 モルタル 新設		外部	逆流防止弁 設置	逆流防止弁 新設

凡 例

-  部分詳細図番号を示す。
-  新設建具番号を示す。
-  雑詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 4
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 平面図(3)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



東 立 面 図 1 / 1 0 0

改修内容一覽表

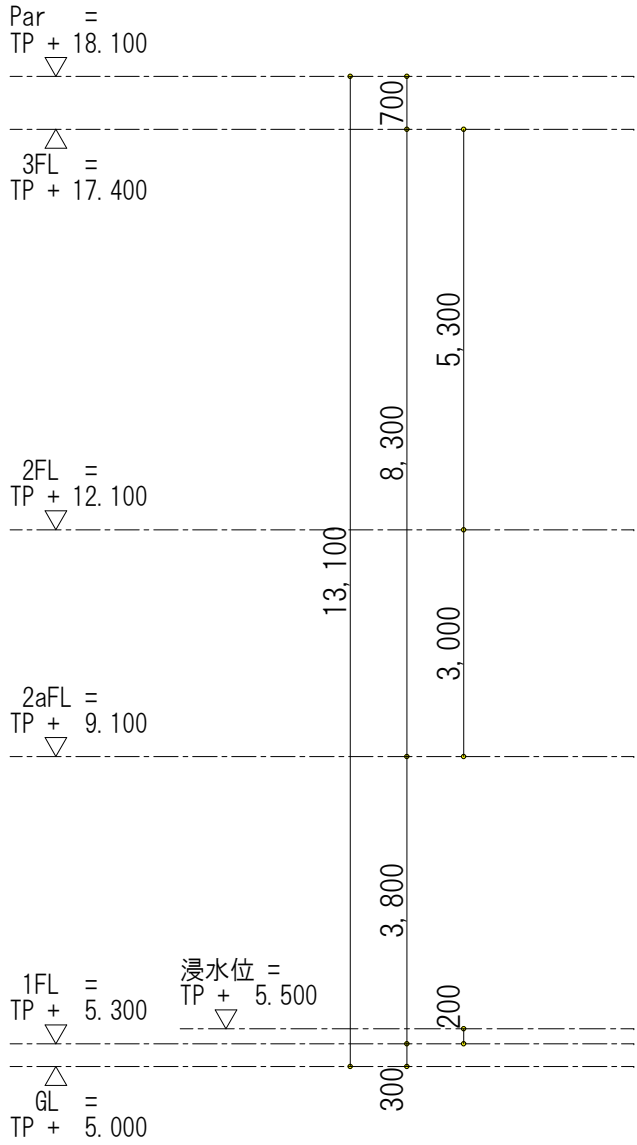
[illegible]

凡 例

- 撤去部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 撤去建具番号を示す。
- 雑詳細図番号を示す。





工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 5
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(1)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修後



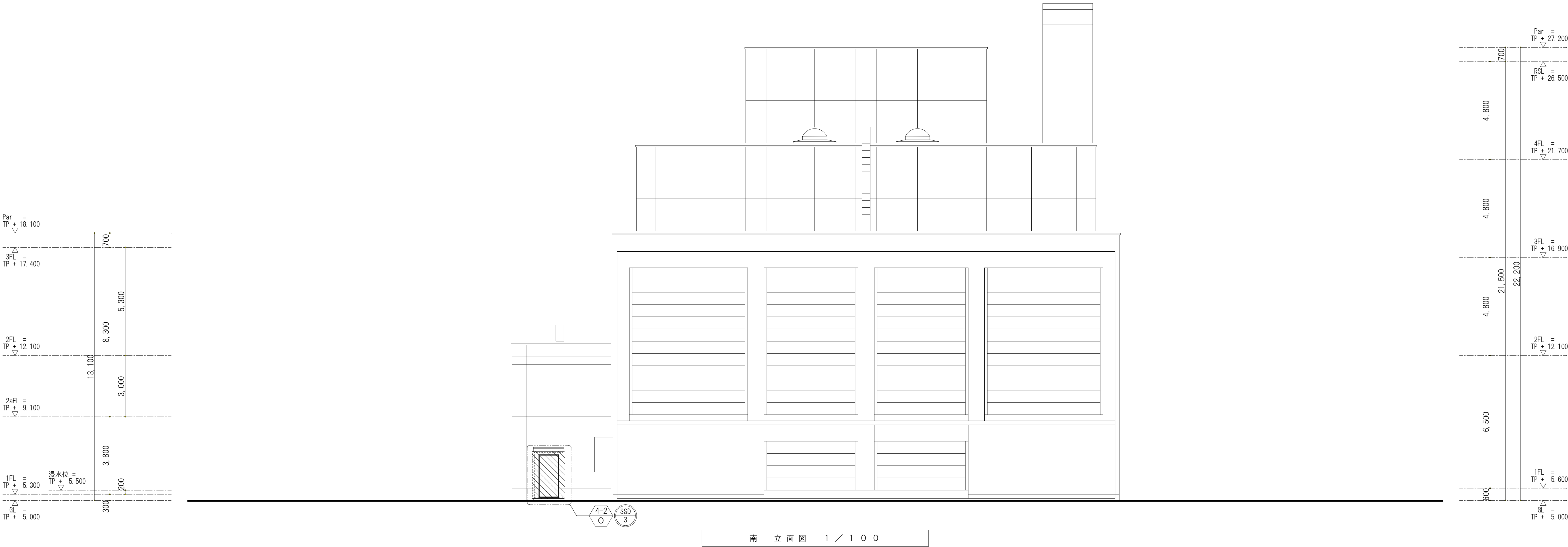
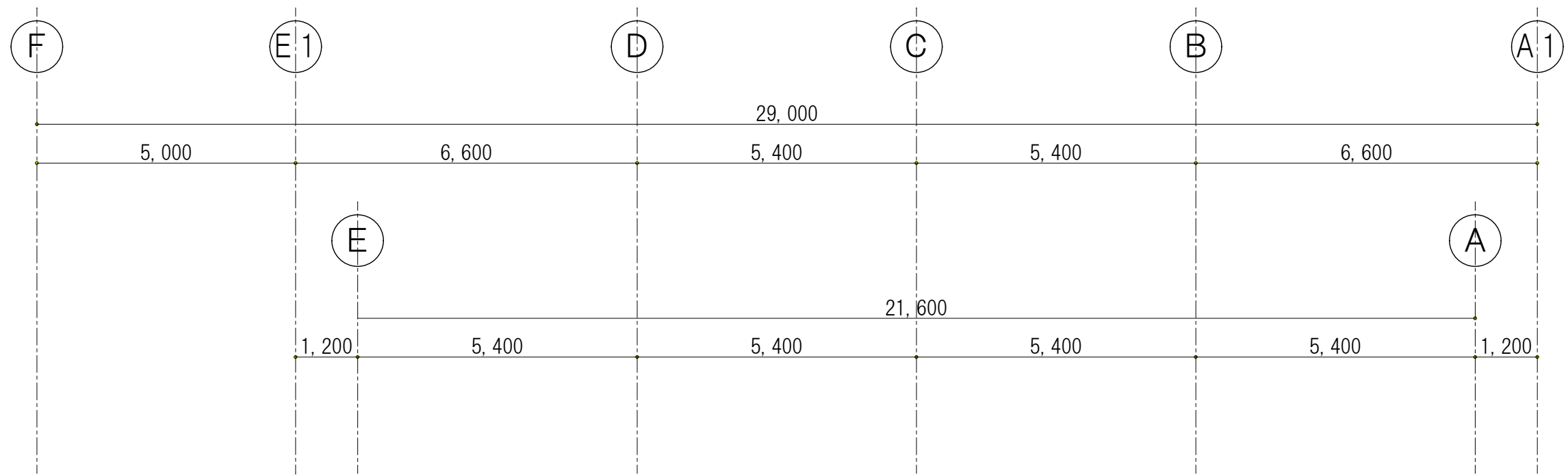
東 立 面 図 1 / 1 0 0

[illegible]

 新設部分を示す。
 部分詳細図番号を示す。
 新設建具番号を示す。
 雑詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 6
工事名	下水通センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(2)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



改修内容一覧表

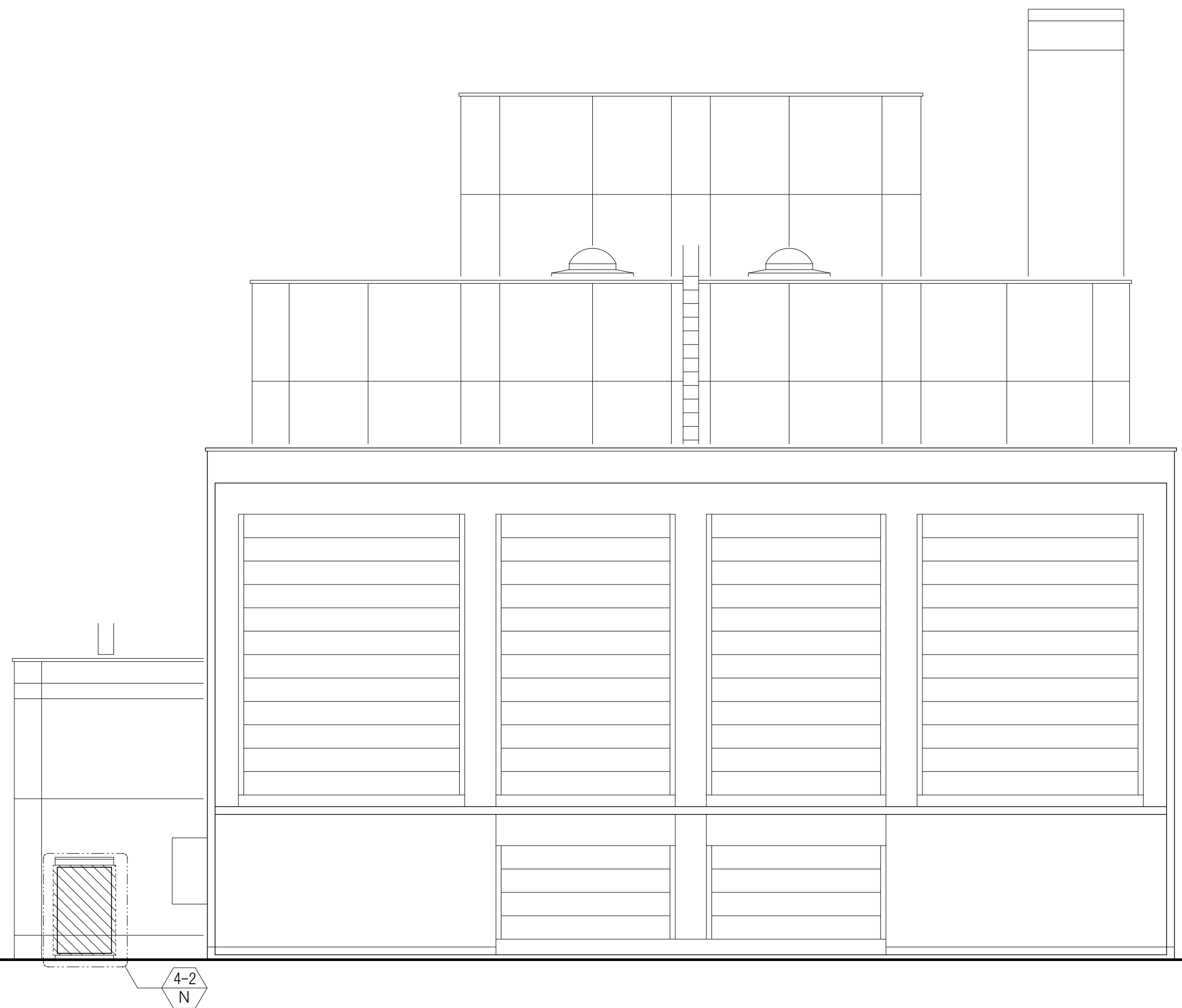
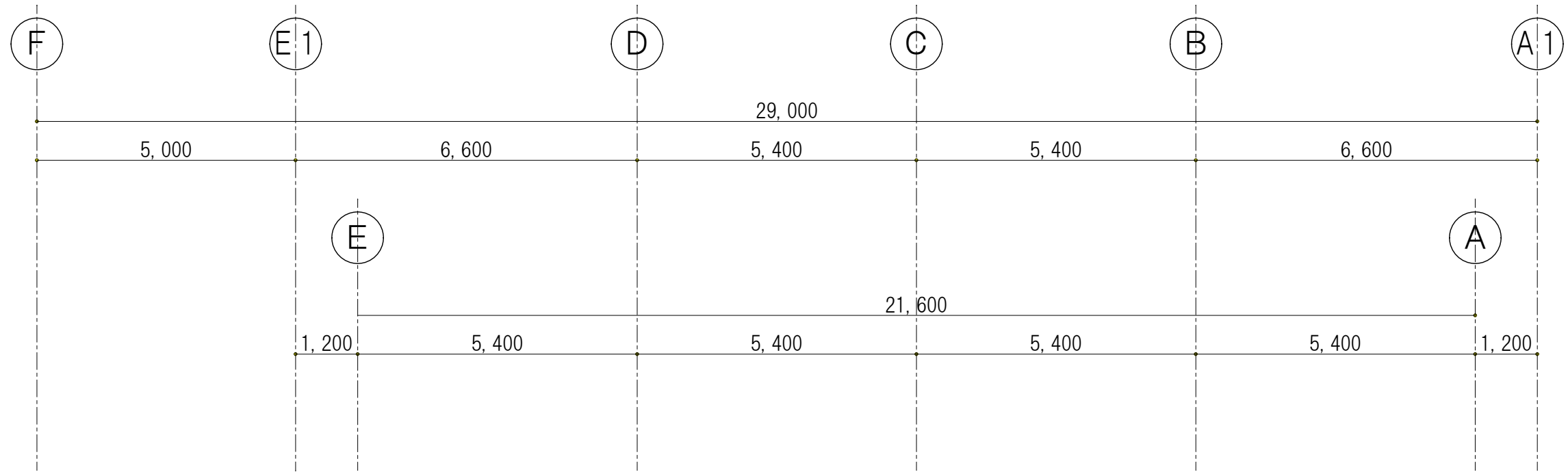
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
				<div>4-2 O</div>	1F 搬出作業室	開口 閉塞	扉 撤去				

凡 例

- 撤去部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 撤去建具番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 7
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(3)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 後



南 立 面 図 1 / 1 0 0

改修内容一覧表

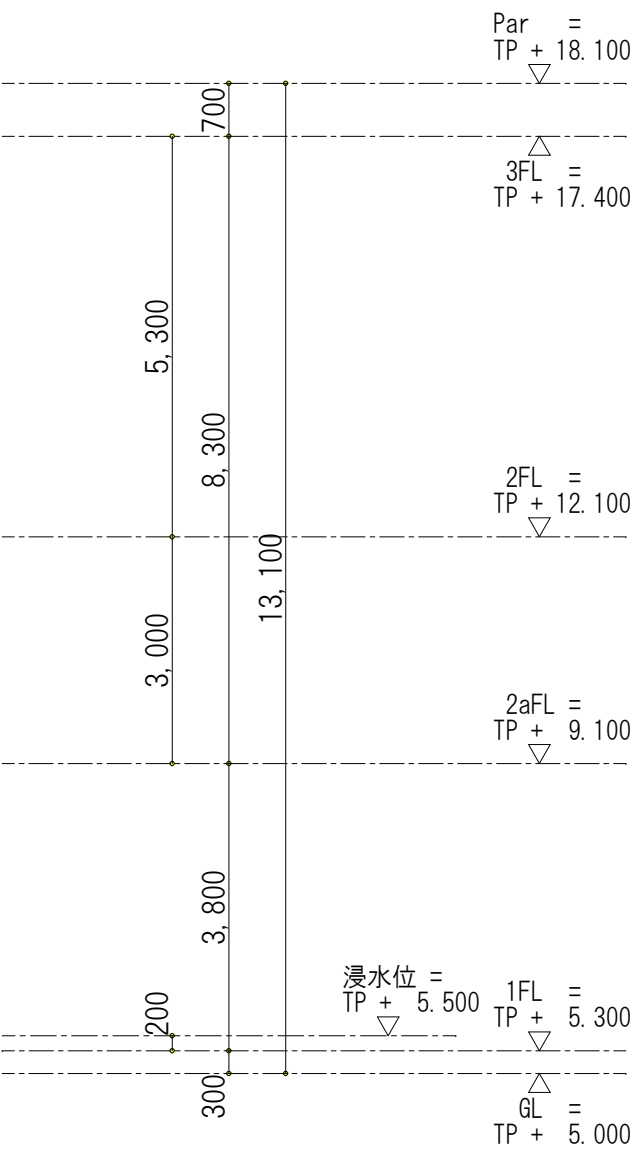
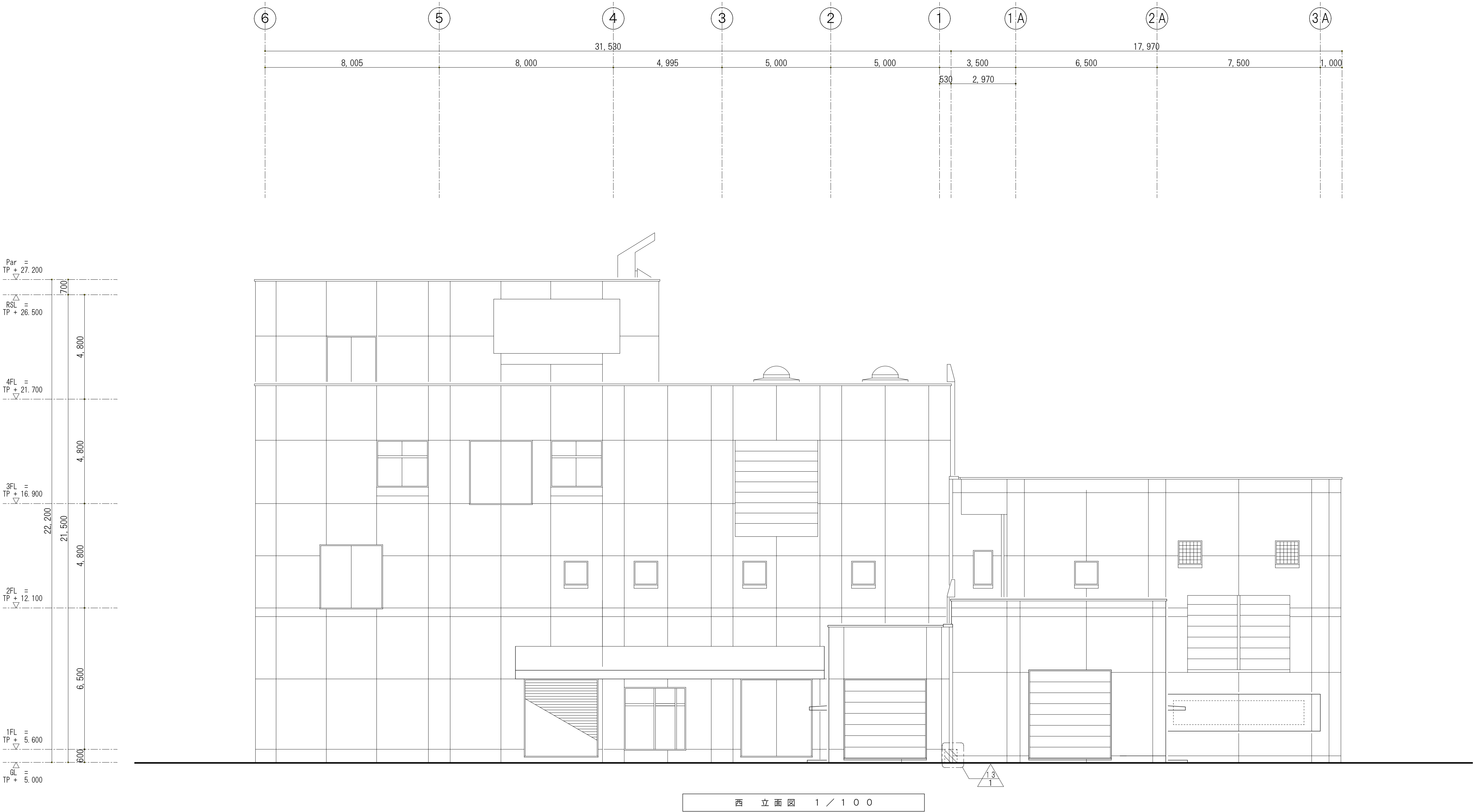
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
				4-2 N	1F 搬出作業室	開口 閉塞	コンクリート壁 新設				

凡 例

- 新設部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 8
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(4)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



改修内容一覧表

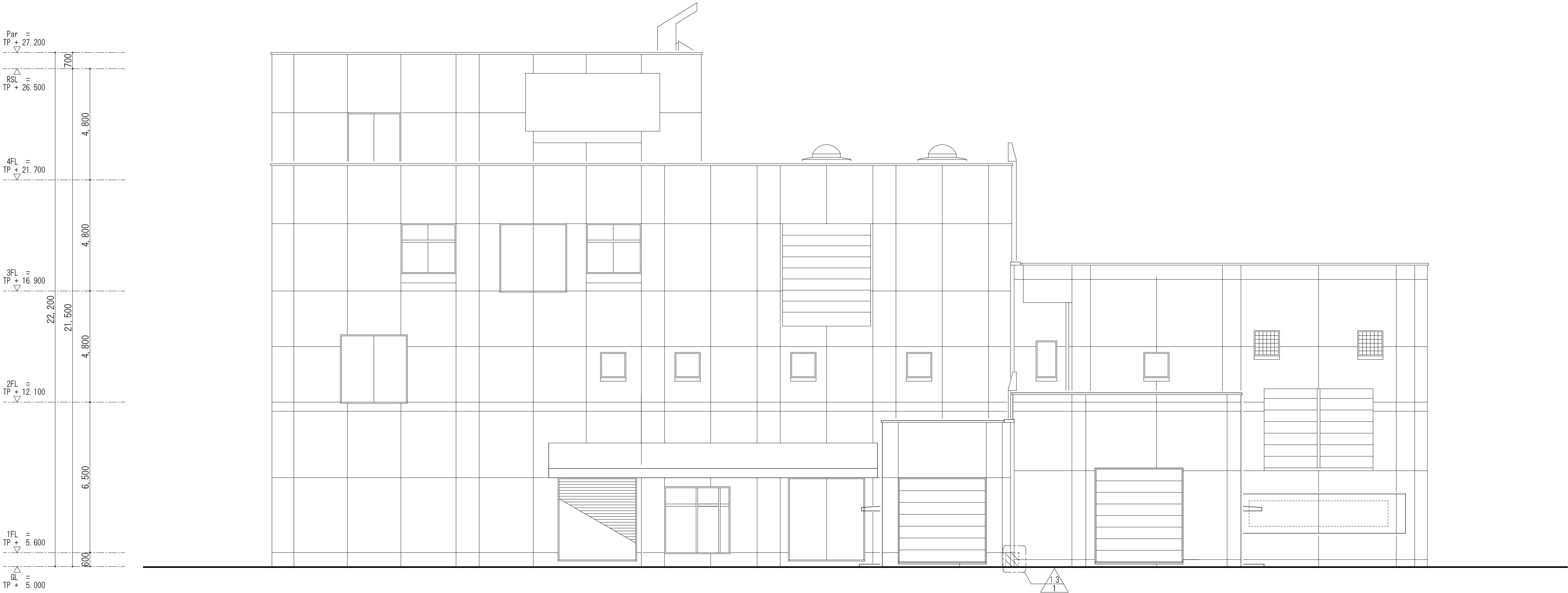
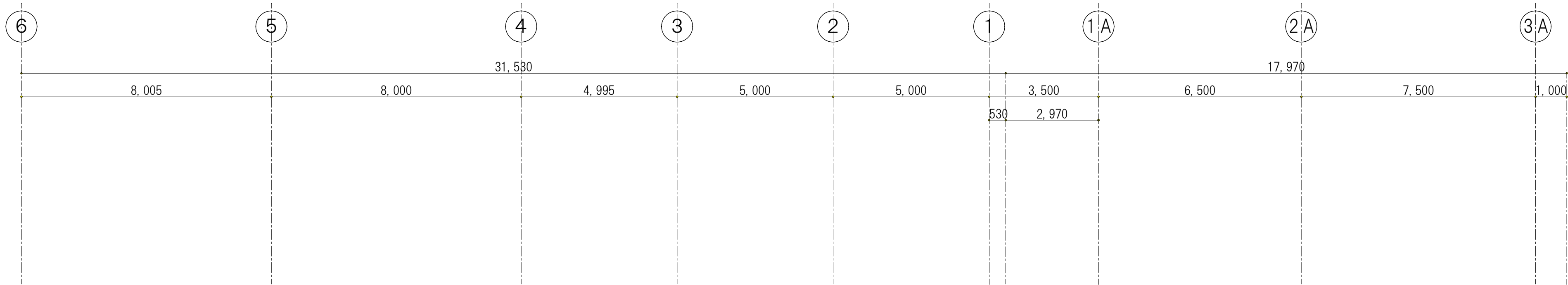
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要

凡 例

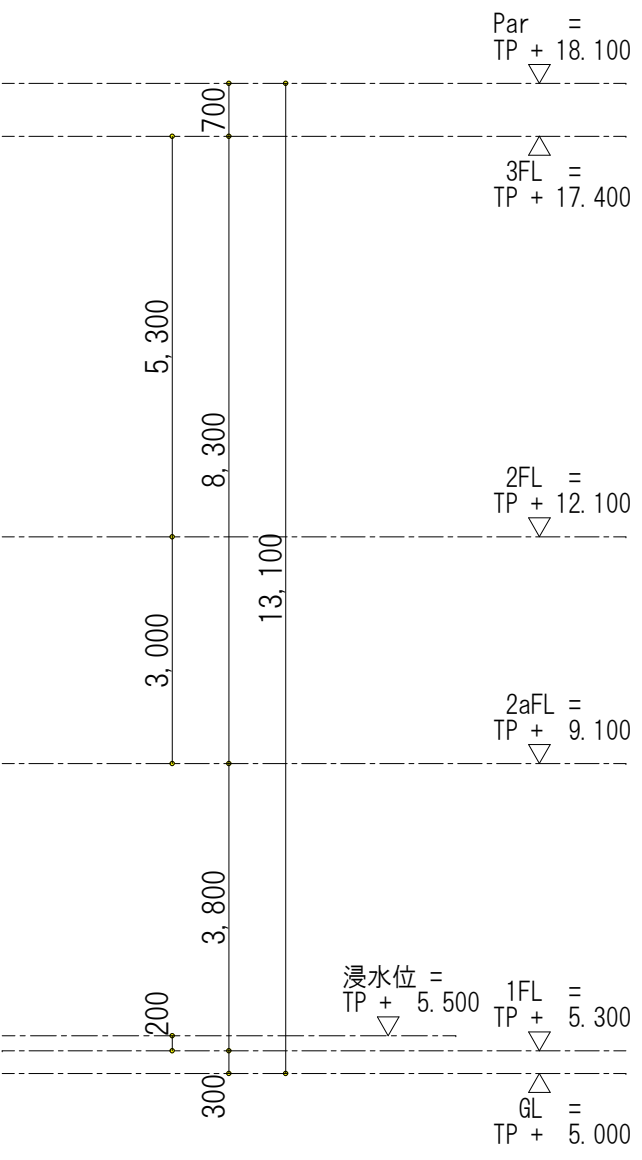
- 撤去部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 雑詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1- 9
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(5)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 後



西 立 面 図 1 / 1 0 0



改修内容一覧表

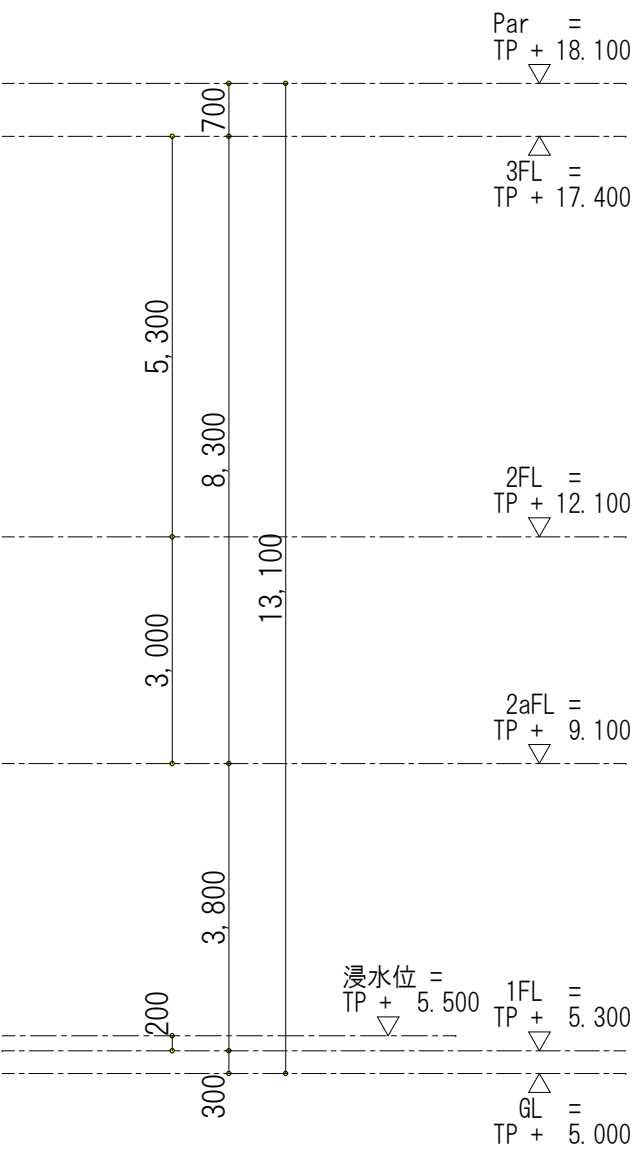
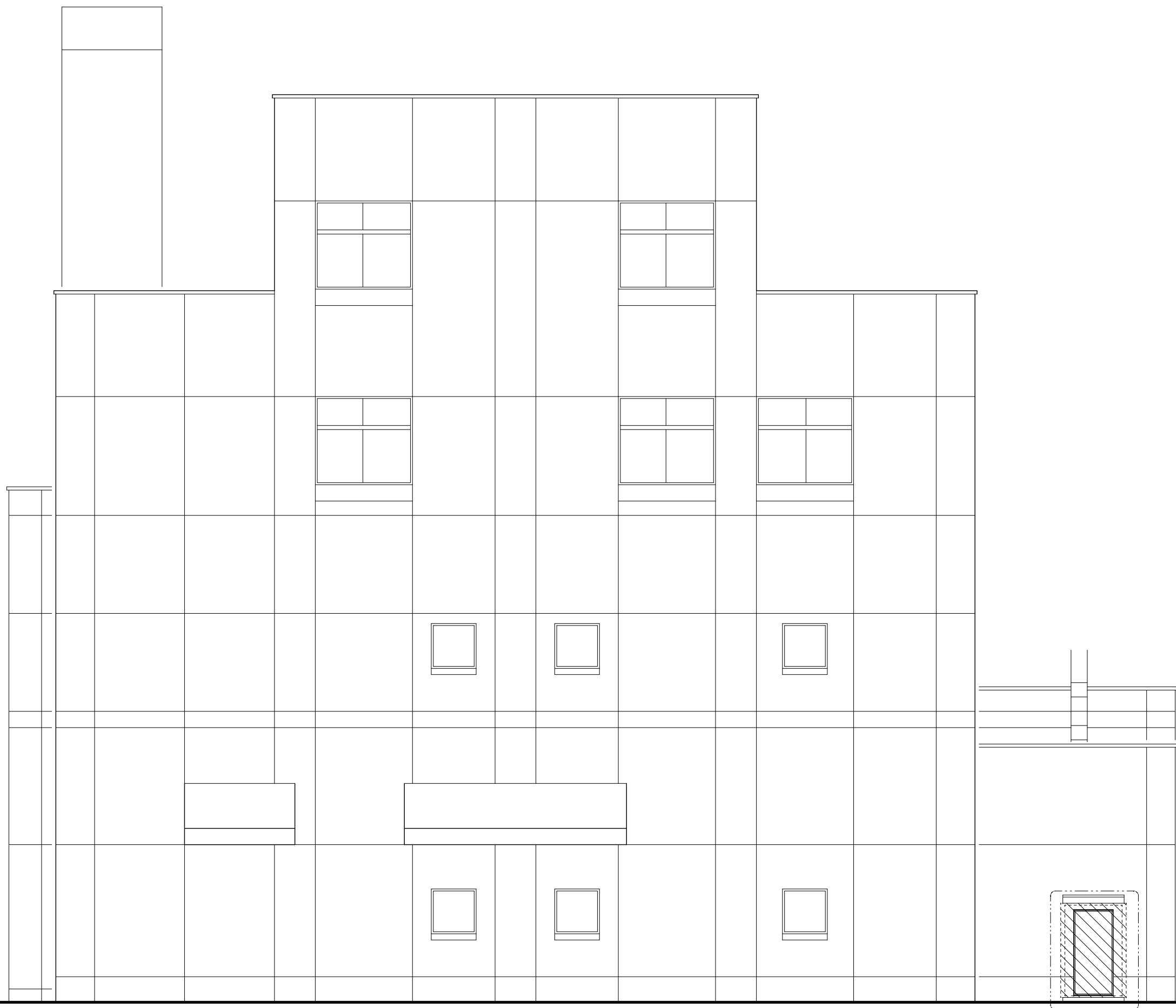
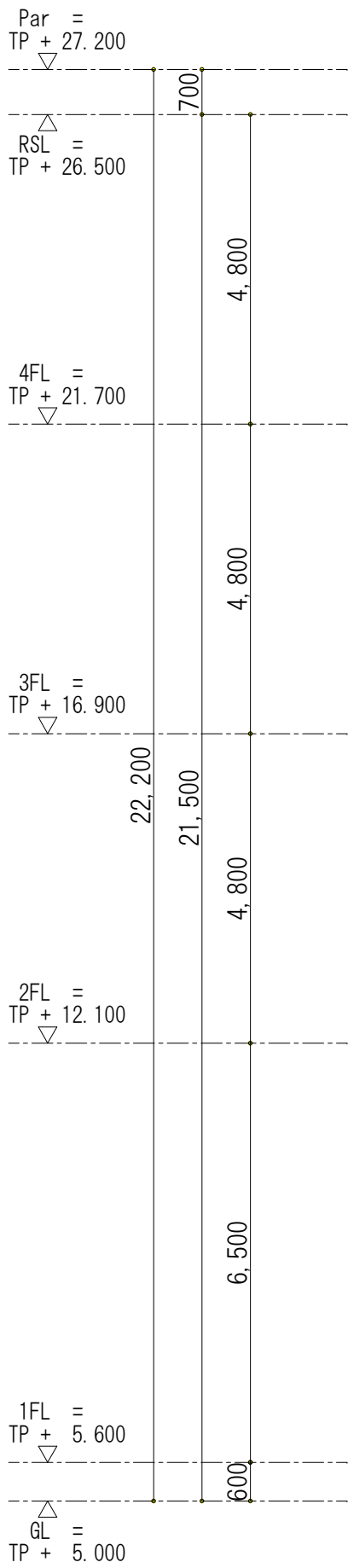
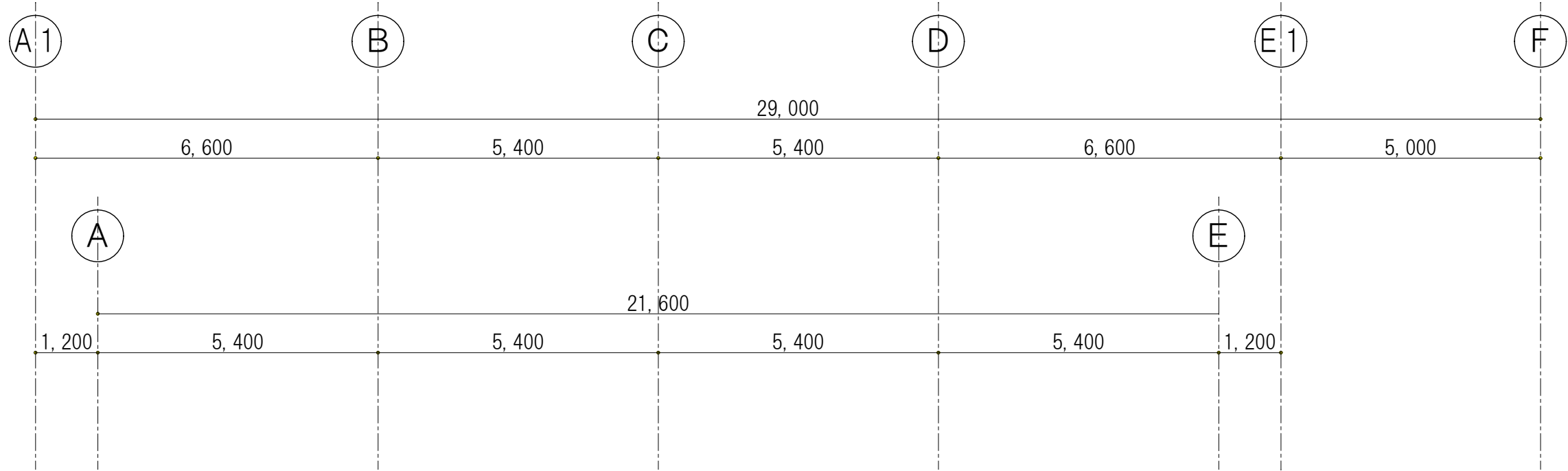
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
									1F 外部EXP部	EXP部 耐水改修	エキスパンションジョイントカバー 防水モルタル 新設

凡 例

- 新設部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 雑詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-10
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(6)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



北 立 面 図 1 / 1 0 0

改修内容一覧表

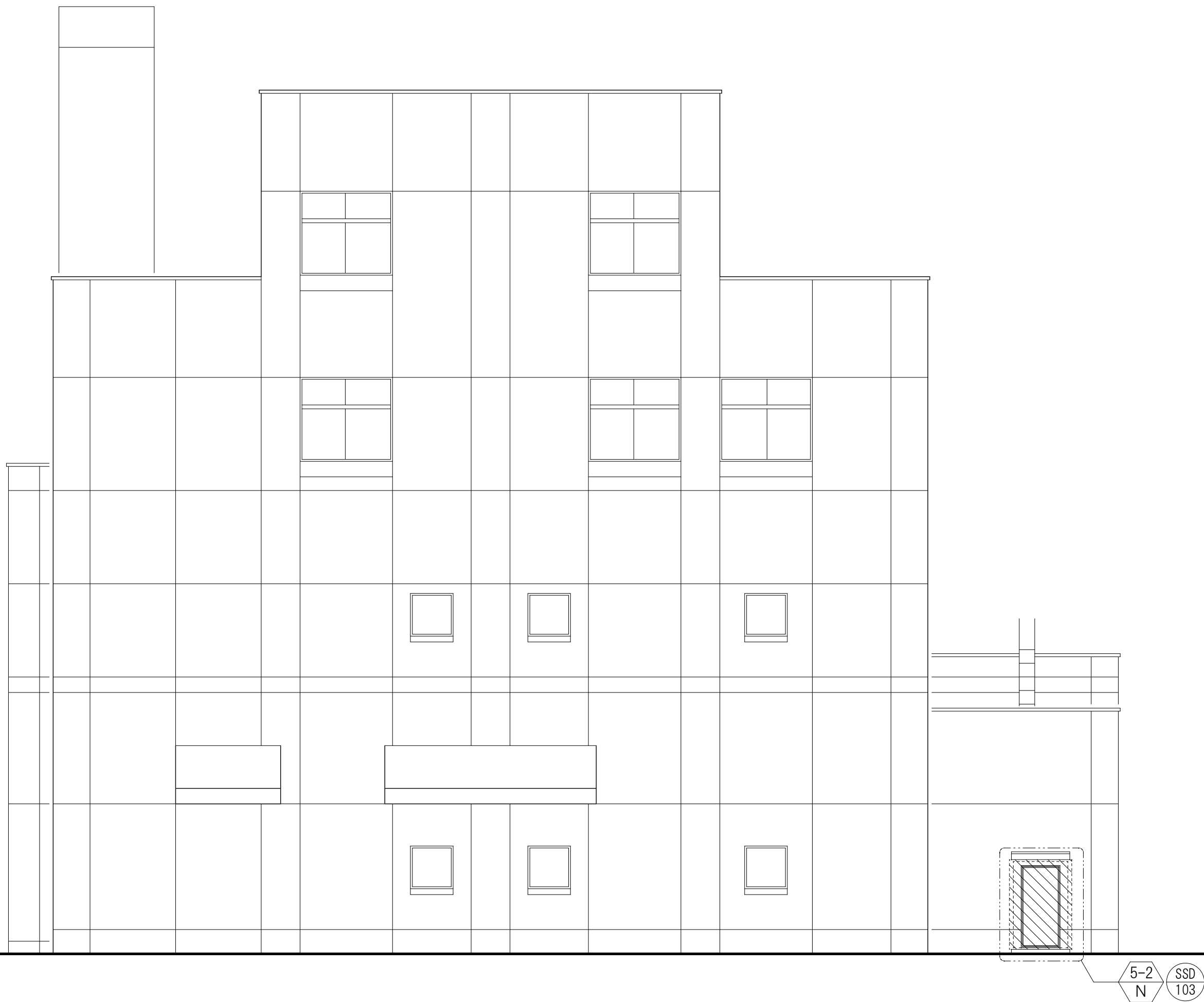
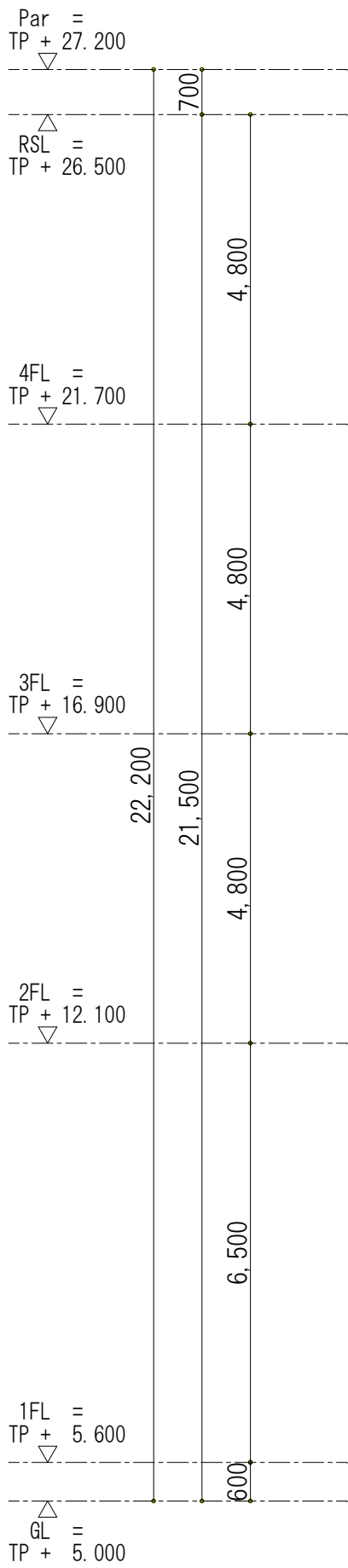
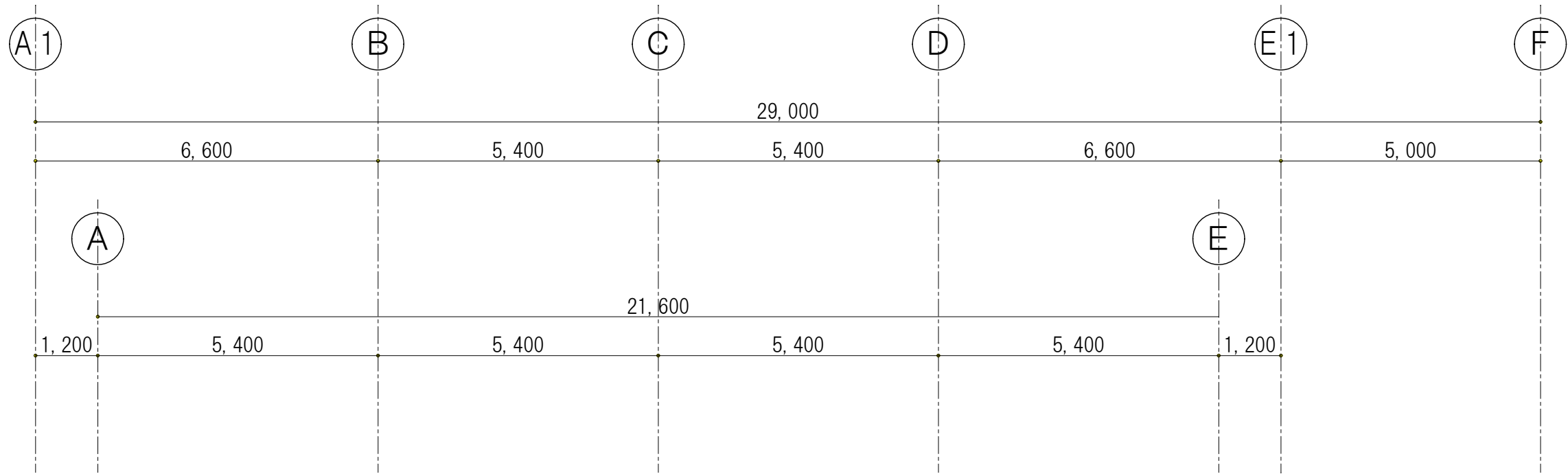
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要

凡 例

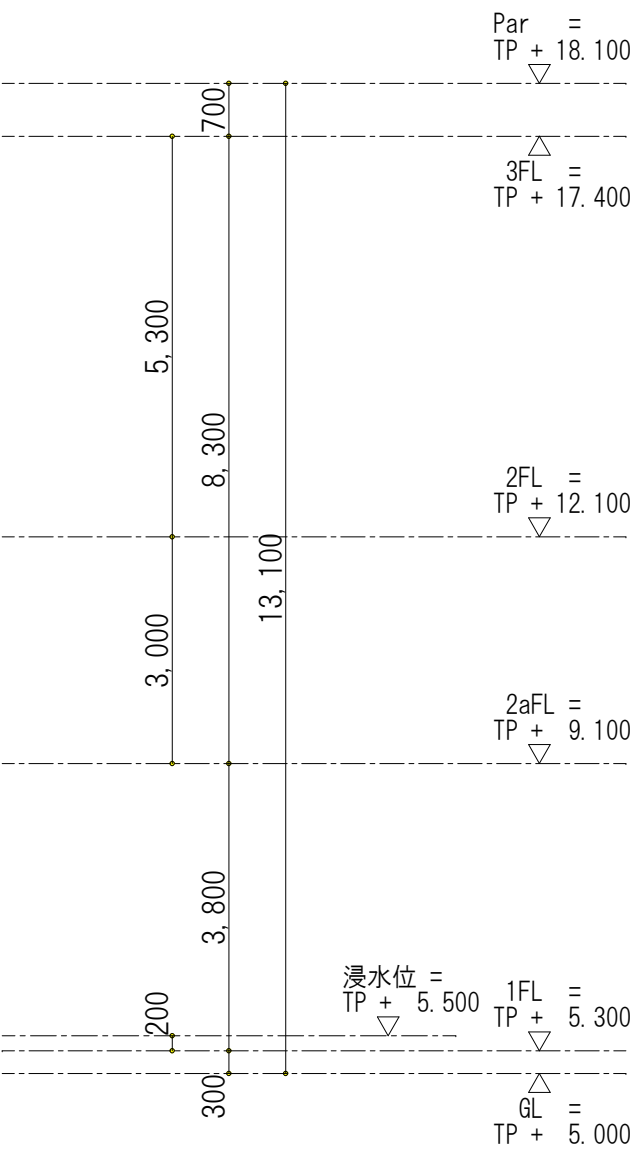
- 撤去部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 撤去建具番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-11
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(7)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 後



北 立 面 図 1 / 1 0 0



改修内容一覧表

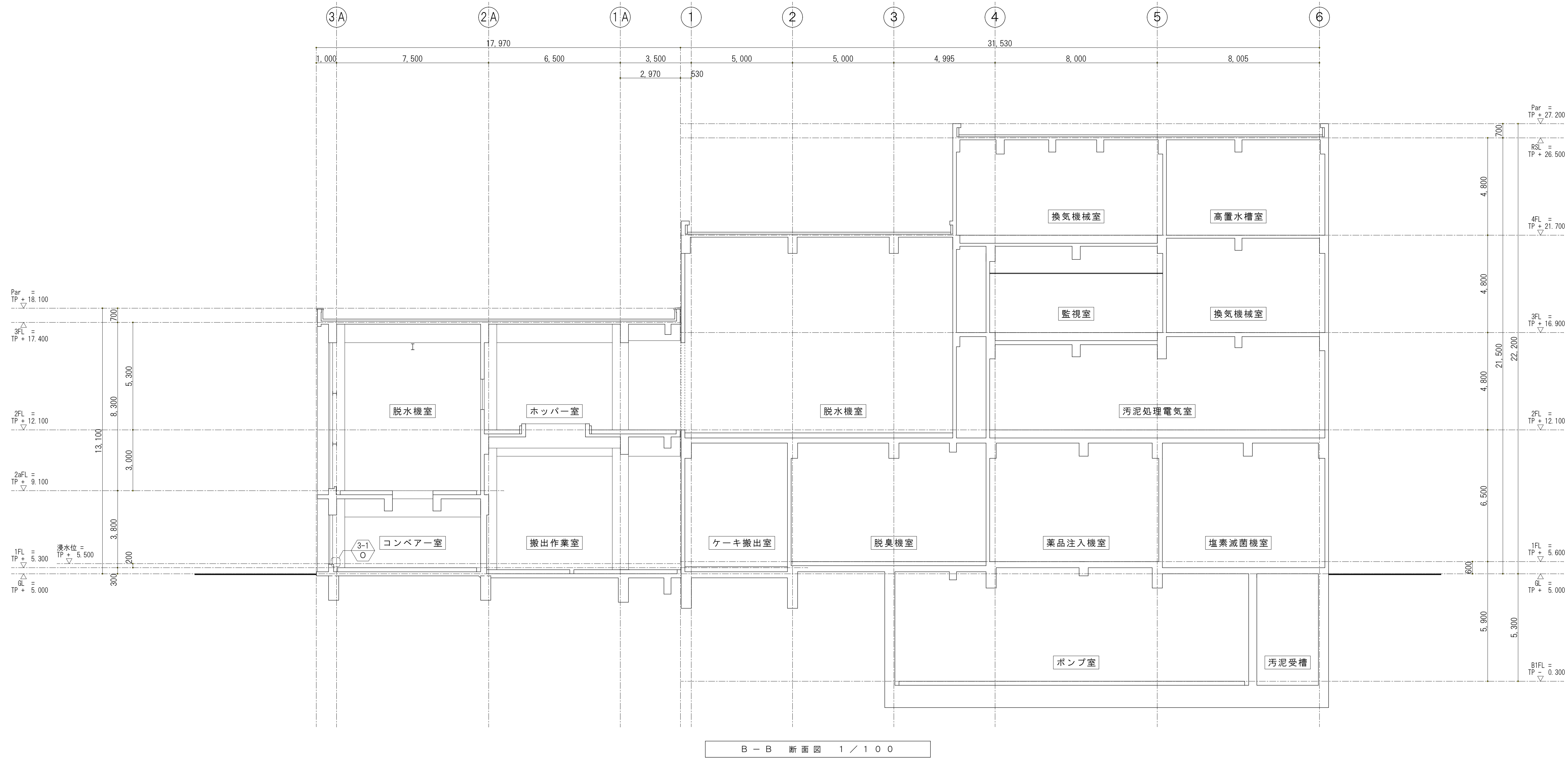
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要

凡 例

- 新設部分を示す。
- 部分詳細図番号を示す。
- 新設建具番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-12
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 立面図(8)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新潟県上越市			

改 修 前



改修内容一覧表

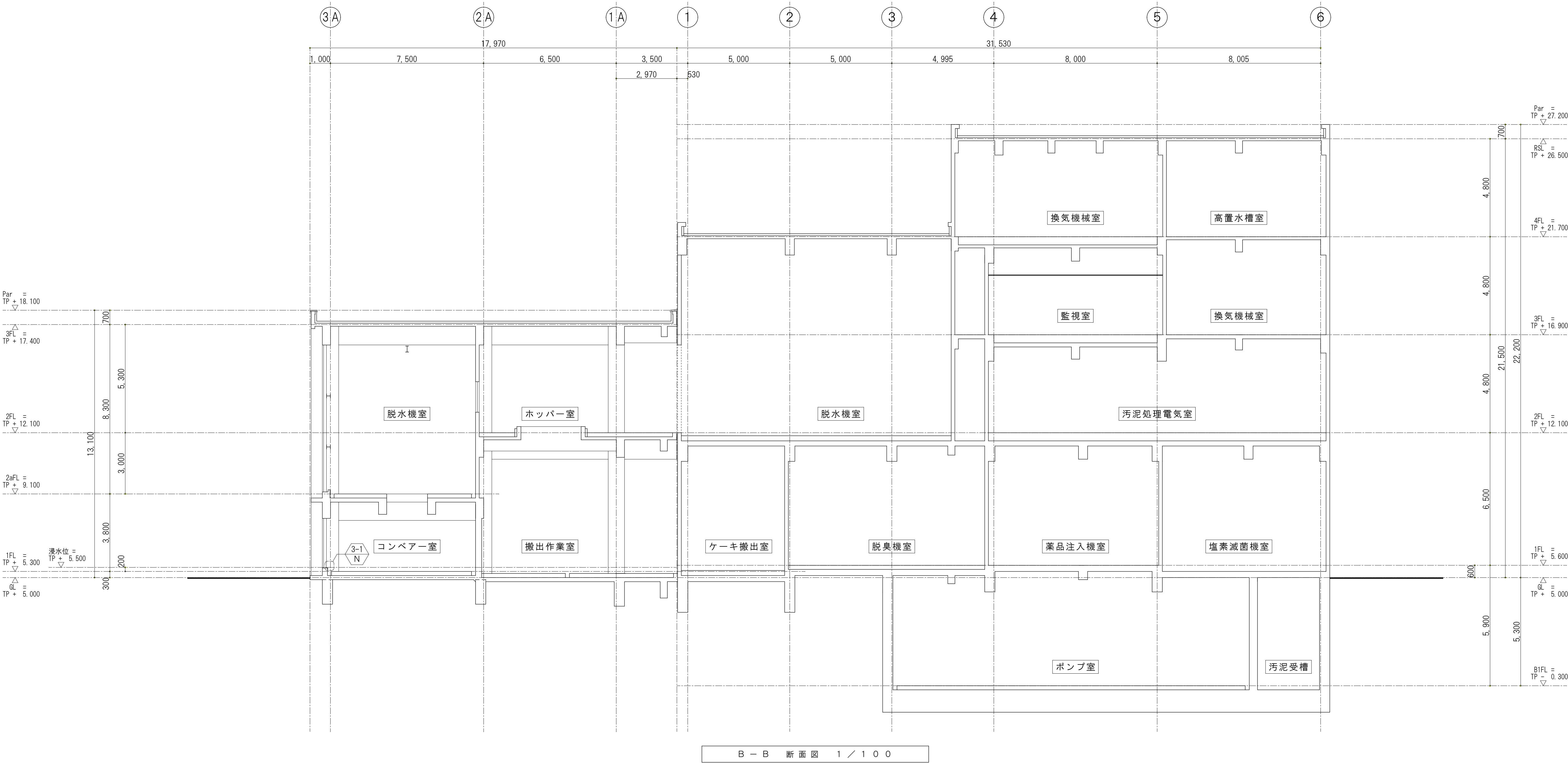
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F コンベアー室	仮壁部 耐水改修									

凡 例

部分詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-13
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図(1)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 後



改修内容一覧表

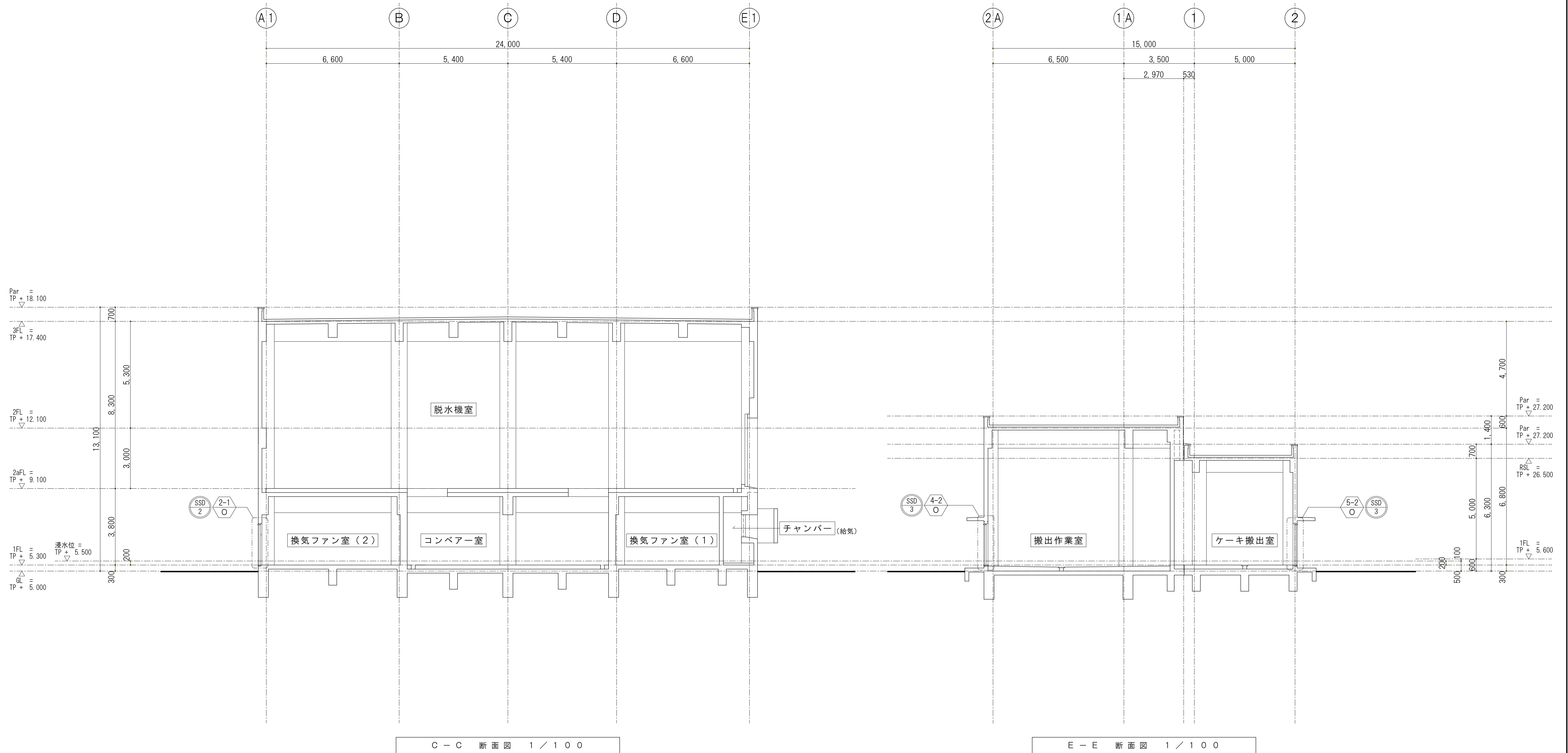
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
<div>3-1 N</div>	1F コンベアー室	仮壁部 耐水改修	樹脂モルタル 新設								

凡 例

部分詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-14
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図(2)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			



改 修 前



改修内容一覽表

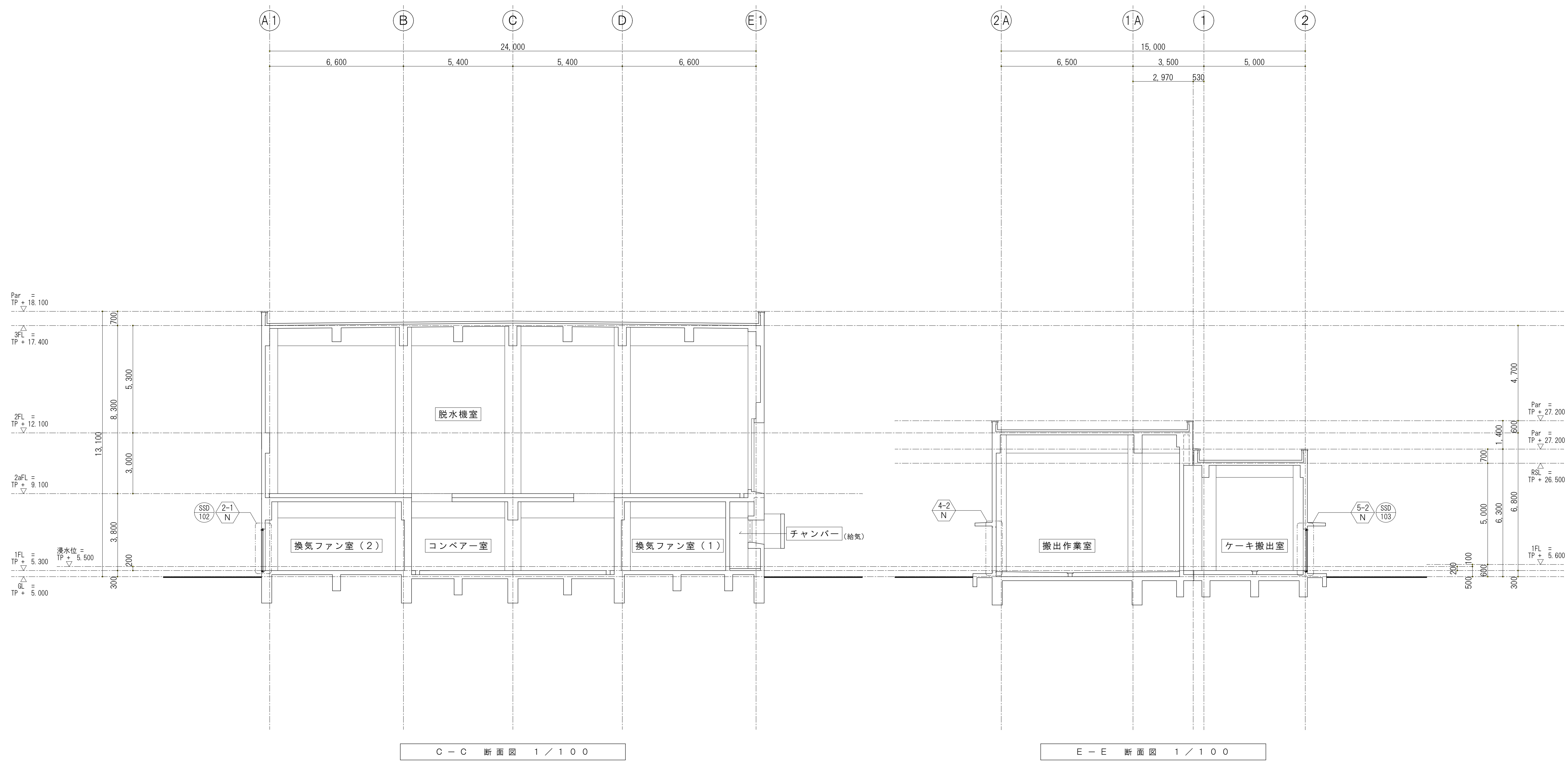
[illegible]

凡 例

 部分詳細図番号を示す。
 撤去建具番号を示す。

工事番号	公設補 第5-機高-5号	図面番号	A1-15
工事名	下水道センター 耐水化対策（建築）工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図（3）		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 後



改修内容一覧表

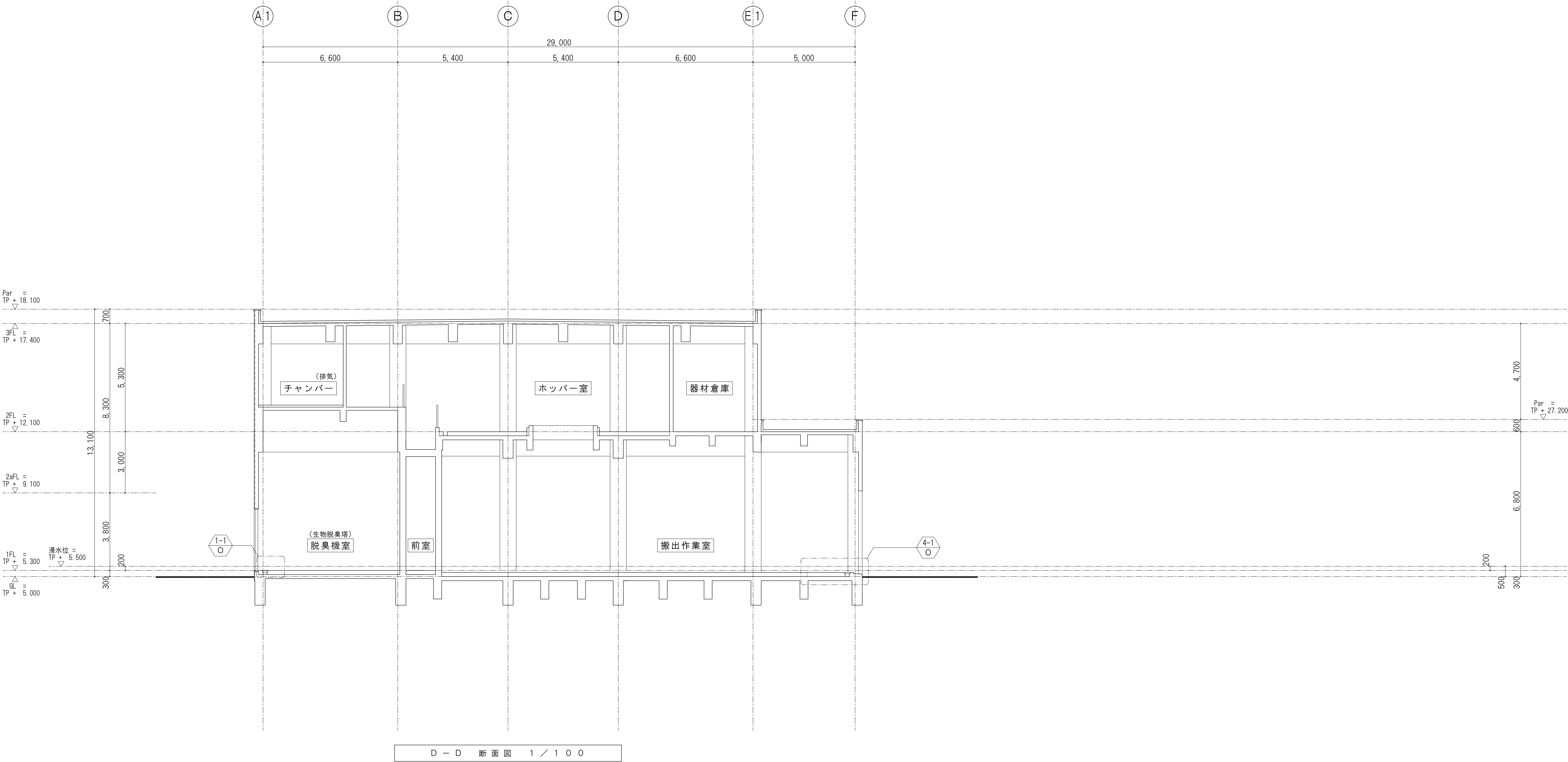
凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 換気ファン室 (2)	扉 改修	防水扉 新設		1F 搬出作業室	開口 閉塞	コンクリート壁 新設

凡 例

- 部分詳細図番号を示す。
- 新設建具番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-16
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図(4)		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改 修 前



改修内容一覧表

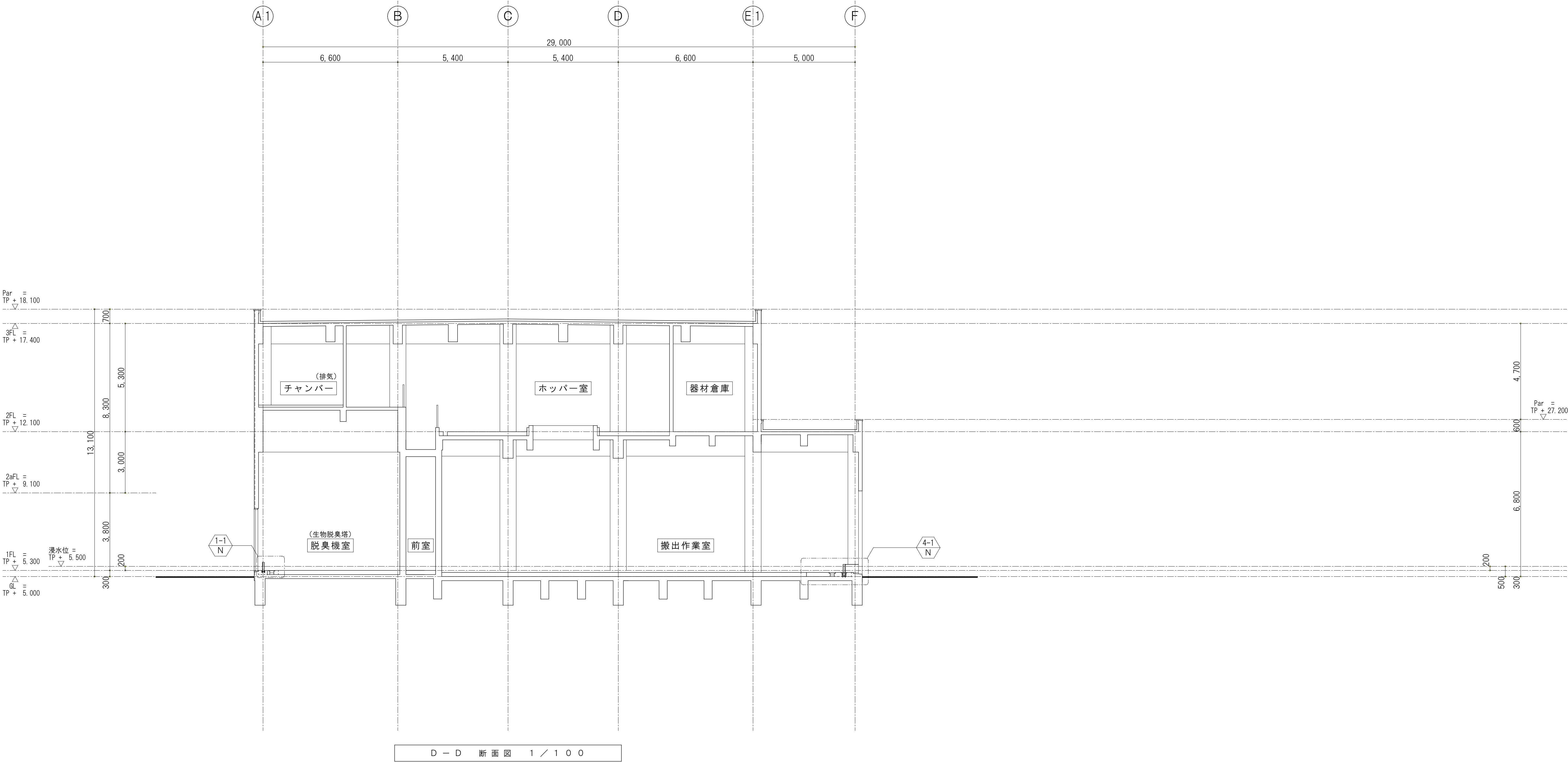
凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要	凡 例	改修箇所	改修内容	撤去概要
	1F 脱臭機室	防水板 設置	床無筋コンクリート 撤去 側溝グレーチング 撤去・保管 側溝グレーチング受枠 撤去		1F 搬出作業室前	防水板 設置	無筋コンクリート 撤去 側溝 撤去 グレーチング 撤去・保管 グレーチング受枠 撤去 床スラブ 撤去 排水目皿 撤去 (AM工事) 排水管 撤去 (AM工事)				

凡 例

部分詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-17
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図(5)		
縮尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			

改 修 後



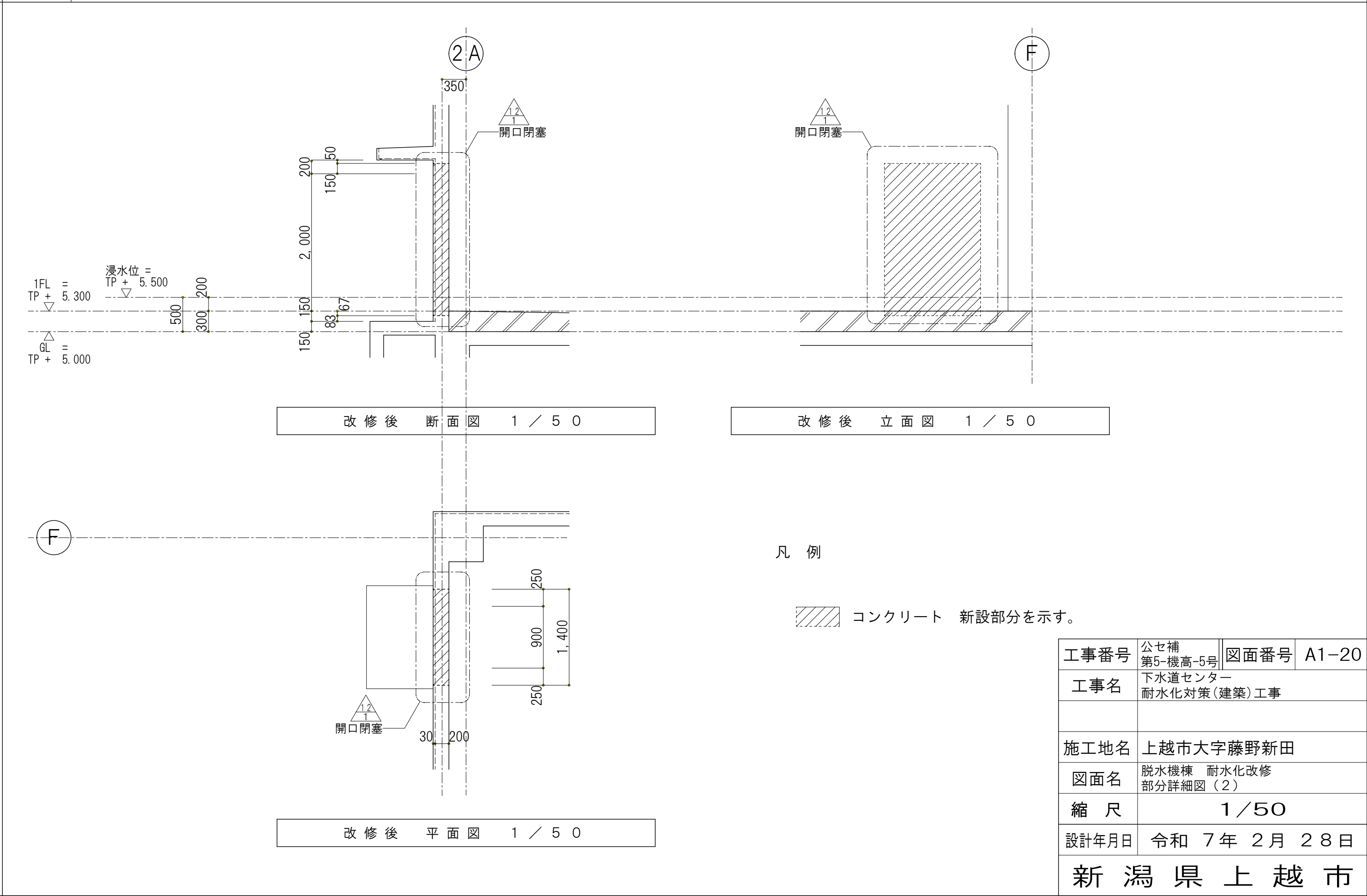
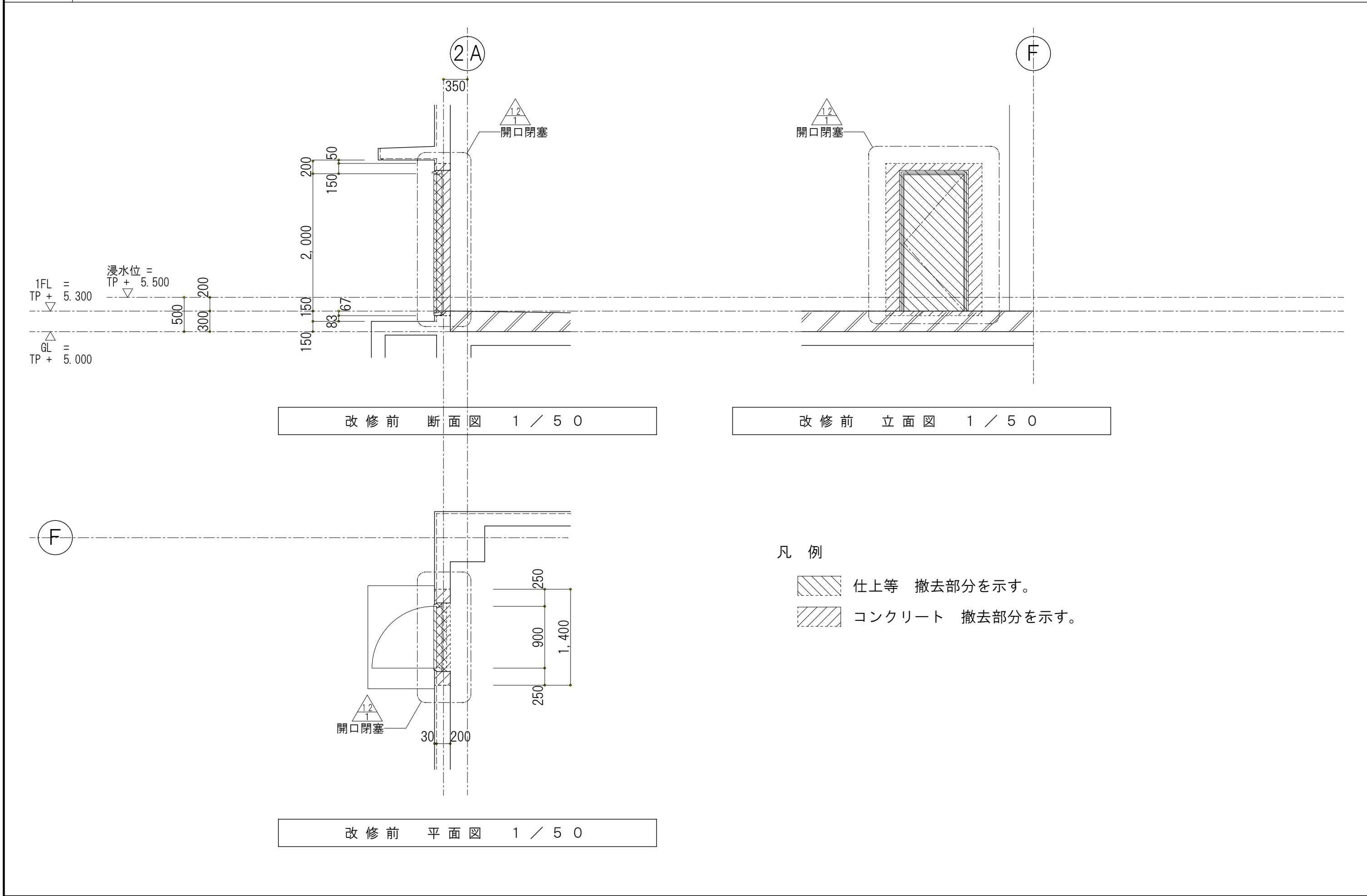
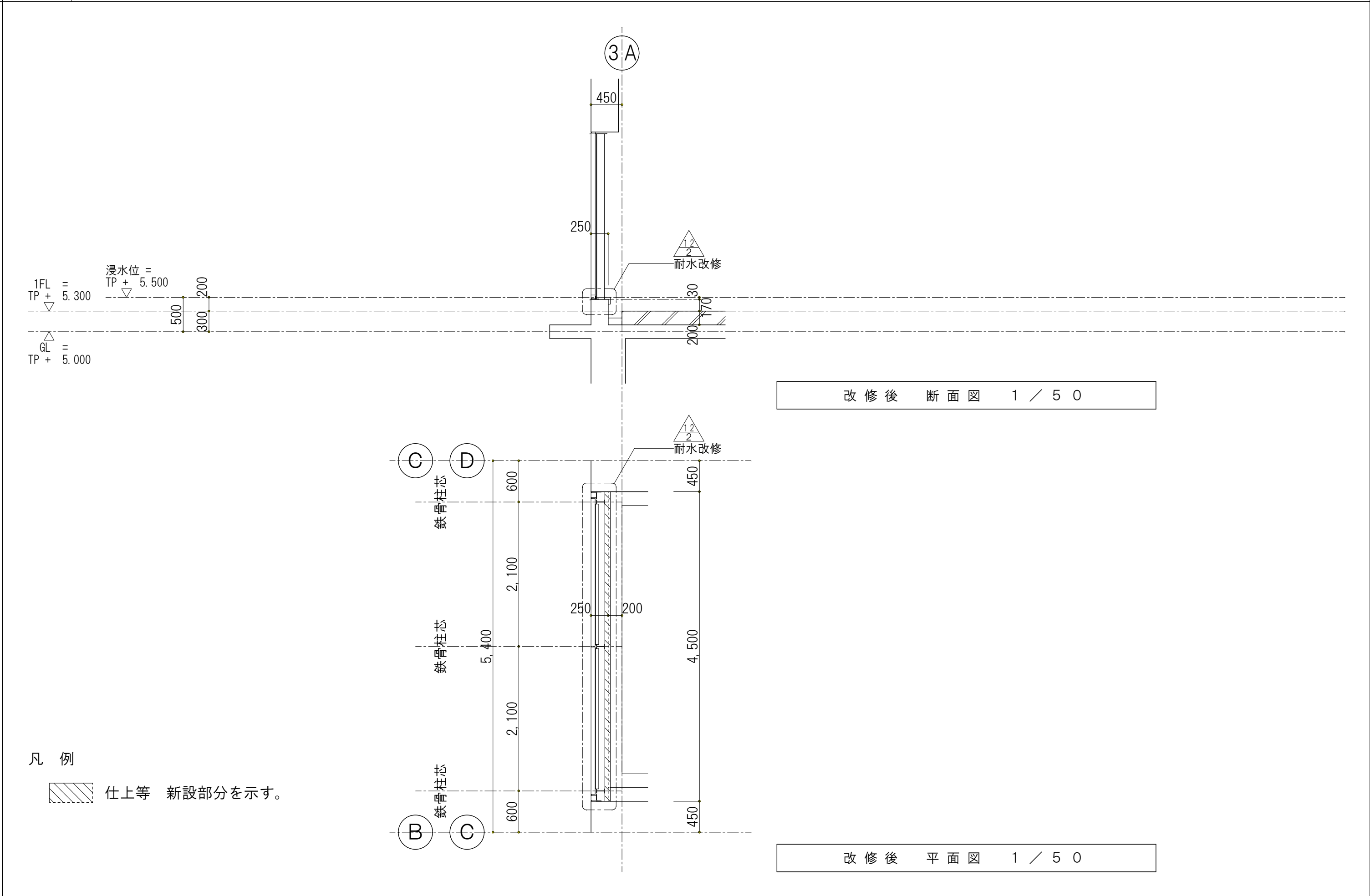
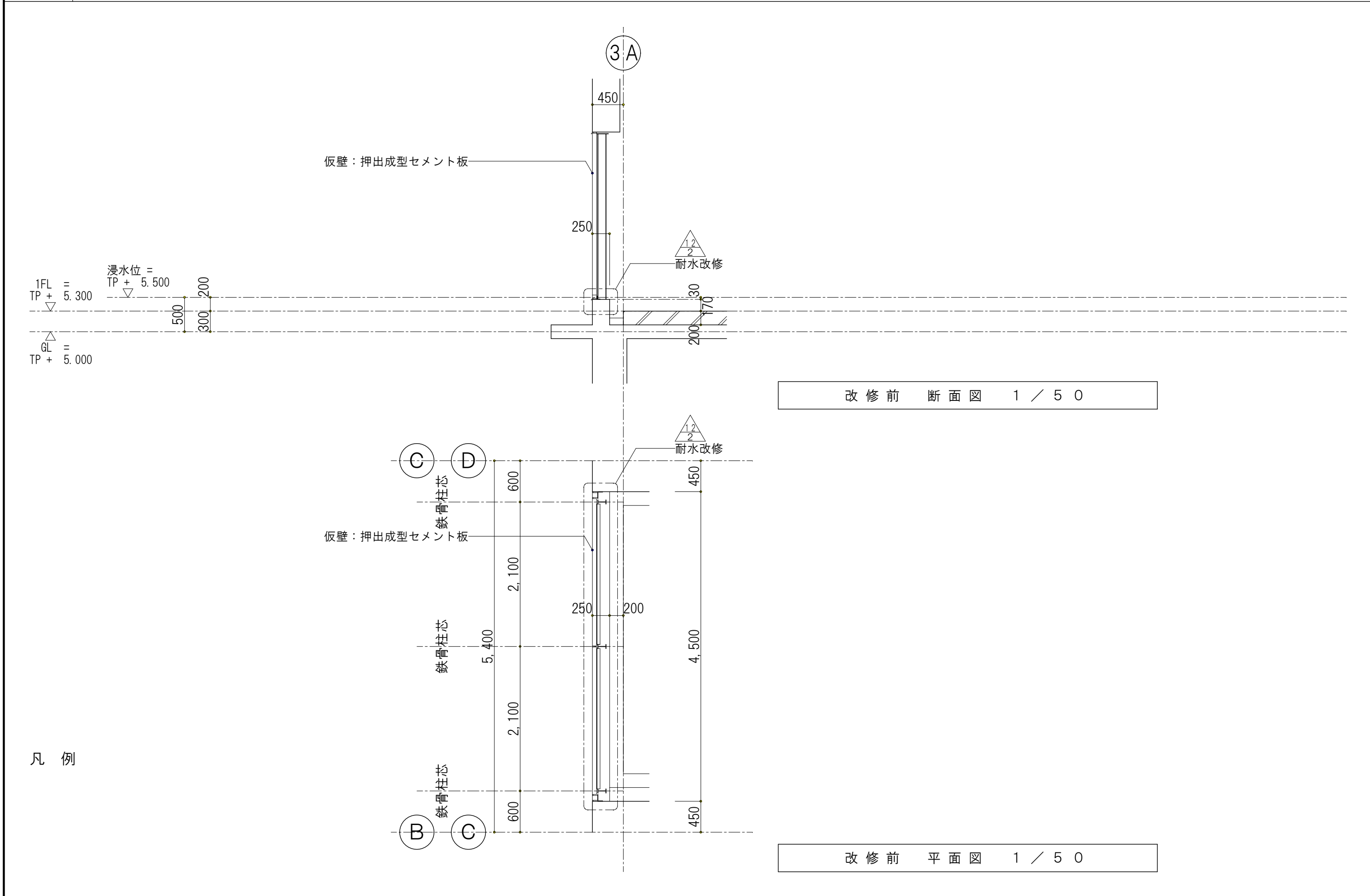
改修内容一覧表

凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要	凡 例	改修箇所	改修内容	新設概要
	1F 脱臭機室	防水板 設置	防水板 新設 RC袖壁 新設 床無筋コンクリート 新設 側溝グレーチング 再設置 側溝グレーチング受枠 新設		1F 搬出作業室	防水板 設置	無筋コンクリート 新設 側溝 新設 グレーチング 再設置・加工再設置 グレーチング受枠 新設 床スラブ 新設 排水目皿 新設 (AM工事) 排水管 新設 (AM工事)				

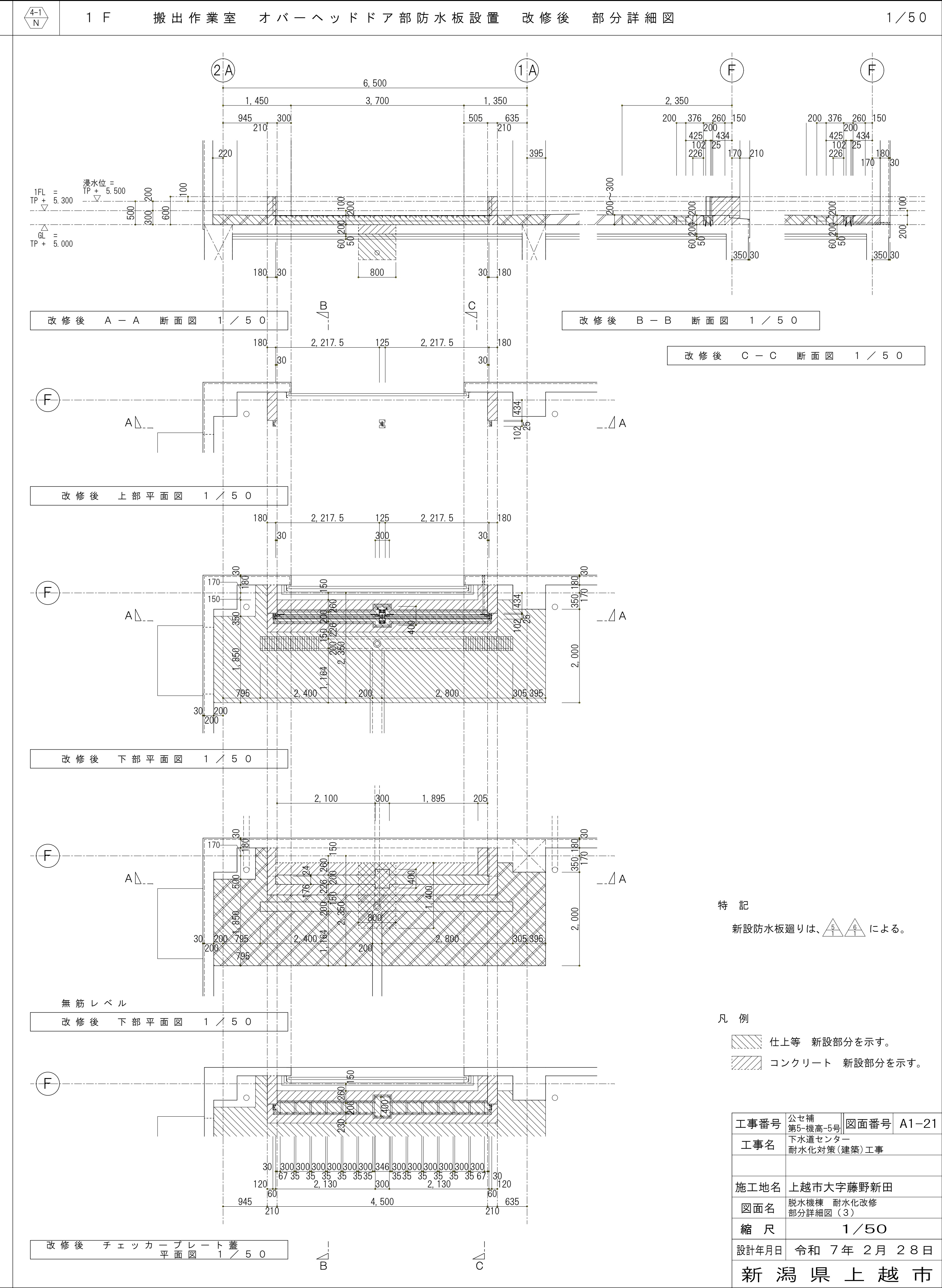
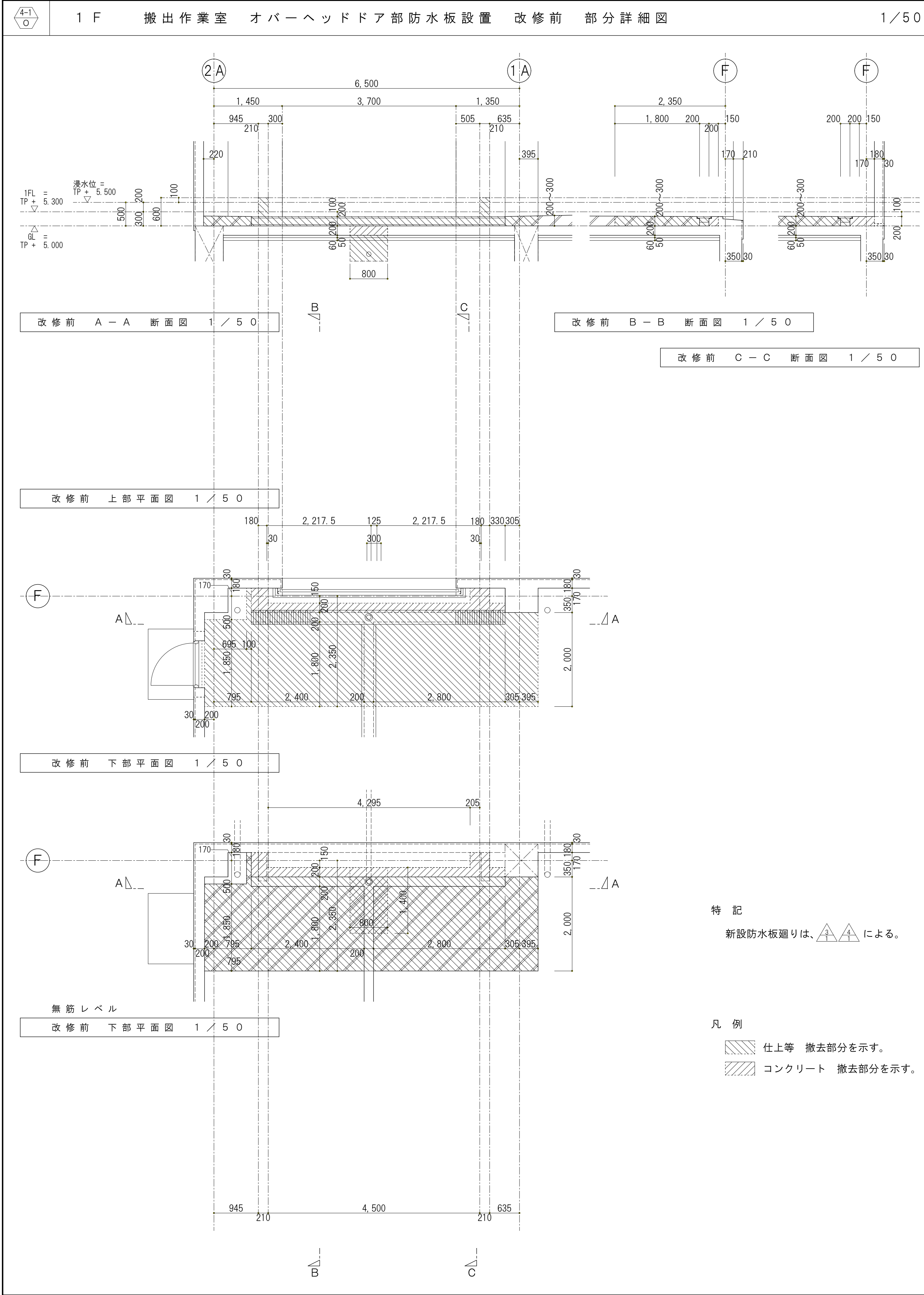
凡 例

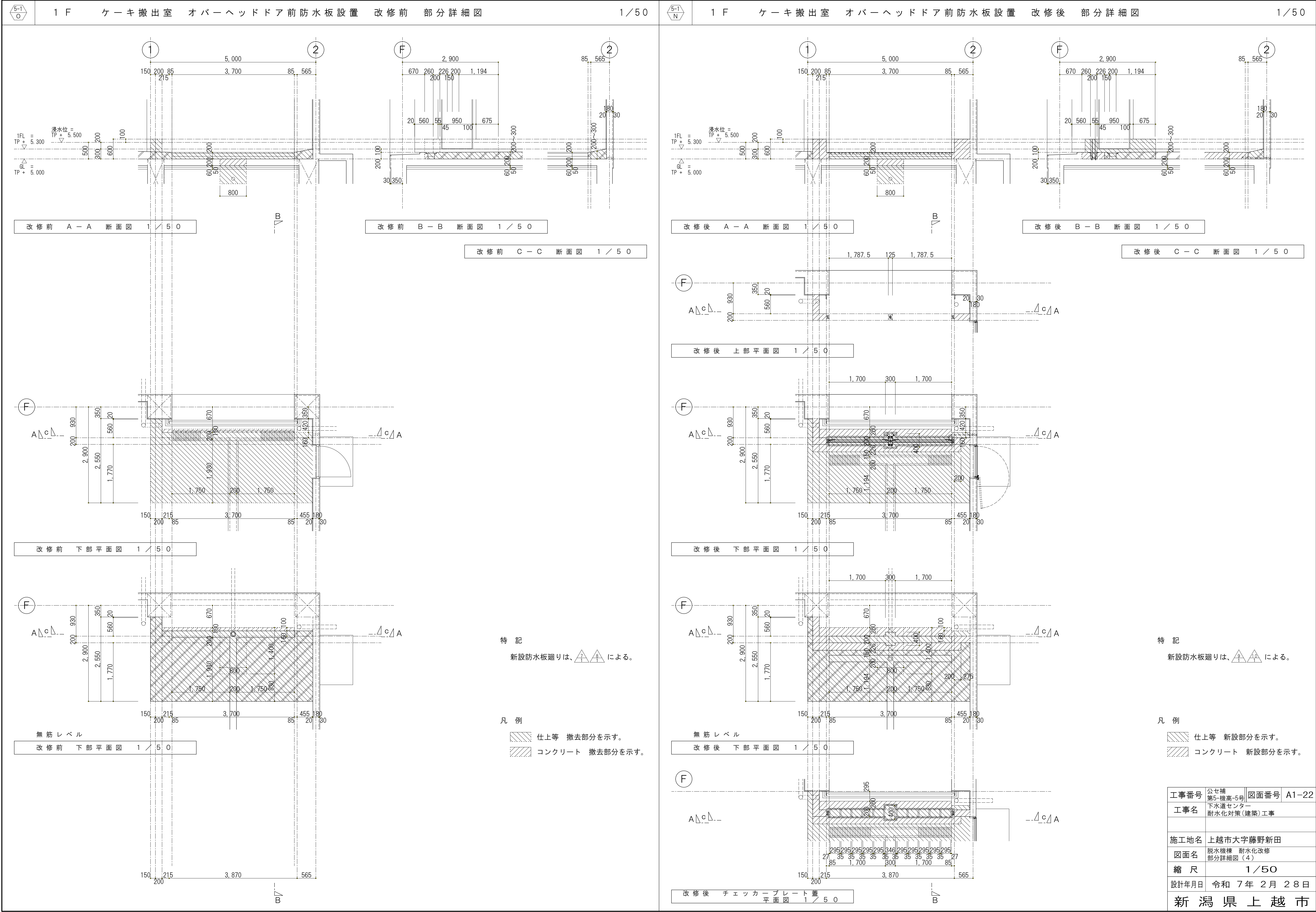
部分詳細図番号を示す。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-18
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 断面図(6)		
縮尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			



工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-20
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図(2)		
縮 尺	1/50		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			





<div><div>5-2 O</div><div>1 F ケーキ搬出室 扉 改修前 部分詳細図</div><div>1 / 5 0</div></div>	<div><div></div><div>改修前 断面図 1 / 5 0</div></div> <div><div></div><div>改修前 立面図 1 / 5 0</div></div> <div><div></div><div>改修前 平面図 1 / 5 0</div></div> <div><div>凡 例</div><div><div>仕上等 撤去部分を示す。</div><div>コンクリート 撤去部分を示す。</div></div></div>	<div><div>5-2 N</div><div>1 F ケーキ搬出室 扉 改修後 部分詳細図</div><div>1 / 5 0</div></div>																												
<table><tr><td>工事番号</td><td>公セ補 第5-機高-5号</td><td>図面番号</td><td>A1-23</td></tr><tr><td>工事名</td><td colspan="3">下水道センター 耐水化対策(建築)工事</td></tr><tr><td>施工地名</td><td colspan="3">上越市大字藤野新田</td></tr><tr><td>図面名</td><td colspan="3">脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図(5)</td></tr><tr><td>縮 尺</td><td colspan="3">1 / 5 0</td></tr><tr><td>設計年月日</td><td colspan="3">令和 7 年 2 月 2 8 日</td></tr><tr><td colspan="4">新 潟 県 上 越 市</td></tr></table>			工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-23	工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事			施工地名	上越市大字藤野新田			図面名	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図(5)			縮 尺	1 / 5 0			設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日			新 潟 県 上 越 市			
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-23																											
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事																													
施工地名	上越市大字藤野新田																													
図面名	脱水機棟 耐水化改修 部分詳細図(5)																													
縮 尺	1 / 5 0																													
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日																													
新 潟 県 上 越 市																														

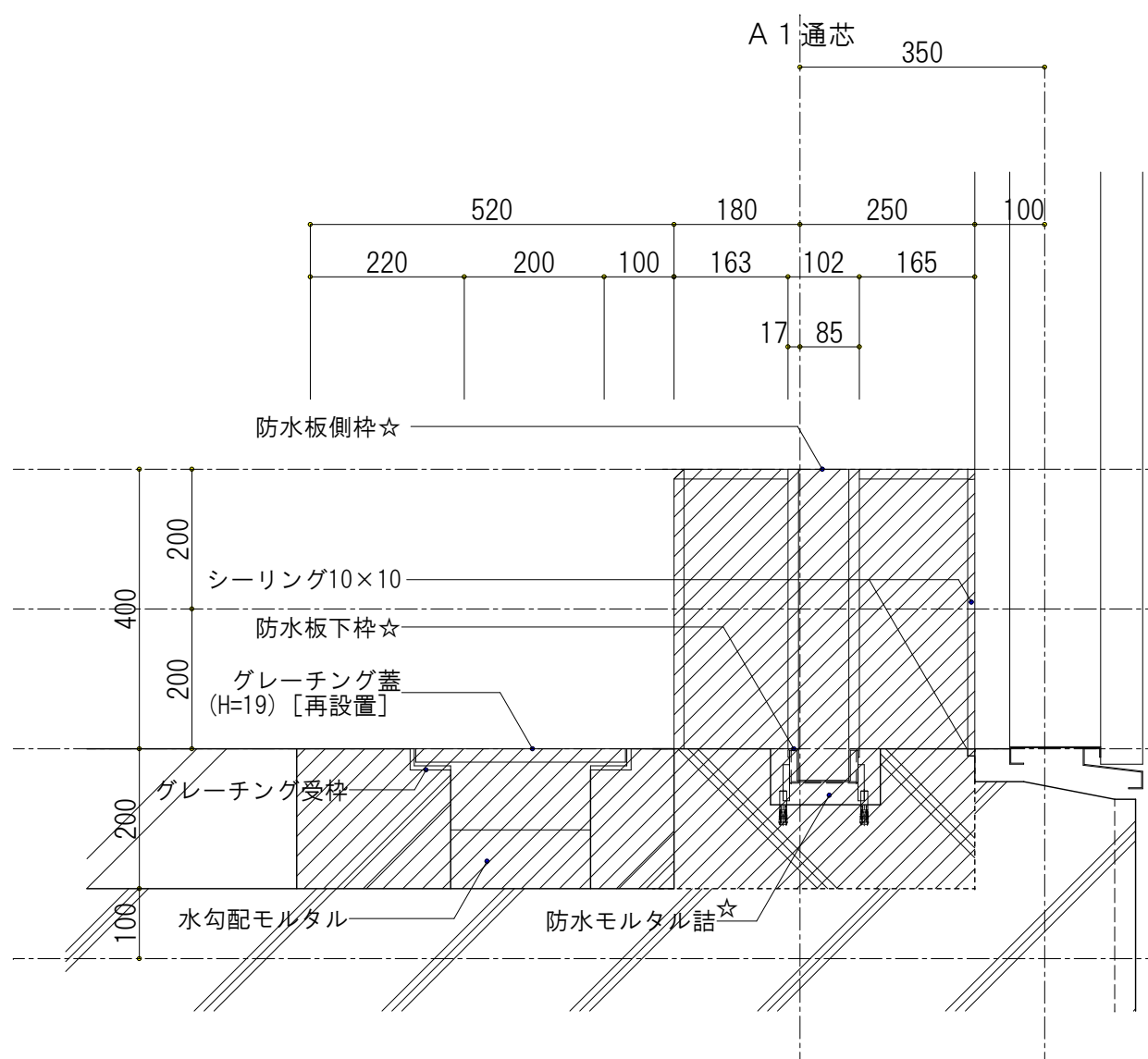
C—C 断面图

上部 平面図

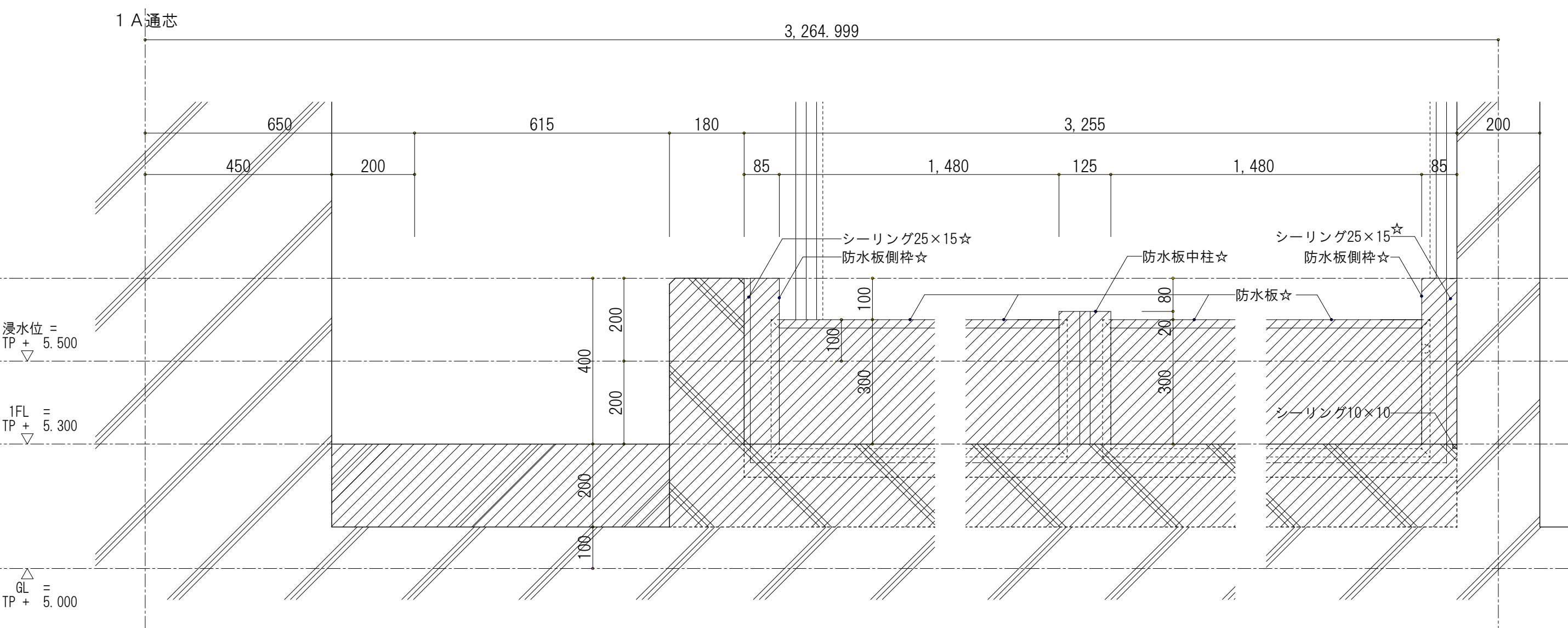
下部 平面図

工事番号	公設補 第5-機高-5号	図面番号	A1-24
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(1)		
縮尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			

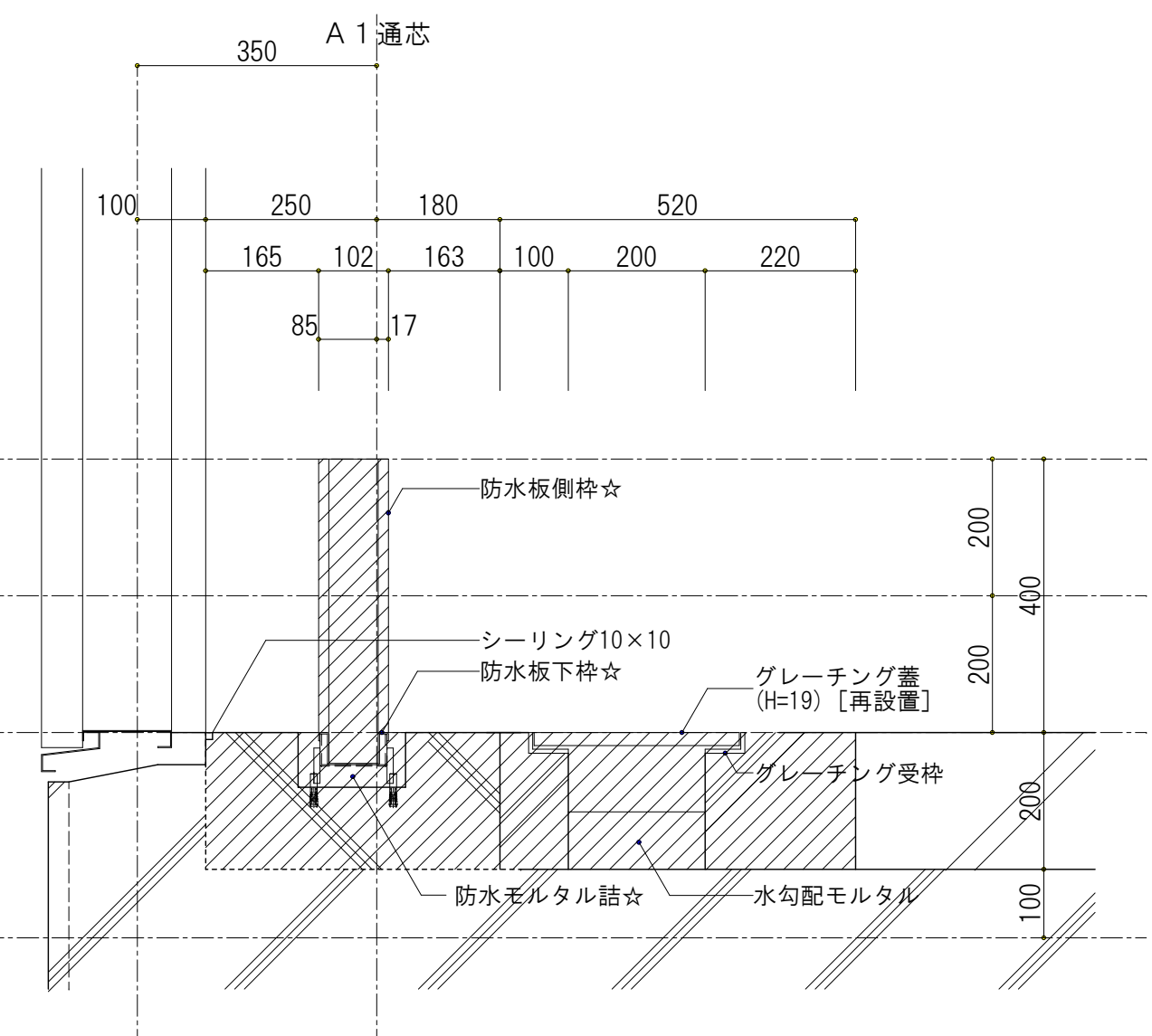
改修後



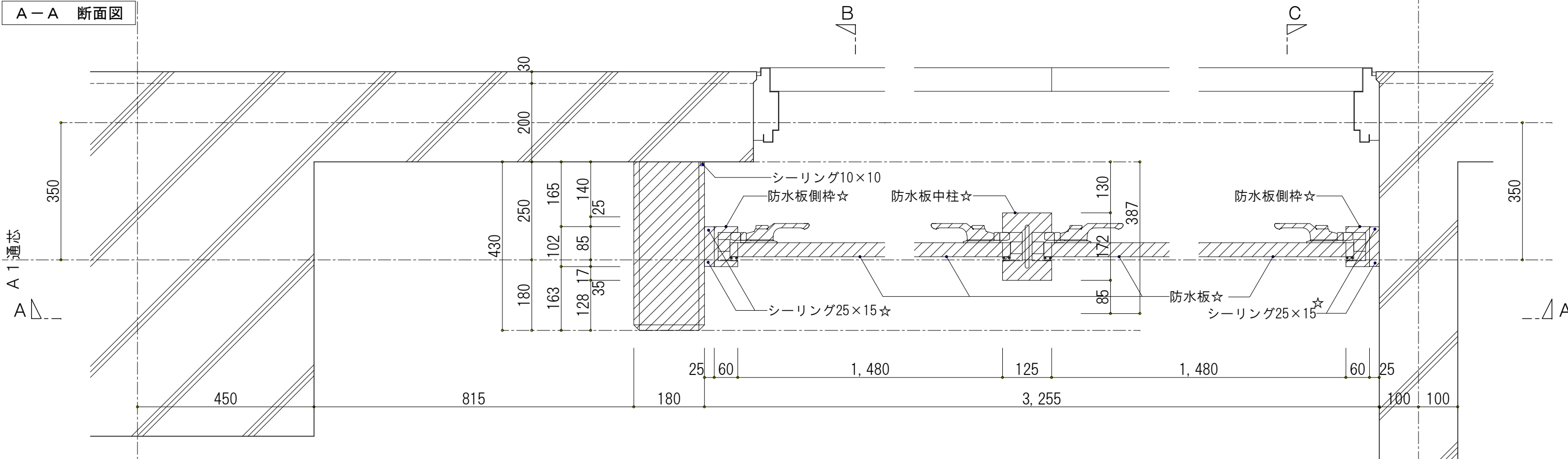
B-B 断面図



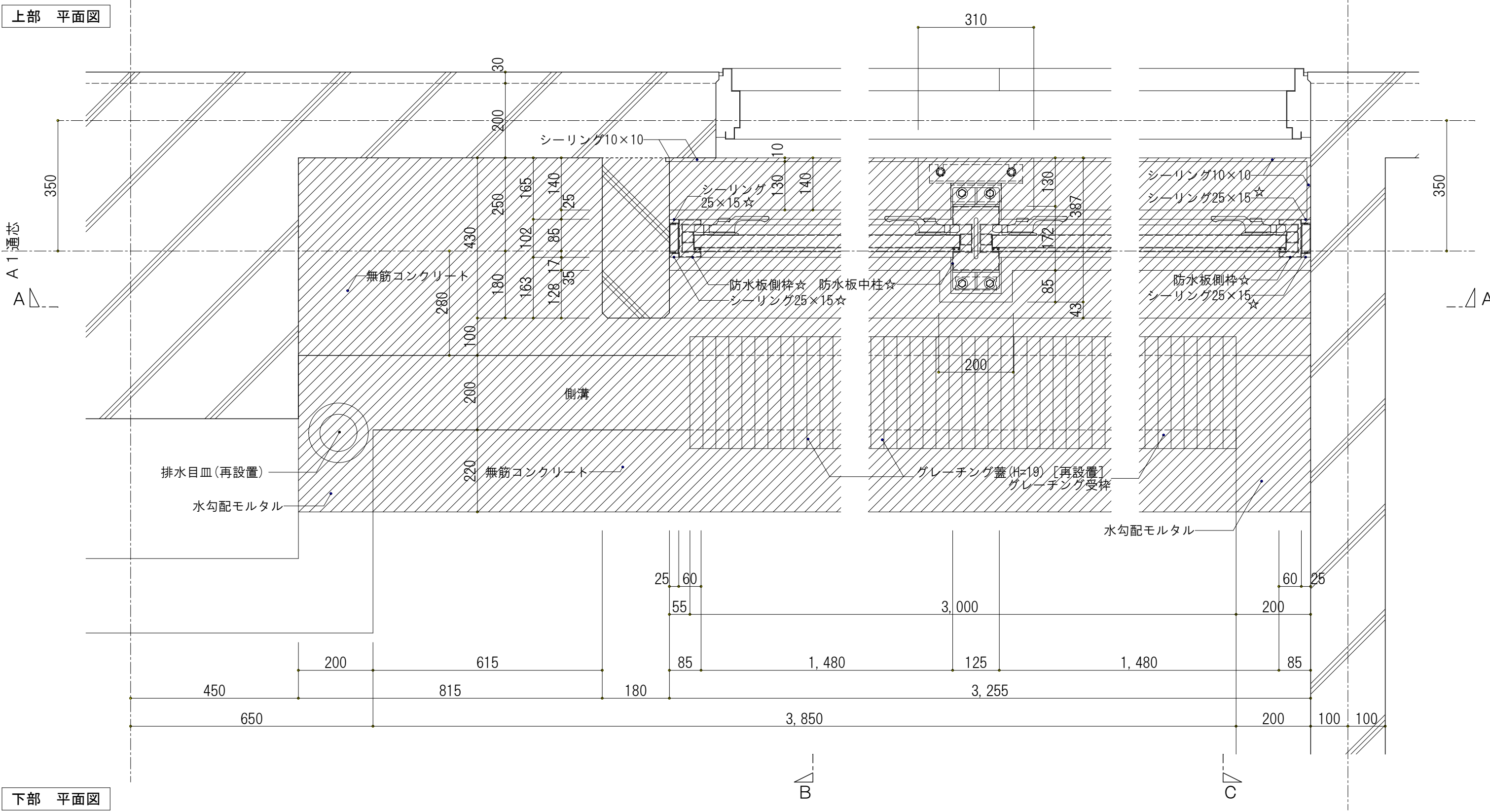
A-A 断面図



C-C 断面図



上部 平面図



下部 平面図

防水板(脱着式)仕様☆ ※他の箇所(他の棟含む)の防水板も同じ

参考品：中部美化企業 ウォーターシャッター 同等以上

防水板：止水ゴム付きアルミ制パネル

側 枠：アルミサイドフレーム

中 柱：アルミ中間フレーム

下 枠：SUS304下部フレーム

止水性能：Ws-6相当

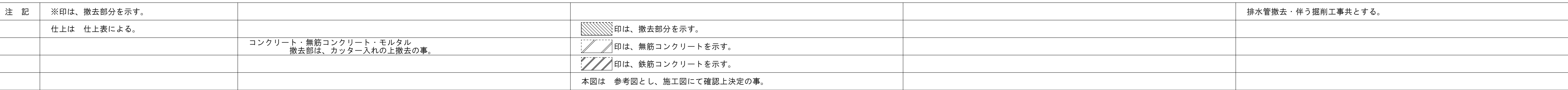
三方水密仕様：シーリング・防水モルタル

後施工アンカーD13@300・溶接留め

注 記	表記部分は、新設部分を示す。
	仕上は 仕上表による。
	☆印は、防水板工事を示す。
	印は、無筋コンクリートを示す。
	印は、新設鉄筋コンクリートを示す。
	印は、新設部分を示す。
	新設鉄筋コンクリート部 既存コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。
	本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。
	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。
	防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。
	鉄筋コンクリート新設部の アンカー・配筋は 構造図による。
	新設防水板袖壁コンクリート部仕上 天端：コンクリート直均し 側面：コンクリート打放し

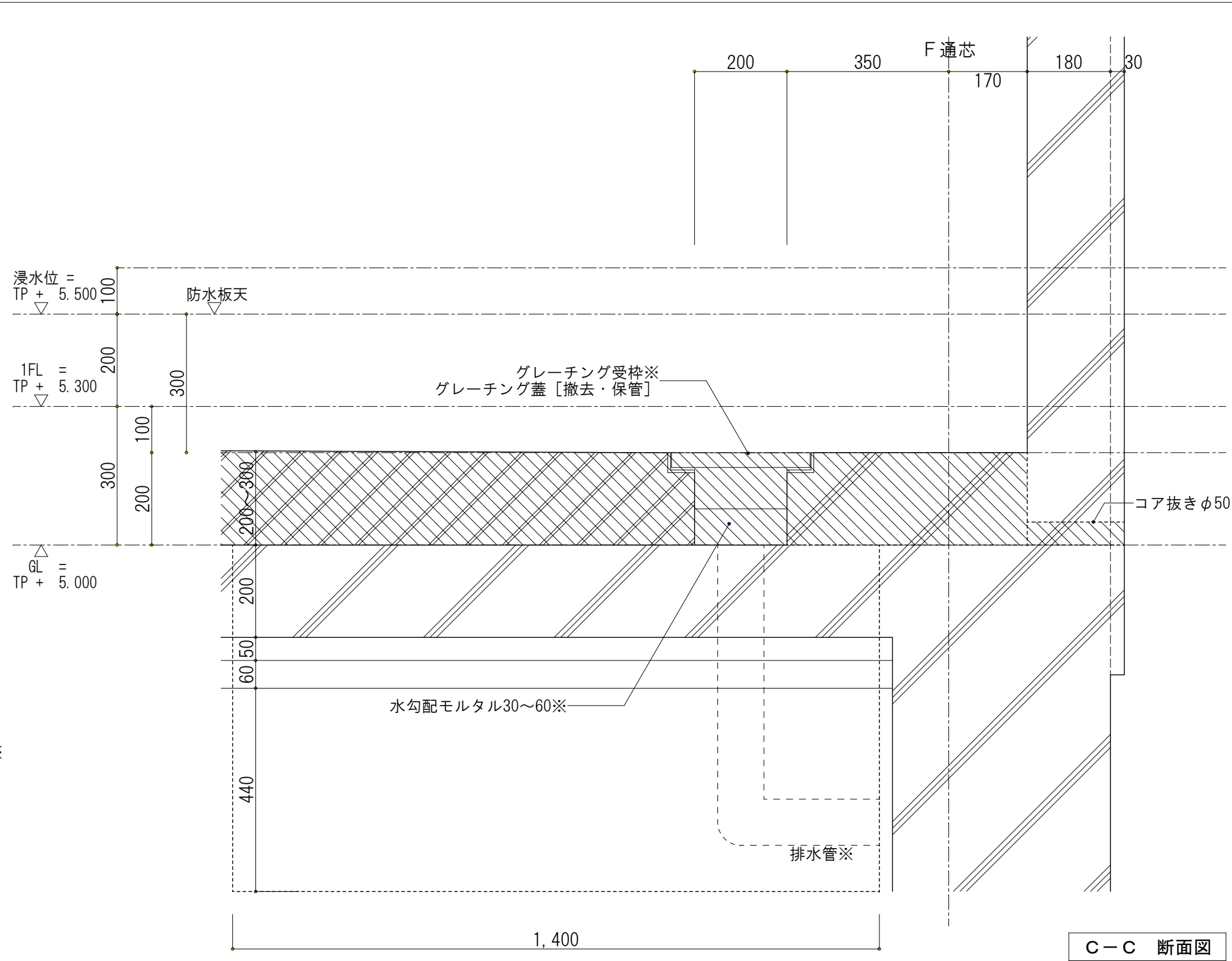
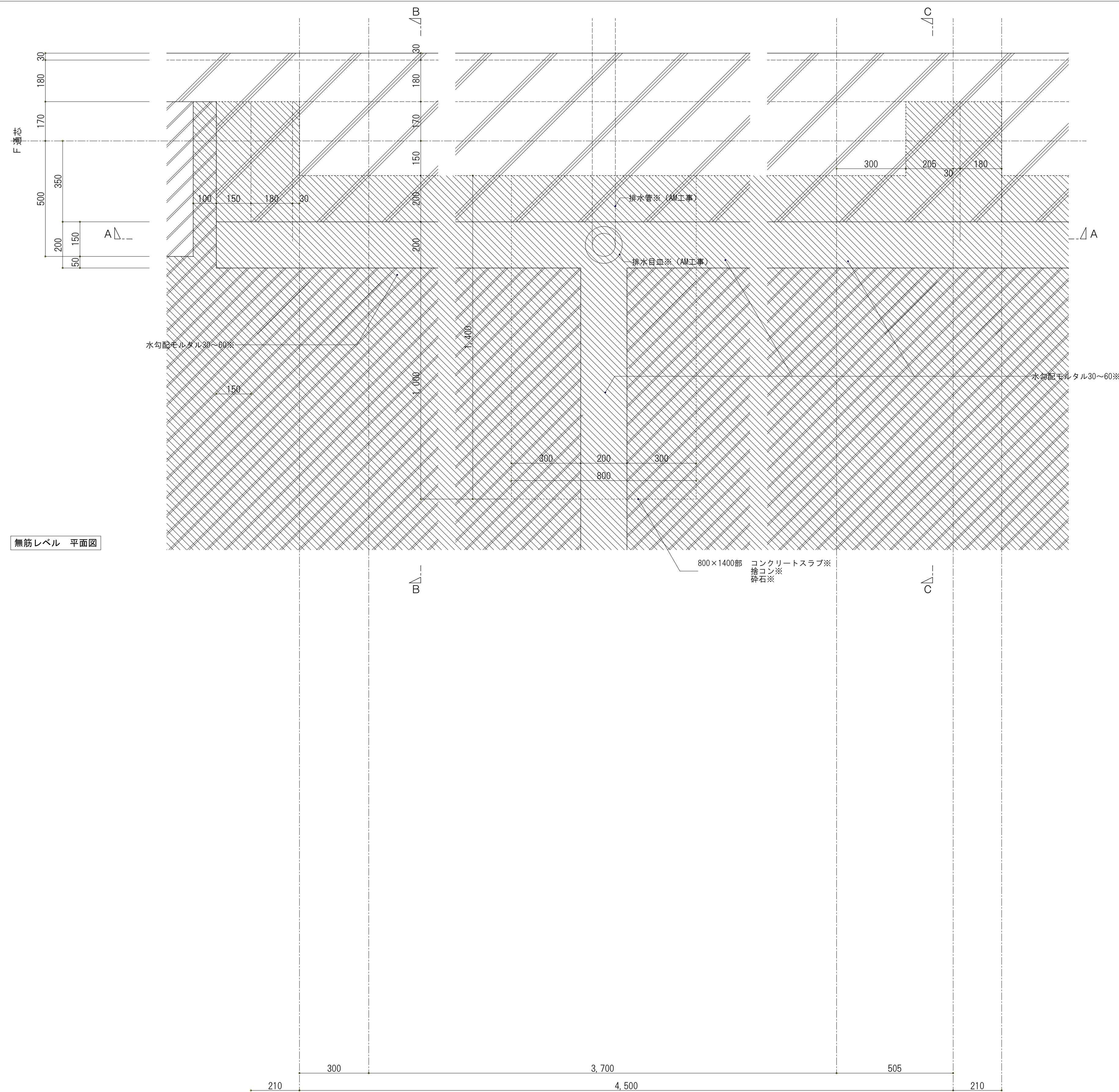
工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-25
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱臭機棟 耐水化改修 雑詳細図 (2)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修前



工事番号	公設補 第5-堤高-5号	図面番号	A1-26
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(3)		
縮尺	1/10		
設計年月日	令和 7年 2月 28日		
新潟県上越市			

改修前



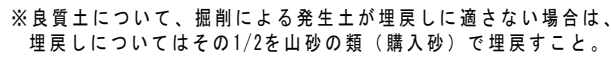
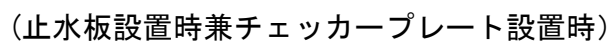
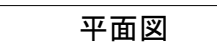
無筋レベル 平面図

C-C 断面図

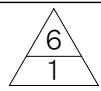
注 記	※印は、撤去部分を示す。			排水管撤去・伴う掘削工事共とする。
	仕上は 仕上表による。			
		コンクリート・無筋コンクリート・モルタル 撤去部は、カッター入れの上撤去の事。	印は、撤去部分を示す。 印は、無筋コンクリートを示す。 印は、鉄筋コンクリートを示す。	
			本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。	

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-27
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(4)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			

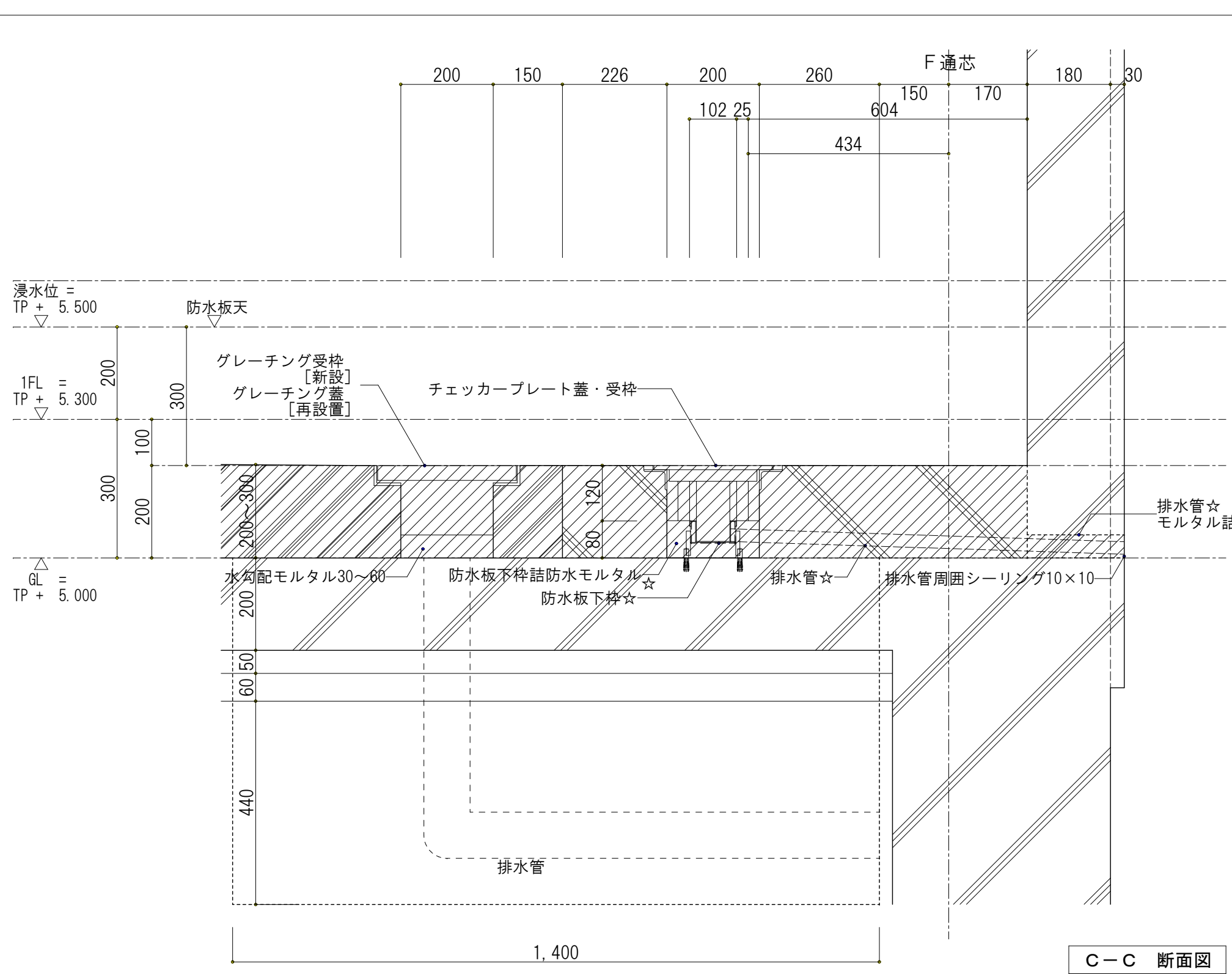
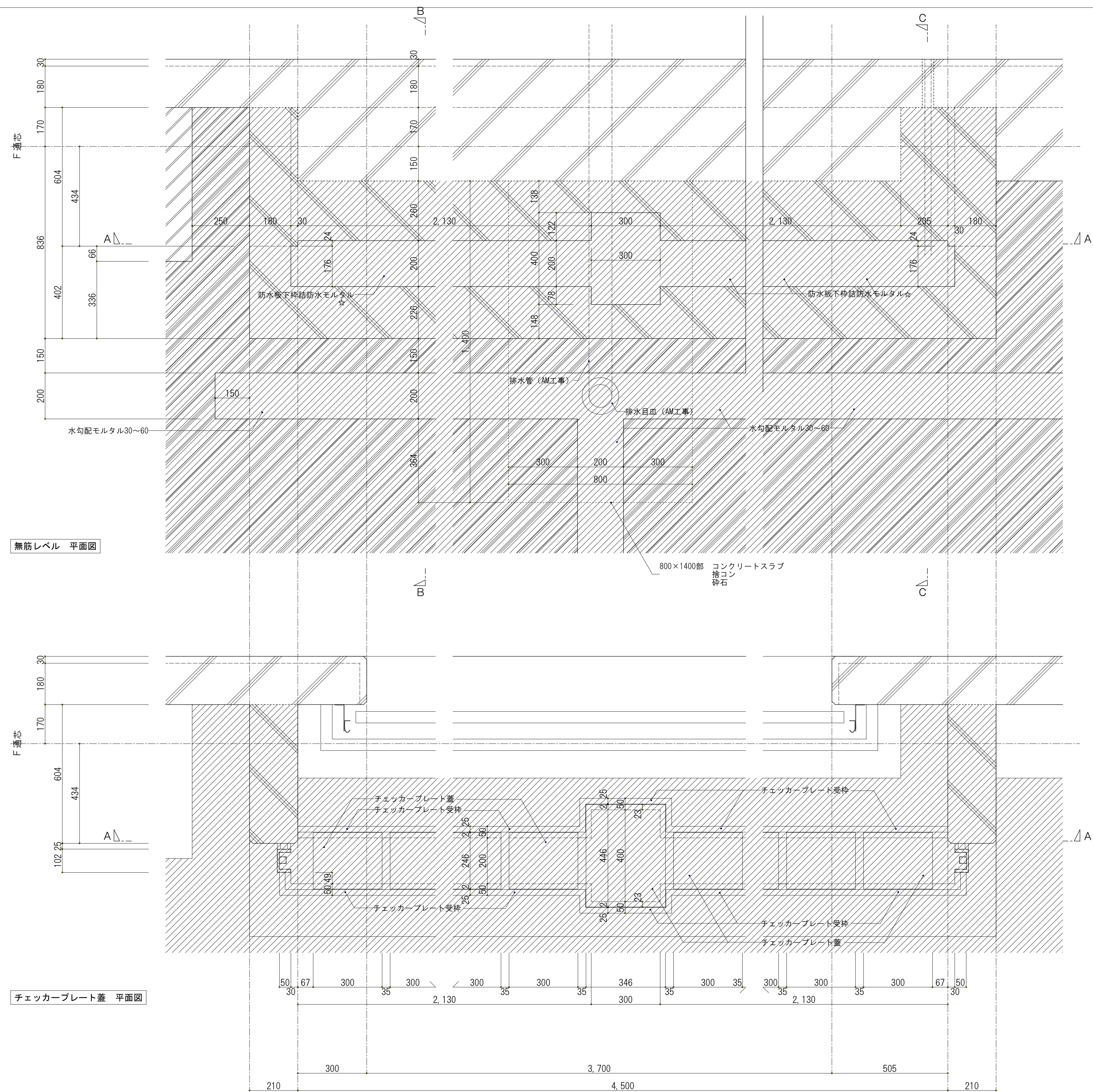
改修後



工事番号	公設補 第5-機高-5号	図面番号	A1-28
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(5)		
縮尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			



改修後

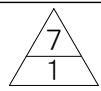


無筋レベル 平面図

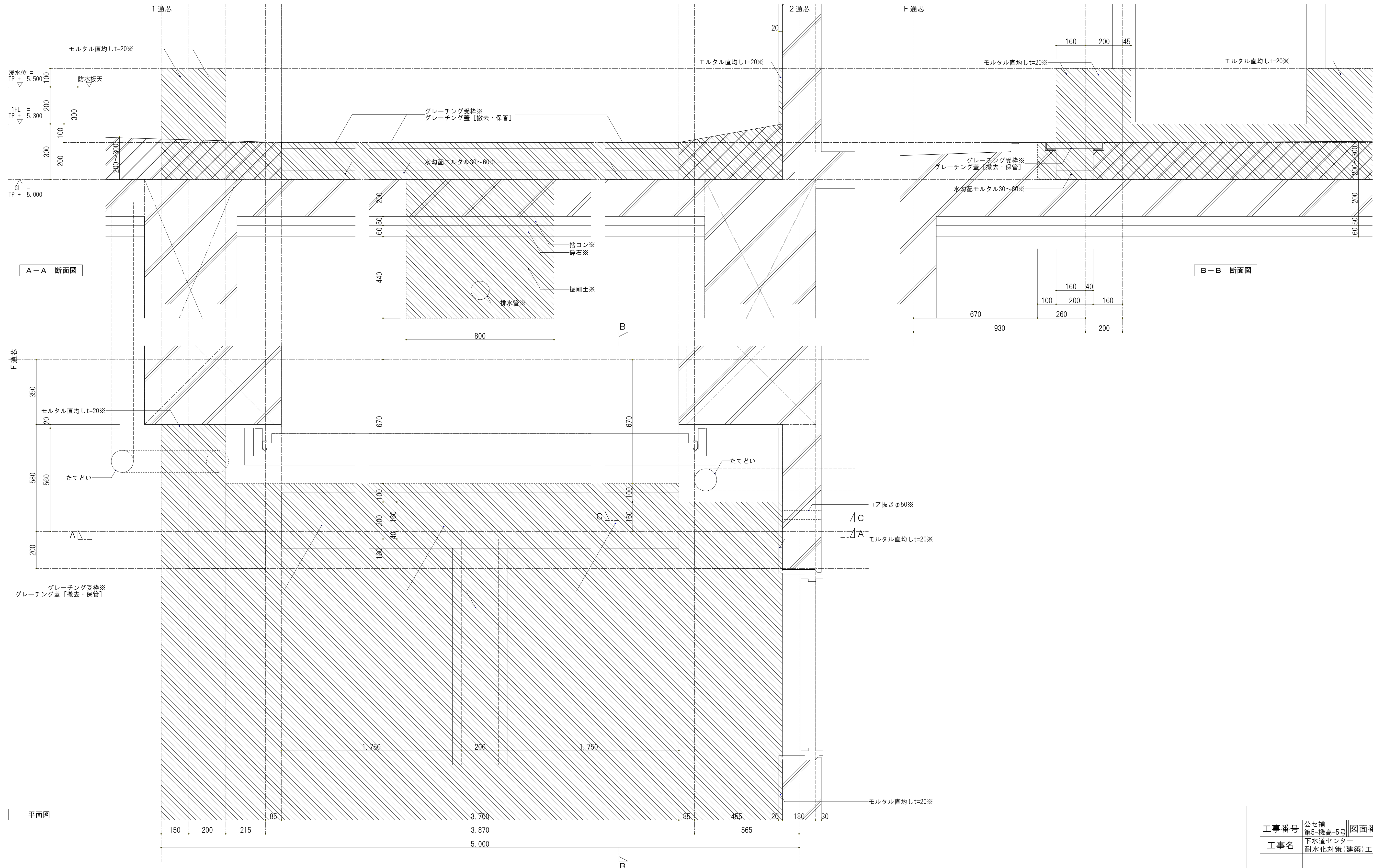
チェッカープレート蓋 平面図

注 記	表記部分は、新設部分を示す。	チェッカープレート蓋・受枠は、△△による。	印は、新設部分を示す。	防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。	排水管新設・伴う埋戻し工事（転圧）共とする。
	仕上は 仕上表による。		新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。	
	☆印は、防水板工事を示す。	コンクリート新設部の アンカー・配筋は 構造図による。	印は、無筋コンクリートを示す。		
			印は、新設鉄筋コンクリートを示す。		
			本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。		

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-29
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(6)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			



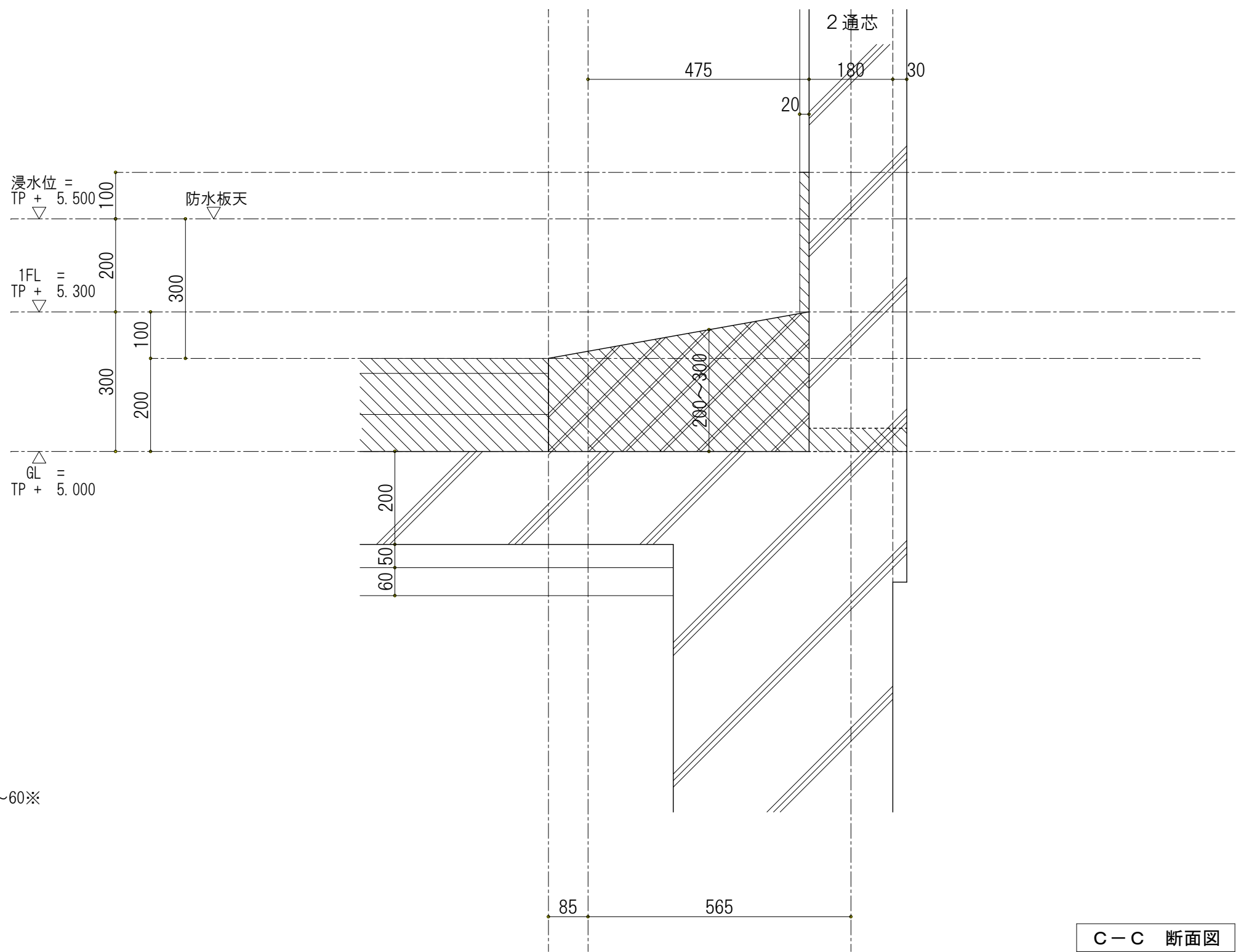
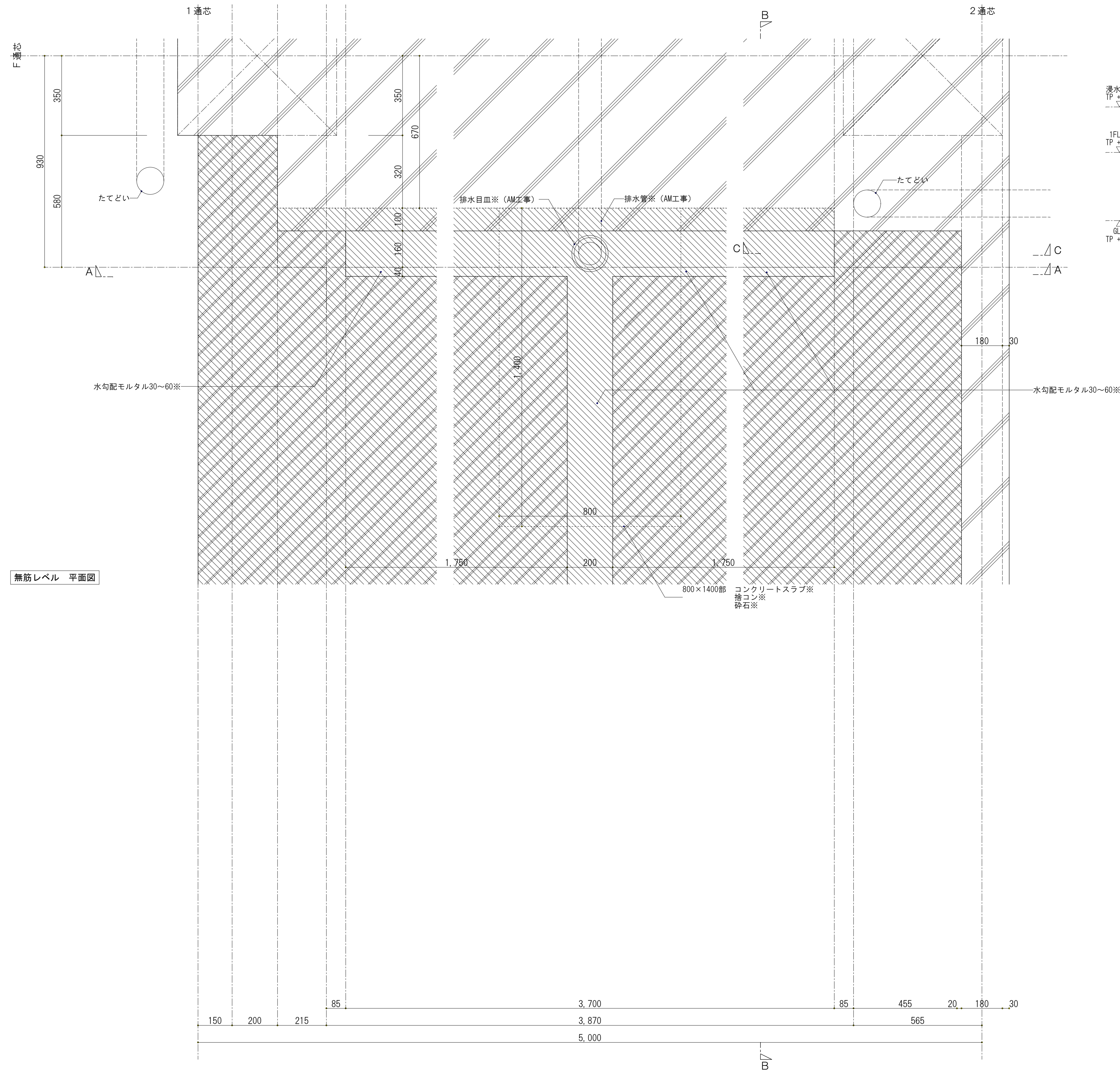
改修前



注	※印は、撤去部分を示す。				排水管撤去・伴う掘削工事共とする。
	仕上は 仕上表による。				
		コンクリート・無筋コンクリート・モルタル	印は、撤去部分を示す。		
		撤去部は、カッター入れの上撤去の事。	印は、無筋コンクリートを示す。		
			印は、鉄筋コンクリートを示す。		
			本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。		

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-30
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(7)		
縮尺	1/10		
設計年月日	令和 7年 2月 28日		
新潟県上越市			

改修前



無筋レベル 平面図

C-C 断面図

注 記	※印は、撤去部分を示す。				排水管撤去・伴う掘削工事共とする。
	仕上は 仕上表による。				
		コンクリート・無筋コンクリート・モルタル 撤去部は、カッター入れの上撤去の事。	印は、撤去部分を示す。		
			印は、無筋コンクリートを示す。		
			印は、鉄筋コンクリートを示す。		
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。			

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-31
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(8)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			

(止水板設置時兼チェッカープレート設置時)

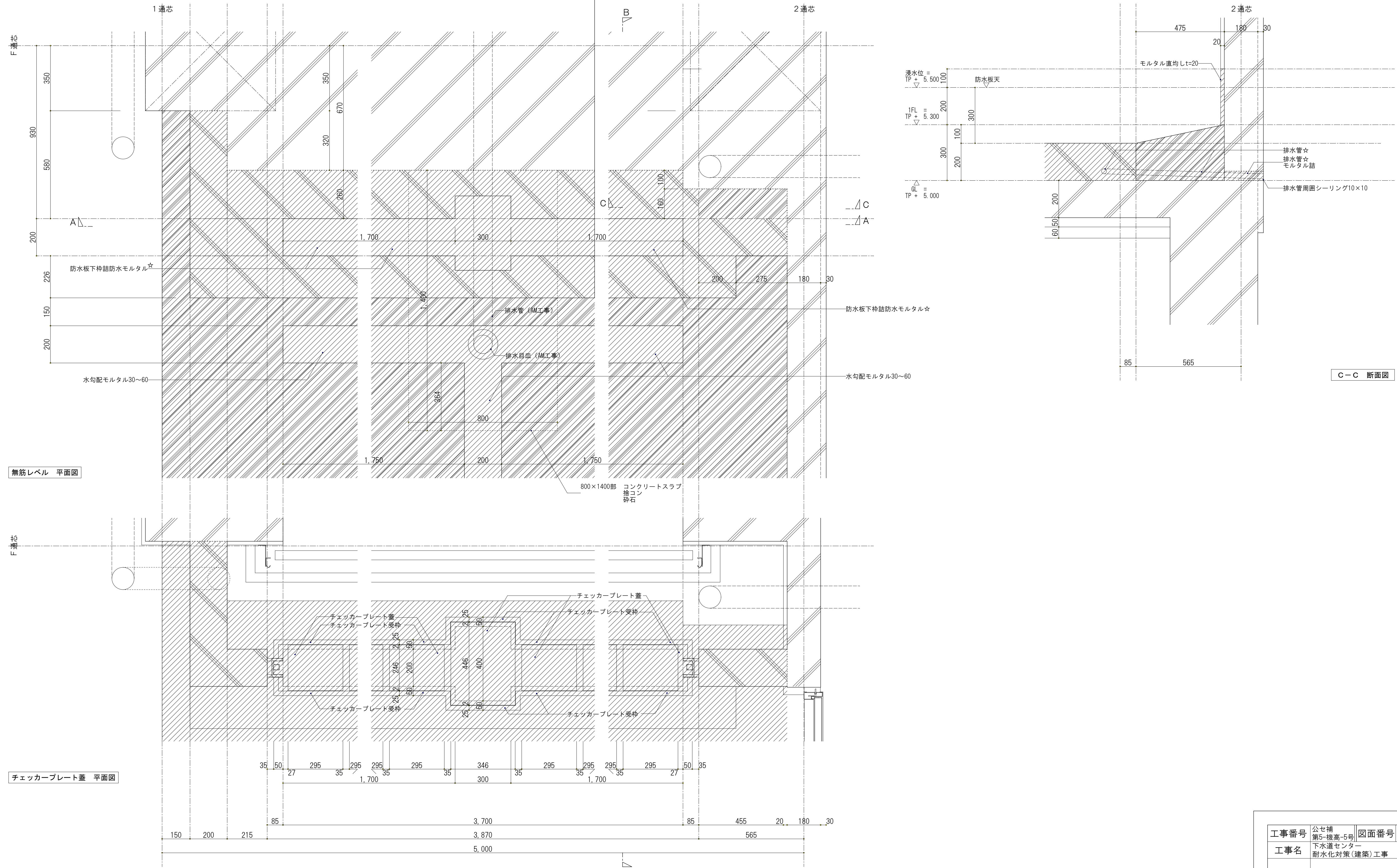
A-A 断面图

埋設配管掘削断面図

※良質土について、掘削による発生土が埋戻しに適さない場合は、埋戻しについてはその1/2を山砂の類（購入砂）で埋戻すこと。

工事番号	公設補 第5-機高-5号	図面番号	A1-32
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図(9)		
縮尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修後



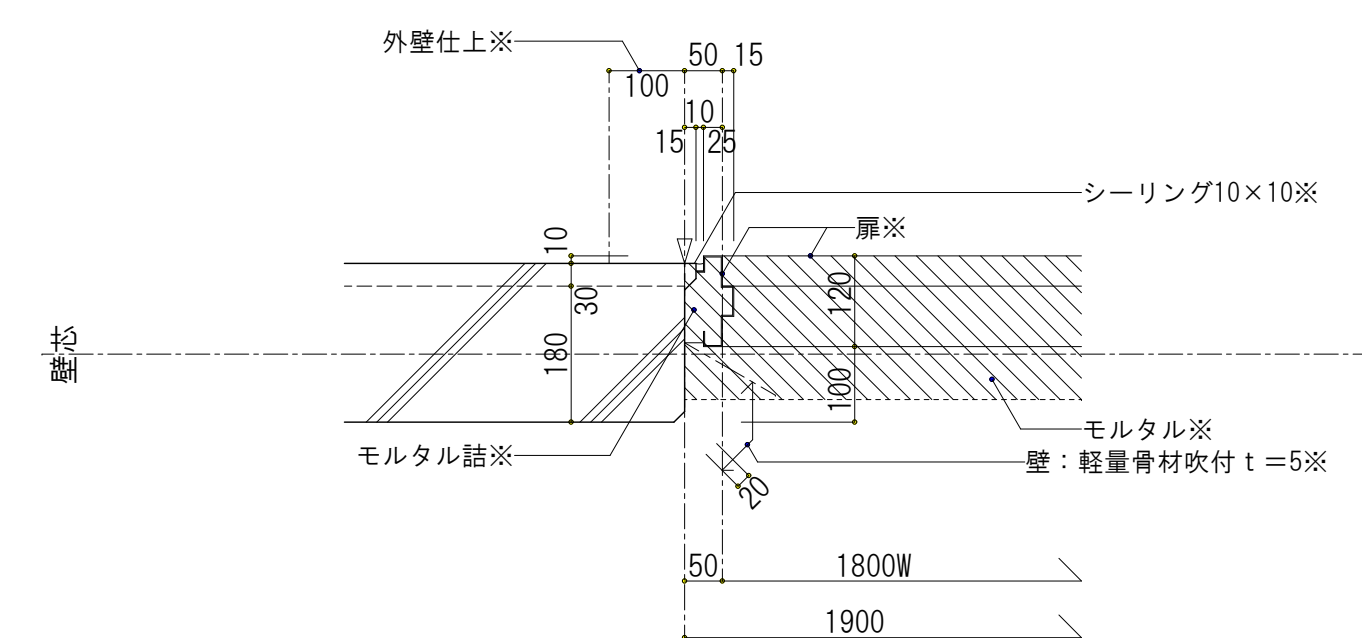
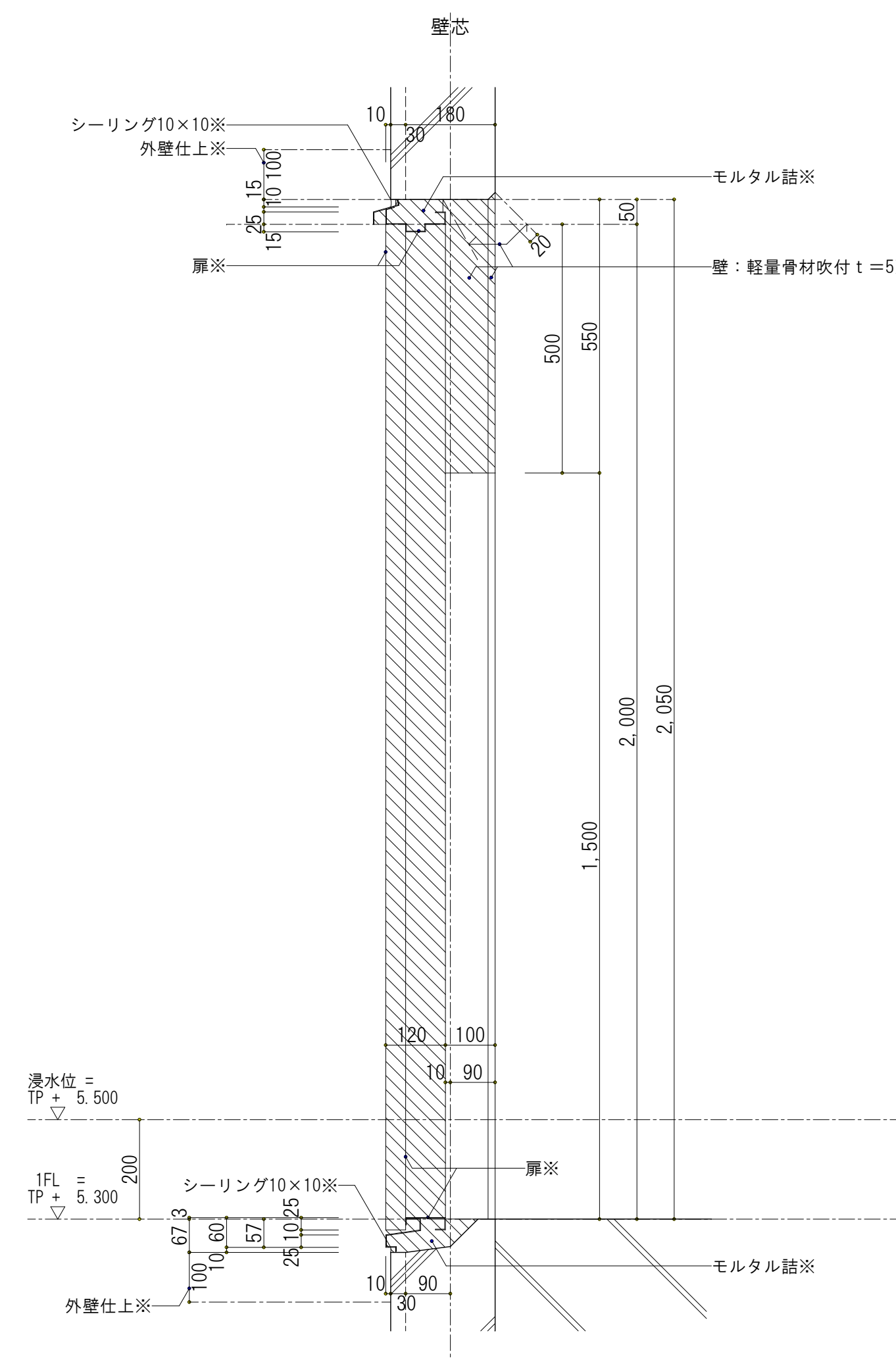
無筋レベル 平面図


チェッカープレート蓋 平面図

注 記	表記部分は、新設部分を示す。	チェッカープレート蓋・受枠は、△による。	印は、新設部分を示す。	防水板下枠には、ステンレス蓋付とする。	排水管新設・伴う埋戻し工事（転圧）共とする。
	仕上は 仕上表による。		新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接界面は目荒しを行う事。	防水板は、(株)日本アルミ 脱着式防水板同等品とする。	
	☆印は、防水板工事を示す。	コンクリート新設部の アンカー・配筋は 構造図による。	印は、無筋コンクリートを示す。		
			印は、新設鉄筋コンクリートを示す。		
			本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。		

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-33
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (10)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新潟県上越市			

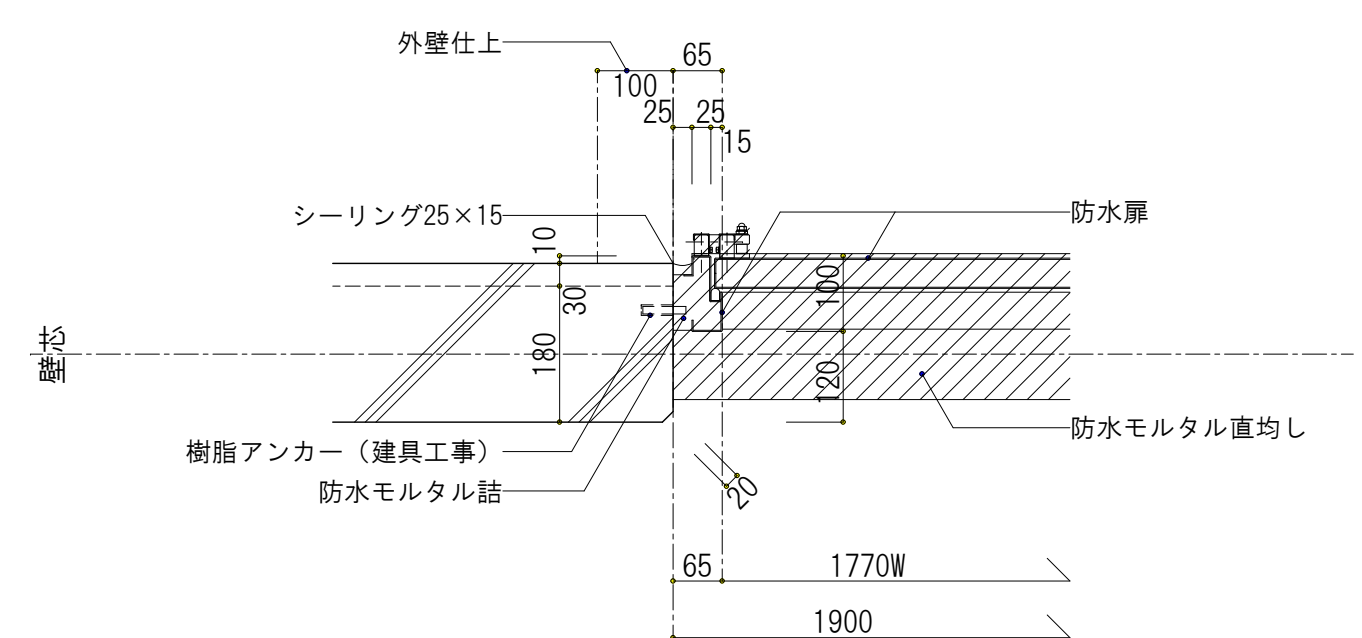
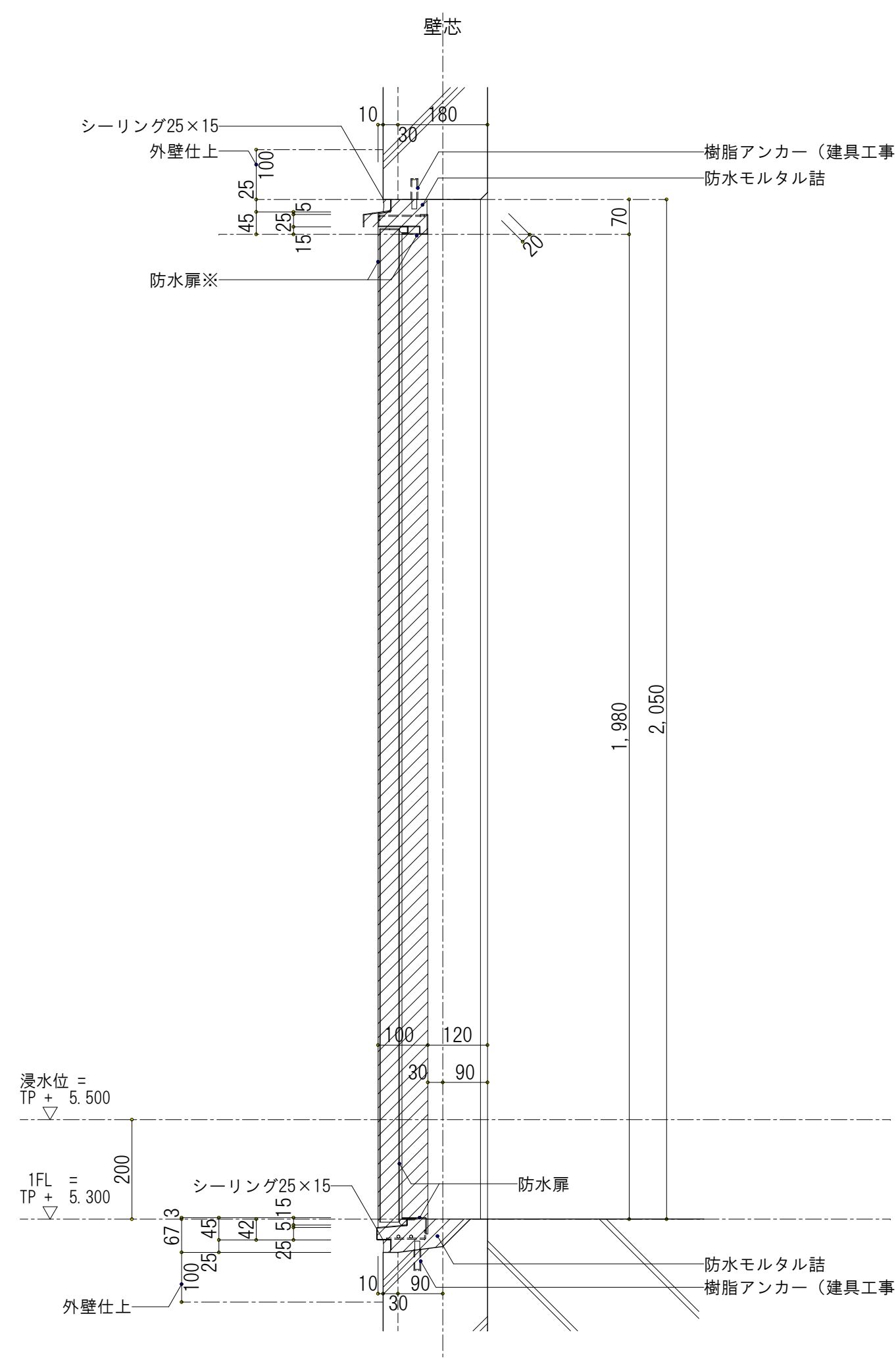
改修前




注 記	※印は、撤去部分を示す。	 印は、撤去部分を示す。
	仕上は 仕上表による。	
	◁印は、カッター入れを示す。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

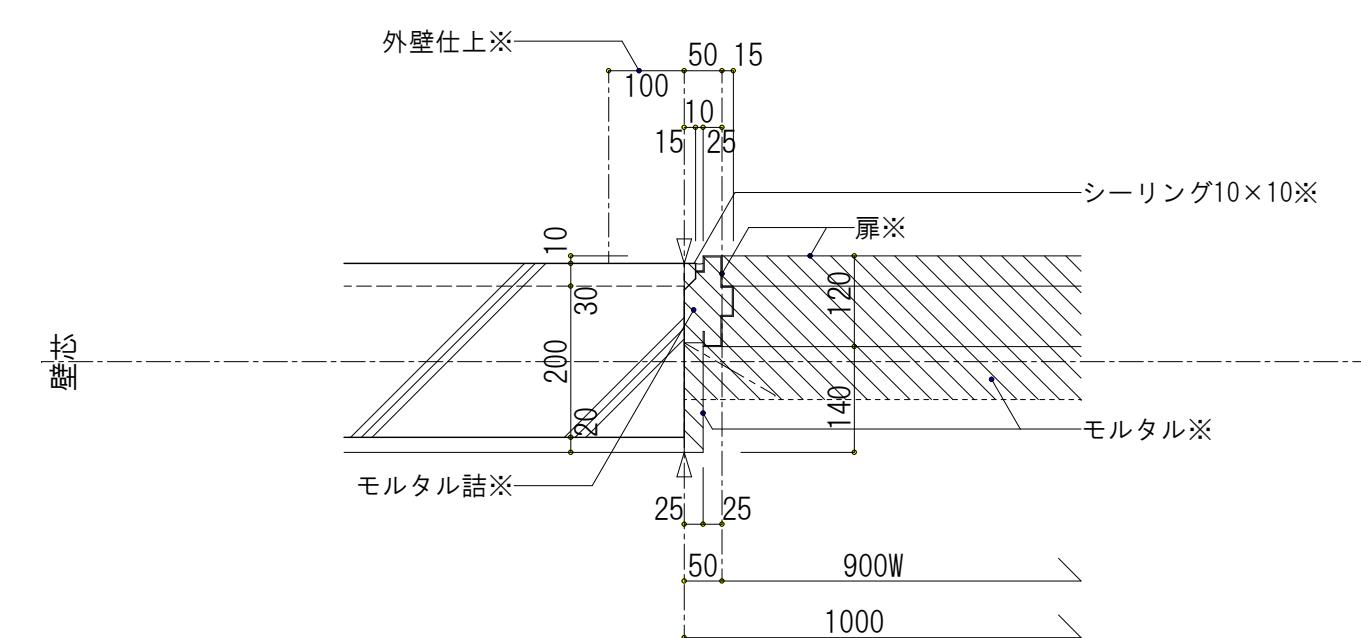
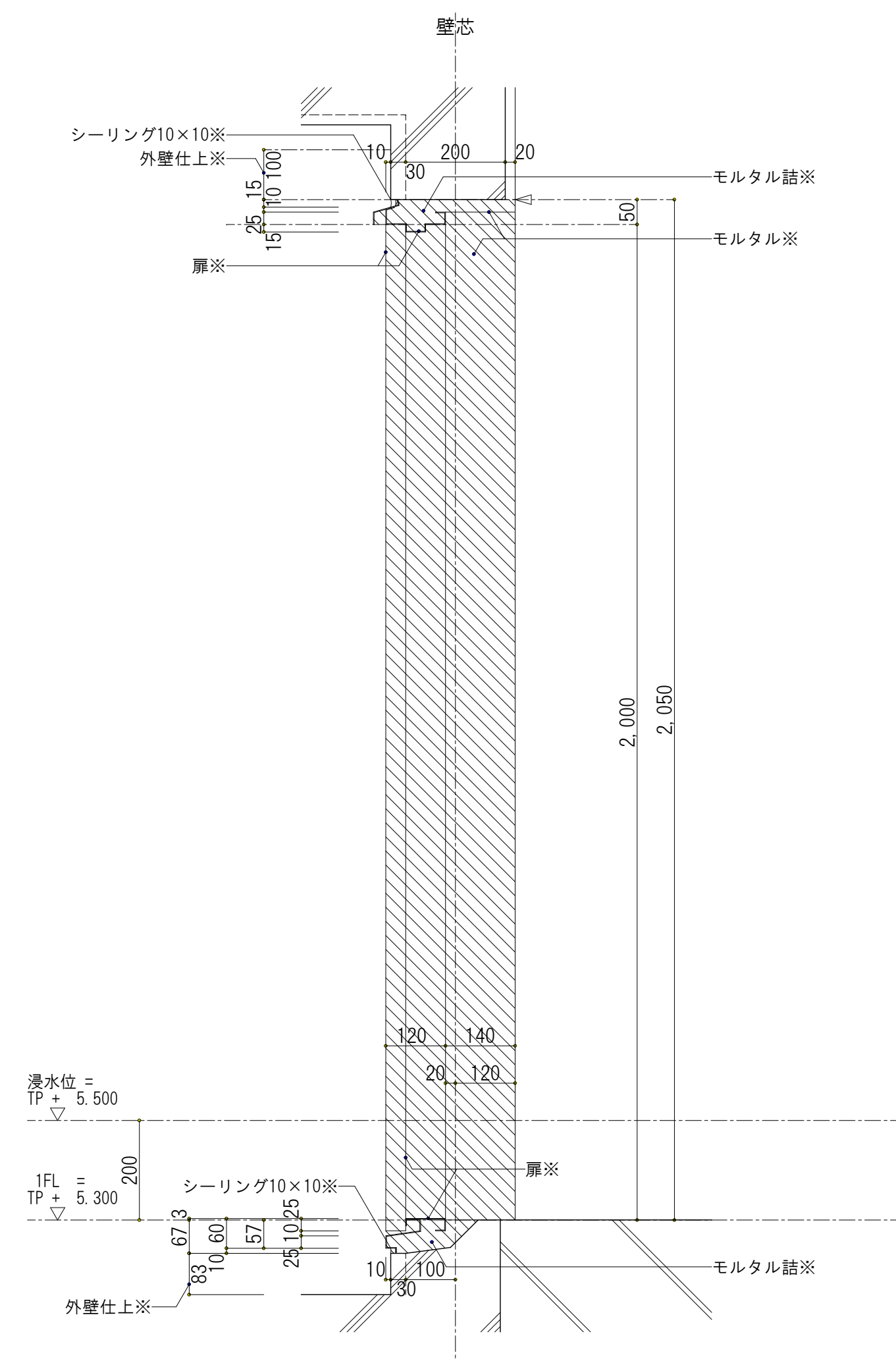
改修後




注 記	表記部分は、新設部分を示す。	 印は、新設部分を示す。
	仕上は 仕上表による。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

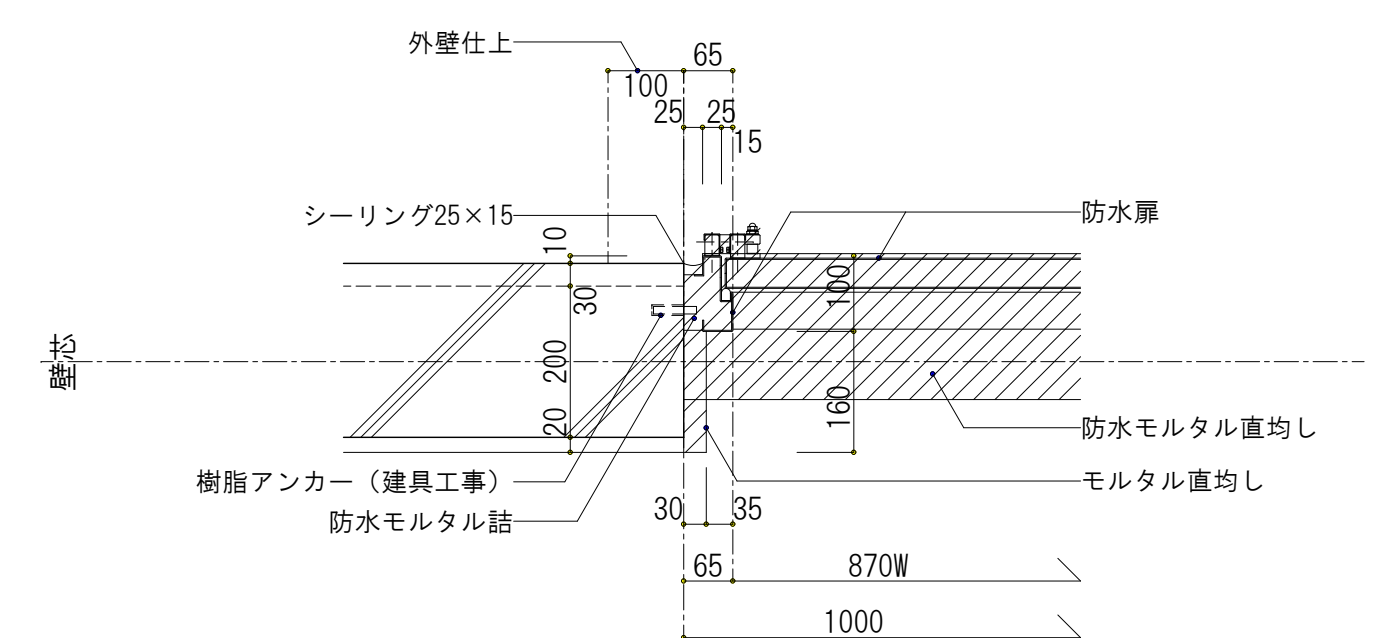
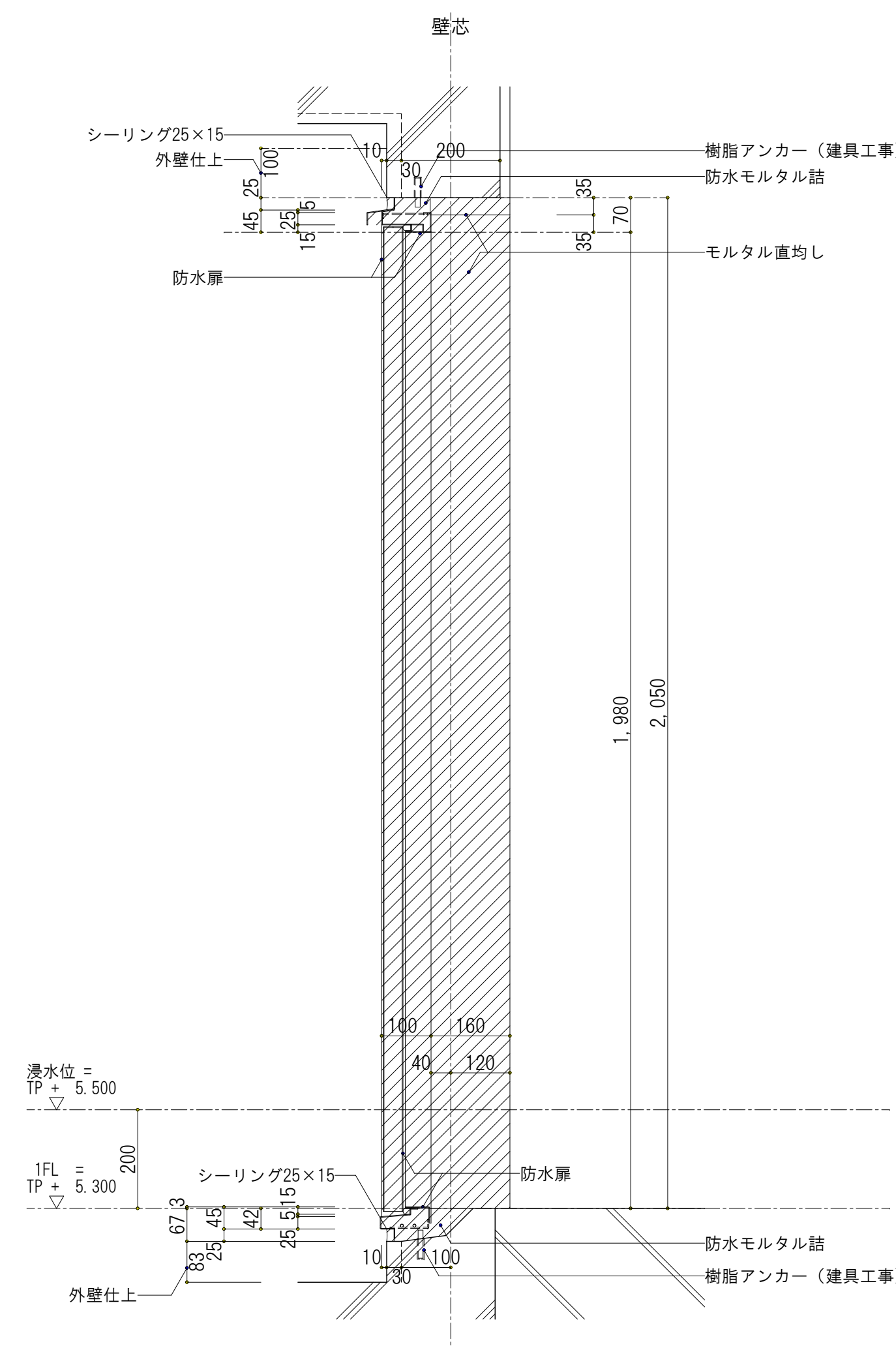
改修前




注 記	※印は、撤去部分を示す。	 印は、撤去部分を示す。
	仕上は 仕上表による。	
	◁ 印は、カッター入れを示す。	
	モルタル・コンクリート撤去部は カッター入れの上撤去に事。	
		本図は 参考図とし、施工図にて確認し決定の事。

本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

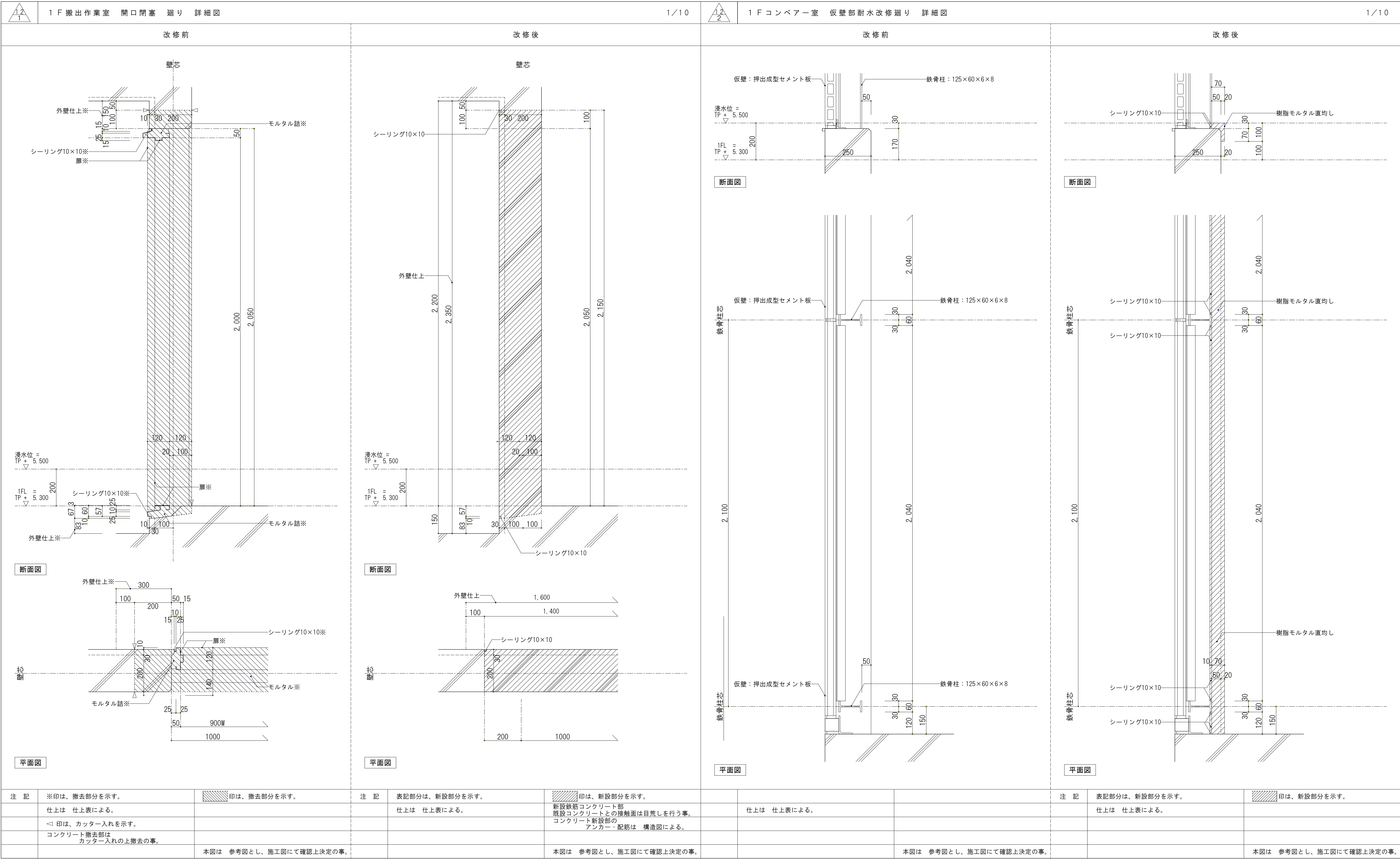
改修後



注 記	表記部分は、新設部分を示す。 仕上は 仕上表による。	 印は、新設部分を示す。
		本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

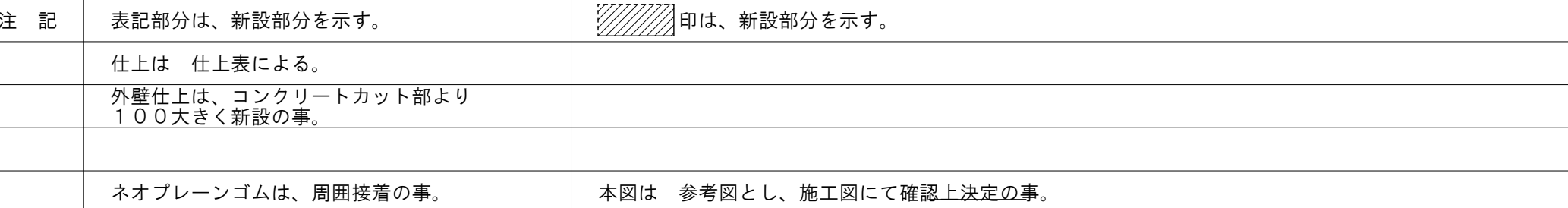
本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。

工事番号	公セ補 第5号機高-5号	図面番号	A1-34
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 詳細図(11)		
縮 尺	1/10		
設計年月日	令和 7年 2月 28日		
新 潟 県 上 越 市			

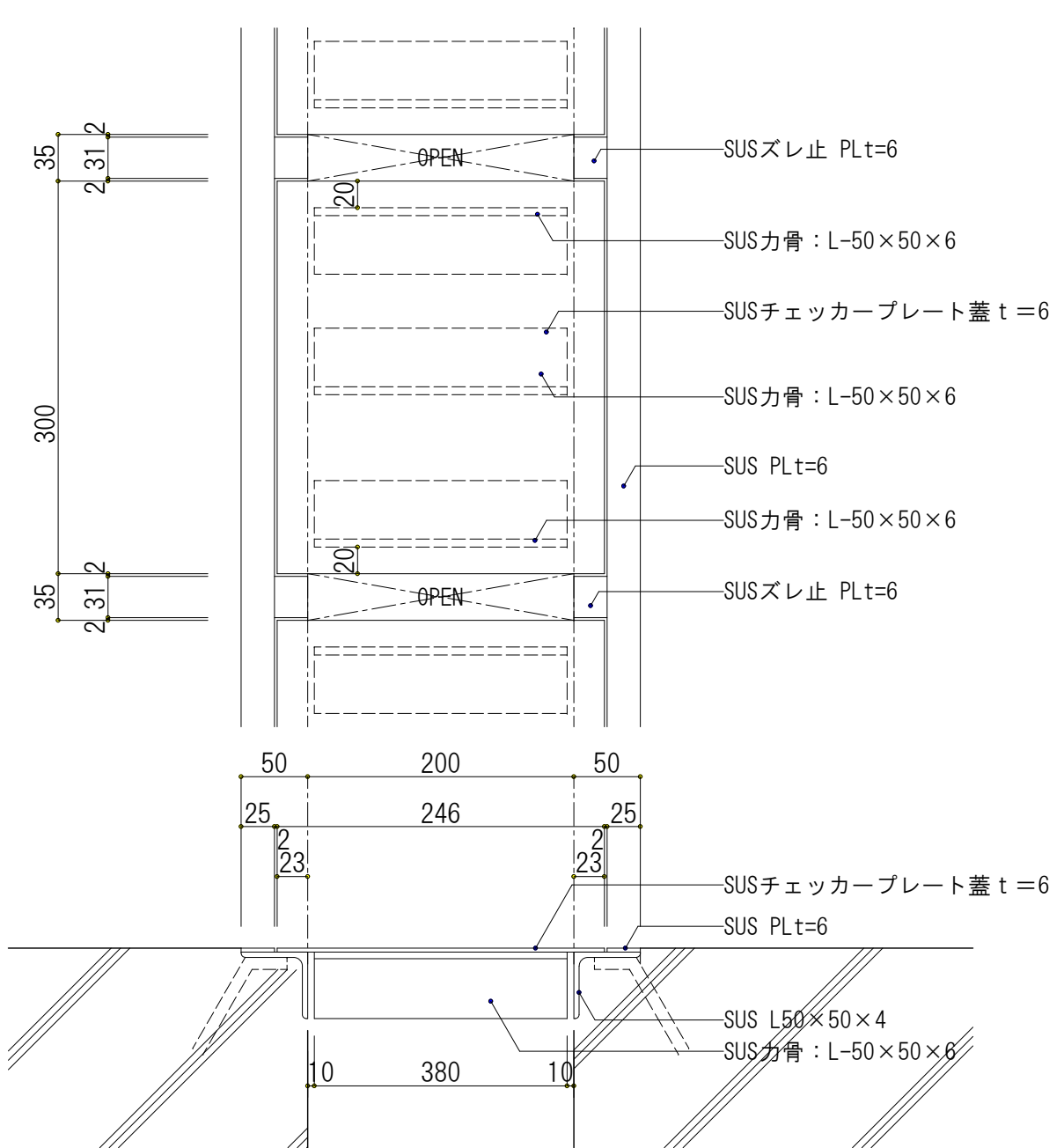
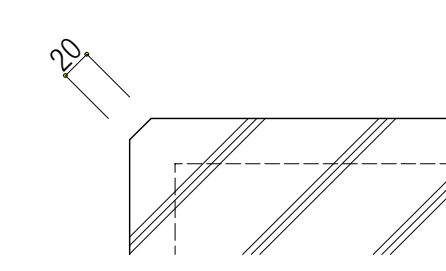
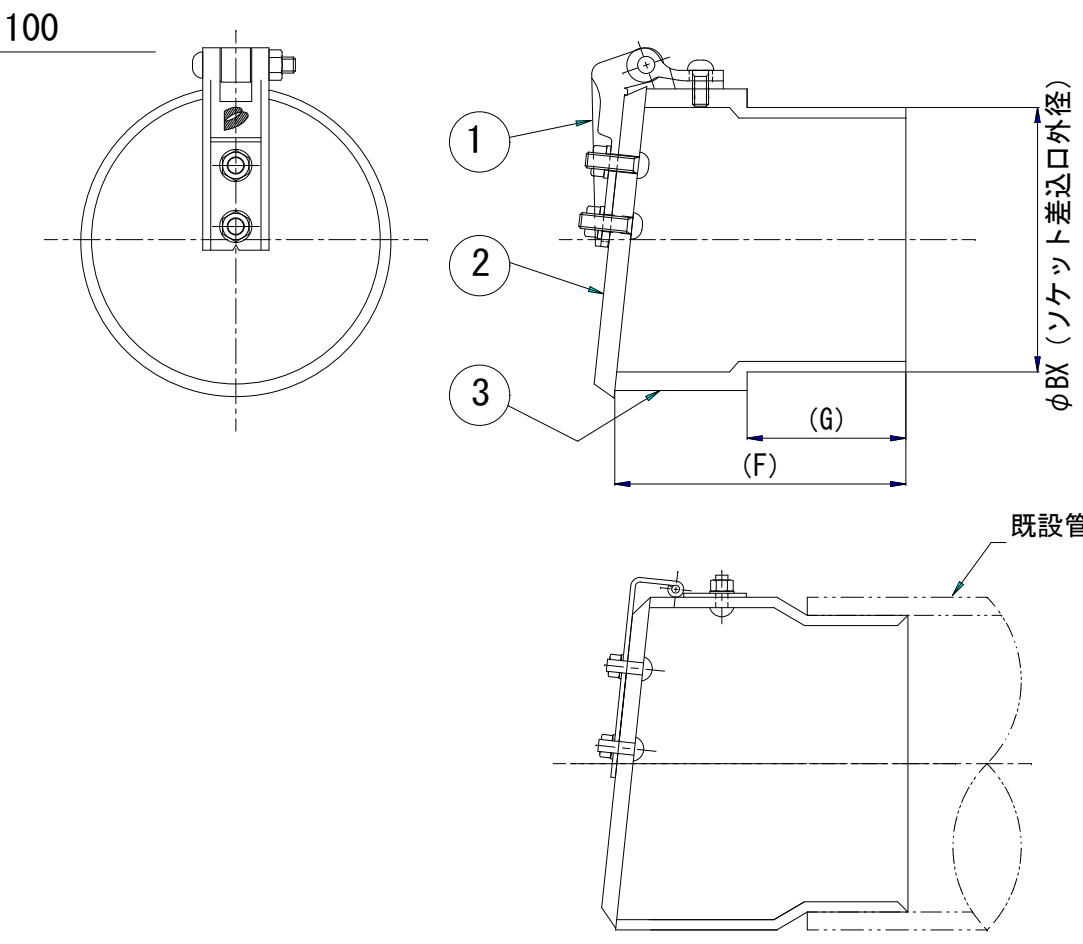
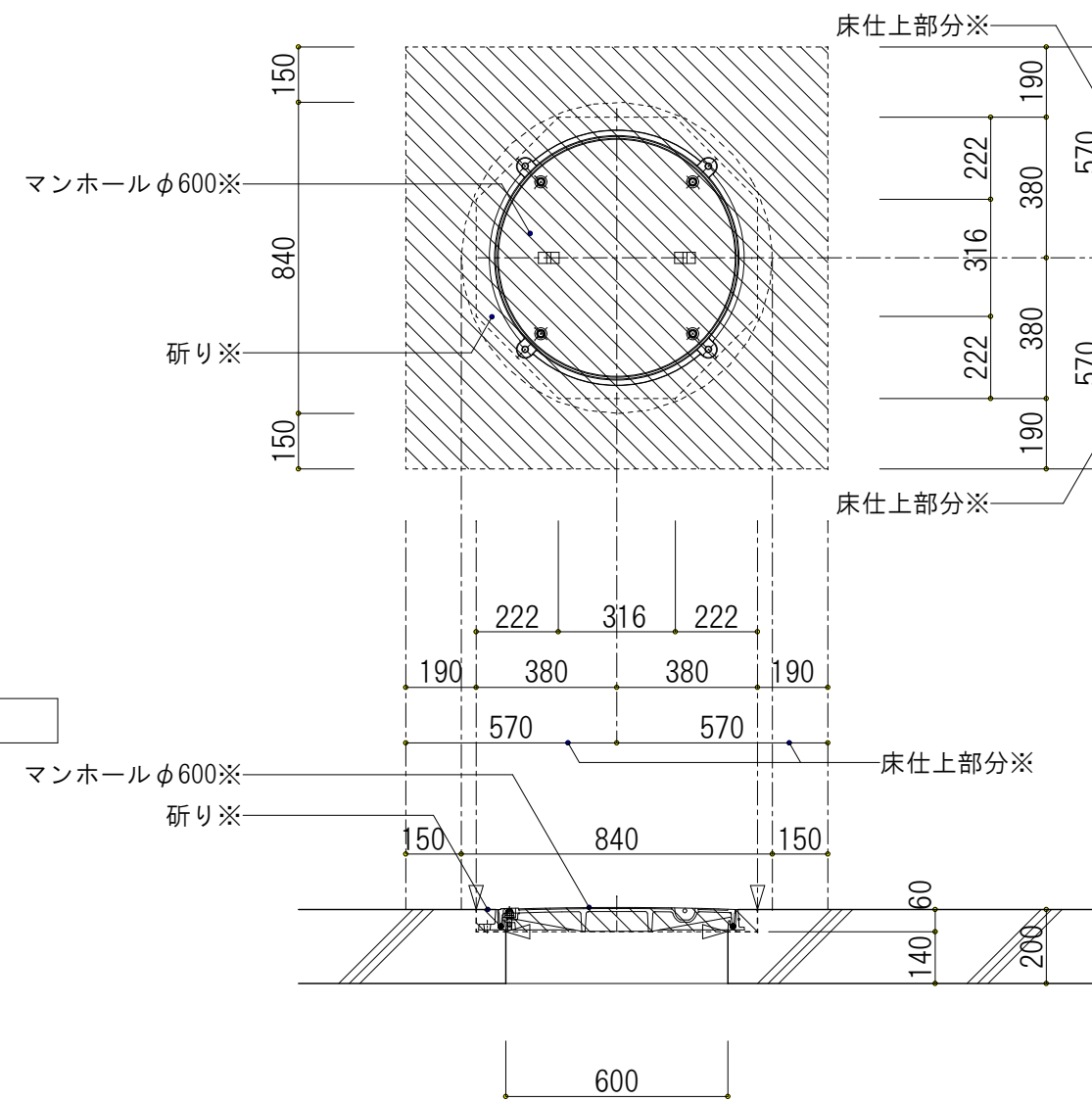
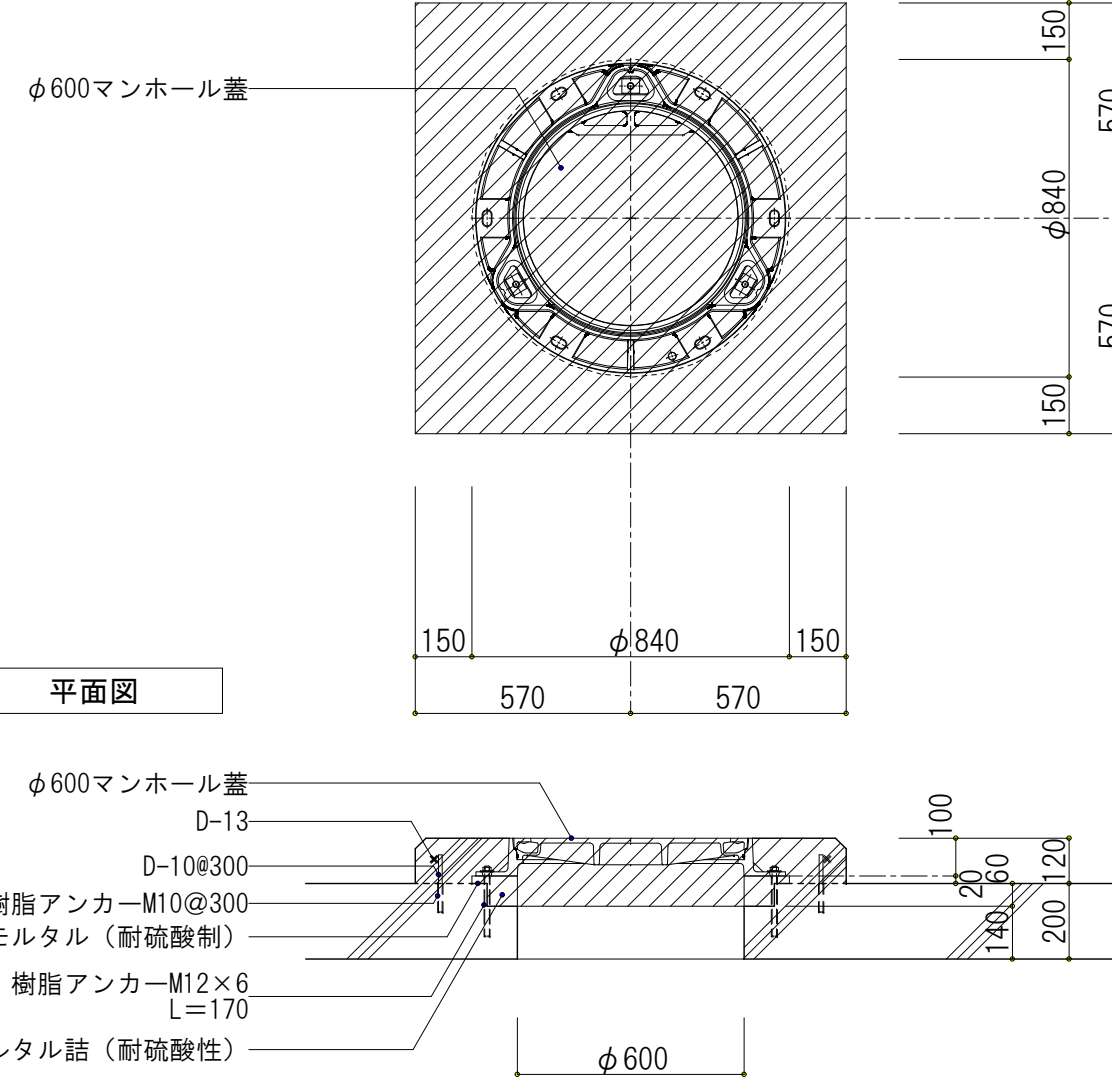
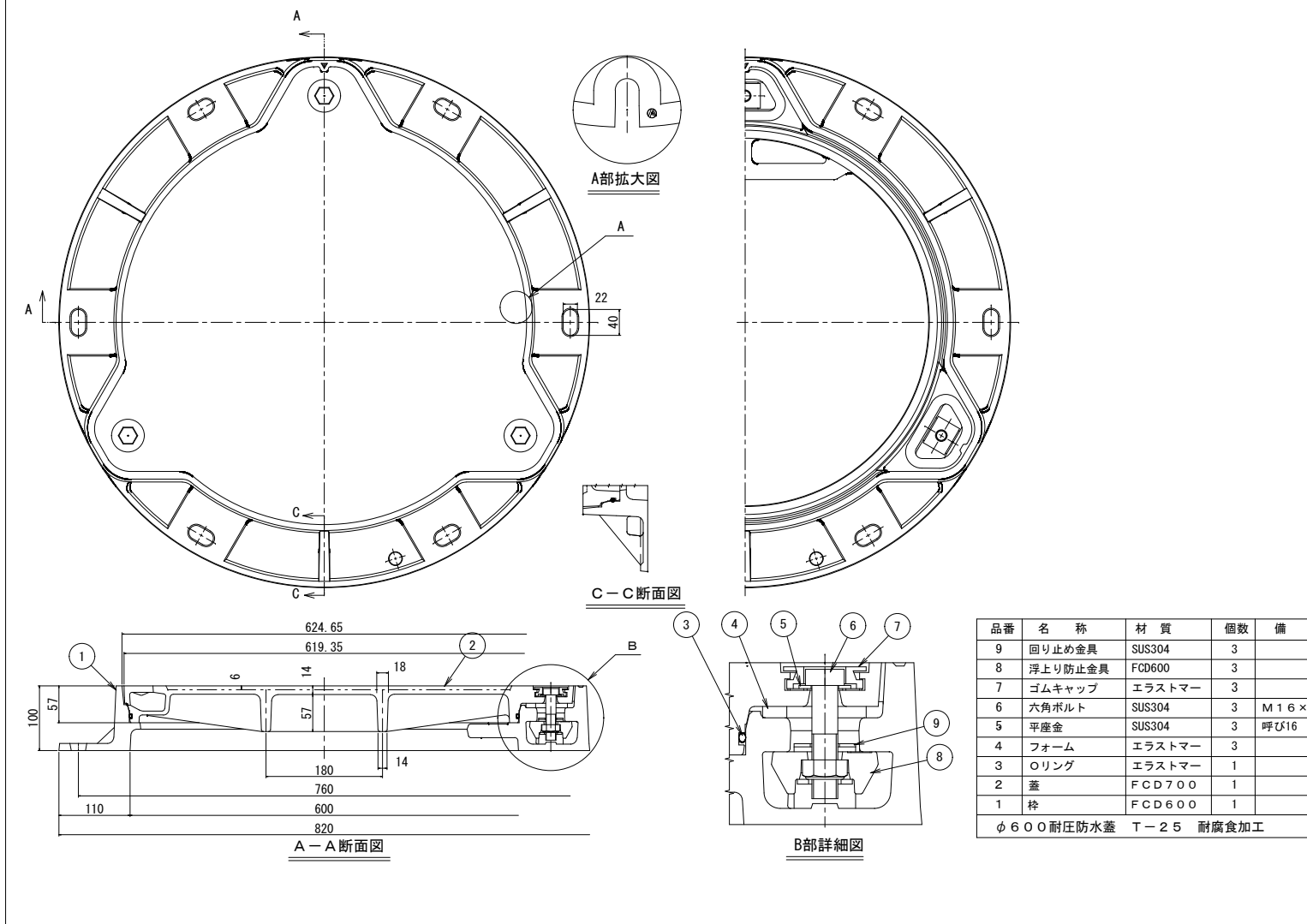


工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-35
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (1 2)		
縮 尺	1 / 1 0		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修後



工事番号	公設補 第5-機高-5号	図面番号	A1-36
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (13)		
縮 尺	1/5		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

<div><div><div>14 1</div></div><div>チェッカープレート蓋廻り 詳細図</div><div>1 / 5</div></div> <div><p>SUSスレ止 PLt=6 SUS力骨：L-50×50×6 SUSチェッカープレート蓋 t=6 SUS力骨：L-50×50×6 SUS PLt=6 SUS力骨：L-50×50×6 SUSスレ止 PLt=6 SUSチェッカープレート蓋 t=6 SUS PLt=6 SUS L50×50×4 SUS力骨：L-50×50×6</p></div> <div><div>注 記</div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>	<div><div><div>14 2</div></div><div>面取廻り 詳細図</div><div>1 / 5</div></div> <div><p>20</p></div> <div><div>注 記</div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>	<div><div><div>14 4</div></div><div>逆流防止弁 詳細図</div><div>1 / 5</div></div> <div><p>Φ100 1 2 3 φ80 (ソケット差込口外径) 既設管 取付イメージ</p><table><tr><th colspan="5">単位：mm</th></tr><tr><th>品 番</th><th>B</th><th>F</th><th>G</th><th></th></tr><tr><td>FU-100U</td><td>106.2</td><td>100</td><td>50</td><td></td></tr><tr><td>V U 管 用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table><table><tr><th>番号</th><th>名 称</th><th>数 量</th><th>材 質</th></tr><tr><td>1</td><td>ヒ ン ジ</td><td>1</td><td>100 SCS13</td></tr><tr><td>2</td><td>扉 体</td><td>1</td><td>100 H-PVC</td></tr><tr><td>3</td><td>差込ソケット</td><td>1</td><td>100 H-PVC</td></tr></table></div> <div><div>注 記</div><div>排水勾配は、8%まで対応できます。</div><div>サイズにより、形状が異なります。</div><div></div><div></div></div>	単位：mm					品 番	B	F	G		FU-100U	106.2	100	50		V U 管 用					番号	名 称	数 量	材 質	1	ヒ ン ジ	1	100 SCS13	2	扉 体	1	100 H-PVC	3	差込ソケット	1	100 H-PVC			
単位：mm																																									
品 番	B	F	G																																						
FU-100U	106.2	100	50																																						
V U 管 用																																									
番号	名 称	数 量	材 質																																						
1	ヒ ン ジ	1	100 SCS13																																						
2	扉 体	1	100 H-PVC																																						
3	差込ソケット	1	100 H-PVC																																						
<div><div><div>14 3</div></div><div>マンホール改修 詳細図</div><div></div></div> <div><div>改修前</div><p>マンホールφ600※ 床仕上部分※ 平面図 断面図</p></div> <div><div>注 記</div><div>※印は、撤去部分を示す。</div><div>印は、撤去部分を示す。</div><div>床仕上は 床用塗料。</div><div>△印は、カッター入れを示す。</div><div>スラブ配筋は 切断しない様行う事。</div><div>本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。</div></div>	<div><div><div>改修後</div><p>φ600マンホール蓋 φ600マンホール蓋 D-13 D-108300 樹脂アンカーM10@300 均しモルタル（耐硫酸制） 樹脂アンカーM12×6 L=170 モルタル詰（耐硫酸性） 平面図 断面図</p></div><div><div>注 記</div><div>表記部分は、新設部分を示す。</div><div>マンホール蓋周囲コンクリートは 天端：コンクリート直均し 床用塗料 側面：コンクリート打放し（B）床用塗料とする。</div><div>ネオブレンゴムは、周囲接着の事。</div><div>本図は 参考図とし、施工図にて確認上決定の事。</div></div></div>	<div><div><div>マンホール蓋詳細図</div><p>マンホール蓋詳細図</p></div><div><div>注 記</div><div>※印は、新設部分を示す。</div><div>新設鉄筋コンクリート部 既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。</div><div></div><div></div></div></div>																																							

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-37
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 雑詳細図 (14)		
縮 尺	図示		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			

改修前	符号・名称・個数（撤去個数） （改修個数）		SSD-2 両開きフラッシュ戸 1（1）	SSD-3 片開きフラッシュ戸 2（2）						
	場所		1F 換気ファン室（2）	1F 搬出作業室、ケーキ搬出室						
	仕上（枠共）		HL	HL						
	建具	見込（ランマ）	40	40						
		硝子（ランマ）								
		ガラリ								
	建具枠	見込取合 番摺	120	120						
	枠記号 番摺（水切）記号									
改修後	符号・名称・個数（撤去個数） （改修個数）		SSD-102 両開き防水戸 1	SSD-103 片開き防水戸 1						
	場所		1F 換気ファン室（2）	1F ケーキ搬出室						
	仕上（枠共）		HL	HL						
	建具	見込（ランマ）	40	40						
		硝子（ランマ）								
		ガラリ								
	建具枠	見込取合 番摺	120	120						
	枠記号 番摺（水切）記号									
	建具金物		メーカー仕様による	メーカー仕様による						
	その他		メーカー仕様による	メーカー仕様による						
	形状・寸法		防水扉（防水高さ：0.5m） 三和シャッター工業株式会社：Sタイトドア同等品 ※止水等級：：WS-4相当	防水扉（防水高さ：0.5m） 三和シャッター工業株式会社：Sタイトドア同等品 ※止水等級：：WS-5相当						
	符号・名称・個数（撤去個数） （改修個数）									
	場所									
	仕上（枠共）									
	建具	見込（ランマ）								
		硝子（ランマ）								
		ガラリ								
	建具枠	見込取合 番摺								
	枠記号 番摺（水切）記号									
	建具金物									
	その他									
	形状・寸法									

共 <
--

改 修 前



凡 例

- 枠組本足場 W=900 (外部)
W=600 (内部)
- 仮設間仕切C種 (単管足場+壁養生シート)
- 床養生ブルーシート敷
- 内部養生シートは 防災Ⅱ類とする。
- 工事用動線
- 管理用動線

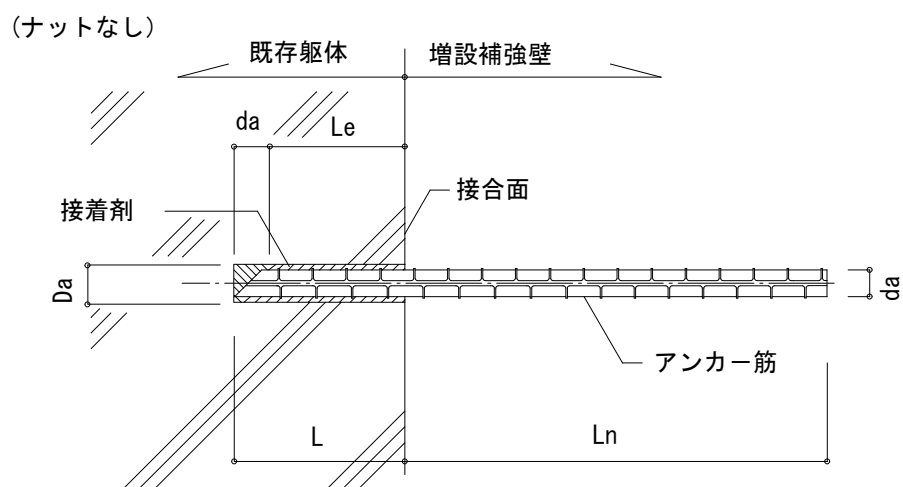
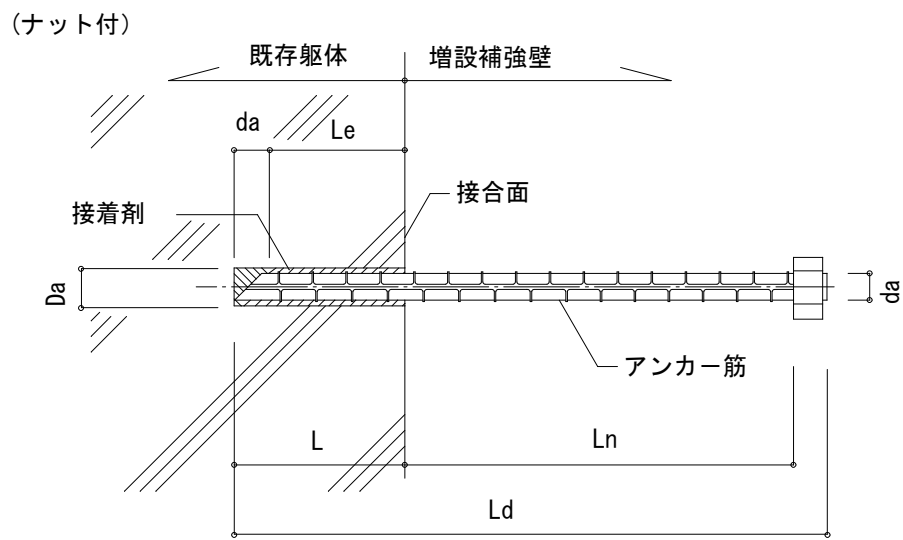
注 記

- 仮設計画については、参考とする。
- 仮設間仕切り・足場等は、現場にて監督員と調整のこと。
- 足場の存置日数は、30日とする。

工事番号	公セ補 第5-機高-5号	図面番号	A1-39
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 耐水化改修 仮設図		
縮 尺	1/100		
設計年月日	令和 7 年 2 月 28 日		
新 潟 県 上 越 市			

あと施工アンカー

(1) 接着系アンカー



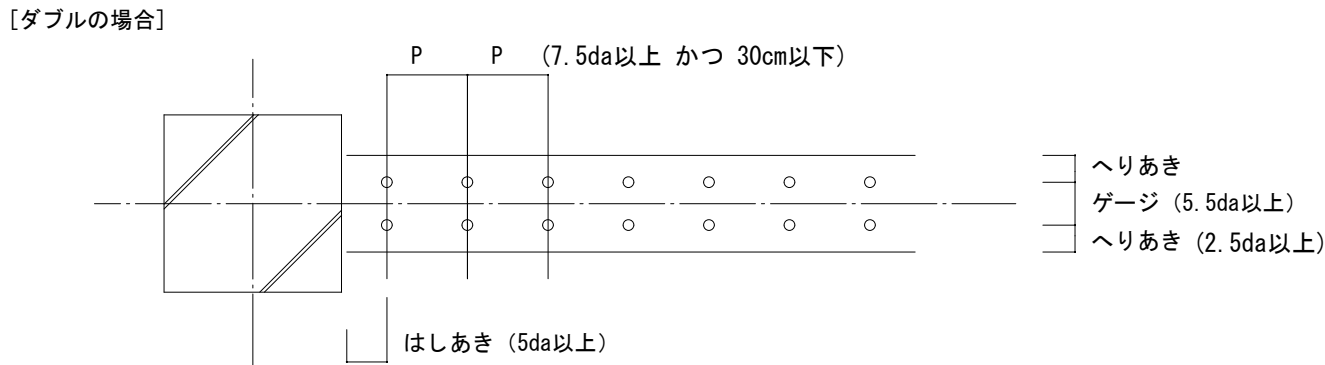
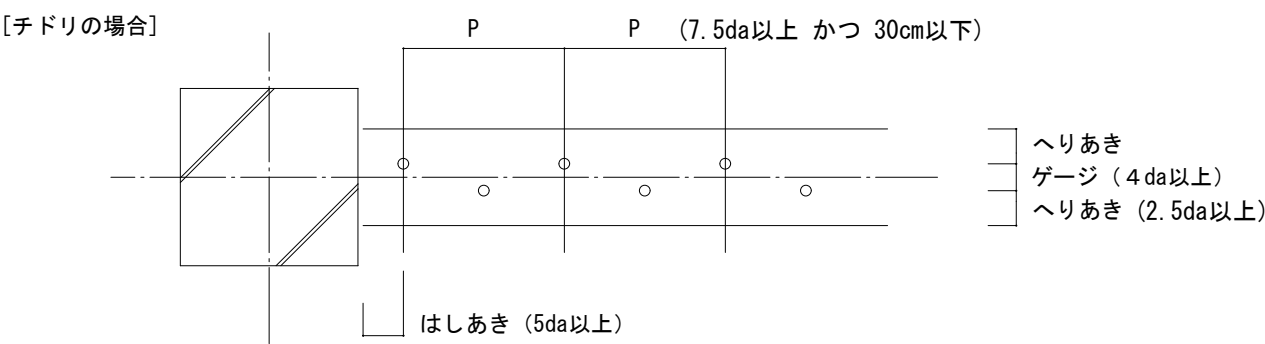
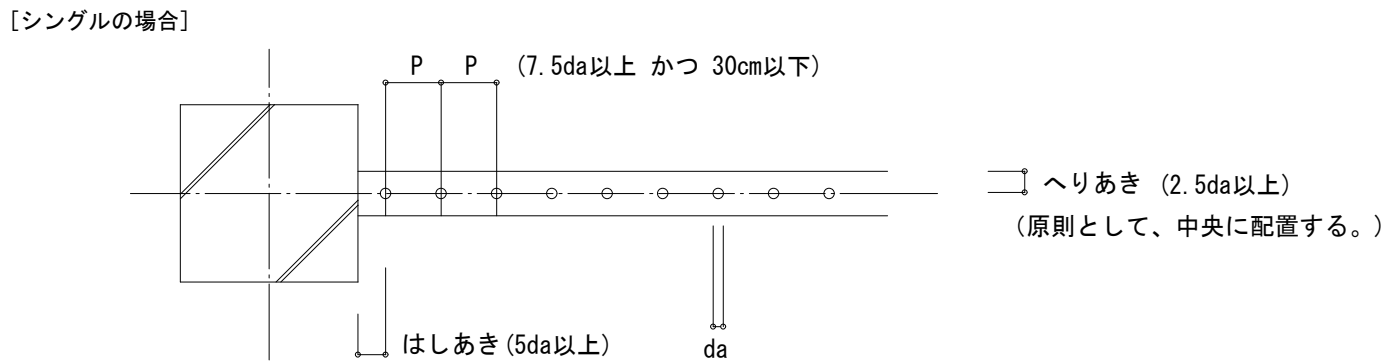
L : コンクリートの穿孔深さ、または接着系アンカーの埋め込み長さ
Le : アンカーの有効埋め込み長さ
Ld : アンカーの全長
Ln : 有効定着長さ
Da : 既存コンクリート躯体への穿孔径
da : アンカー軸部の直径、アンカー筋の呼び名

アンカー関係共通事項		
接着系アンカーの有効	埋め込み長さ	一般部 : $L_e = 7 d_a$ 開口補強筋 : $L_e = 10 d_a$
	定着長さ	一般部 : $L_n = 20 d_a$ 開口補強筋 : $L_n = L_1 + 5 d_a$ (=補強筋との継手長さ+ナット山)
アンカー筋形状	ナット付き異形棒鋼(開口補強筋用はナットなし)とし、ナットからねじ山が2山以上でること。 また、先端形状は45°カットとする。	

施工確認試験荷重		確認強度
アンカー筋呼び名(da)	アンカーの有効埋込長さ(Le)	荷重 (kN) 2/3をかけた値
D[13]	[7]da	[20.9]
D[13]	[10]da	[24.9]
D[16]	[7]da	[31.6]
D[16]	[10]da	[39.0]
D[19]	[7]da	[44.6]
D[19]	[10]da	[65.9]
D[22]	[7]da	[59.7]
D[25]	[10]da	[116.5]

確認強度は、計算で得られた、アンカーの鋼材による引張荷重又はコンクリート破壊による引張荷重(埋込みピッチ及びへりあきの影響を受ける場合は、低減した荷重)の小さい方の2/3程度の荷重。

(2) あと施工アンカーの位置と間隔



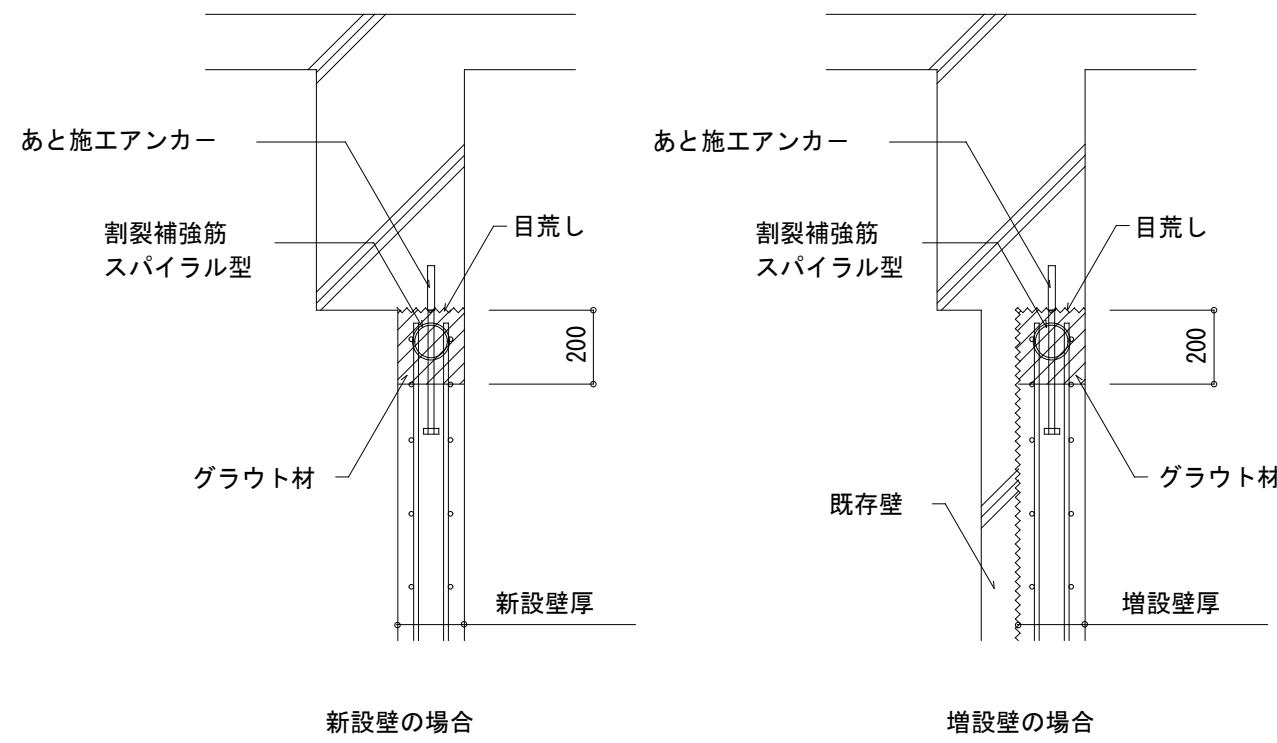
割裂補強筋配筋要領

- 割裂補強筋は、改修壁の柱・梁に接する面全てに配置する。
- 割裂補強筋は、スパイラル型とし、ピッチ、スパイラル径は下記による。
- 継手は、2巻以上の重ねとする。

壁 厚	スパイラル径	割裂補強筋	備 考
180	100	Φ6@50	
200	120	Φ6@50	
220	140	Φ6@50	
300	220	Φ6@50	

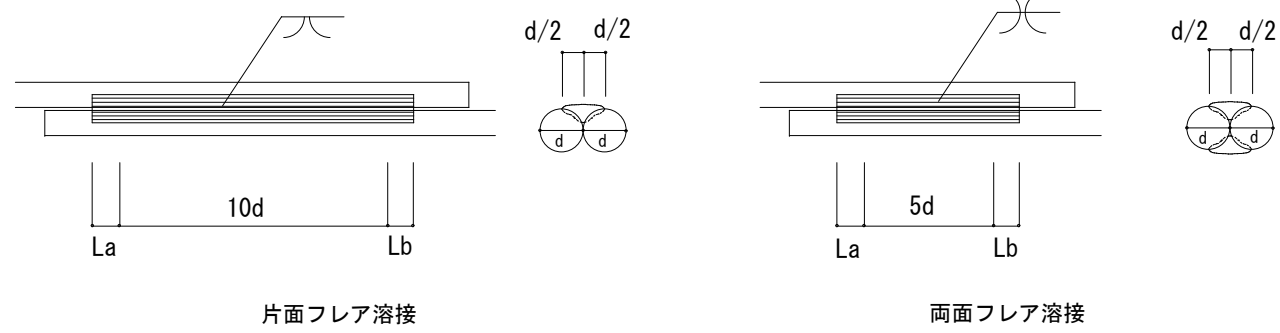
新設・増設壁上部グラウト要領

- 特記なき新設・増設壁上部は、グラウトを行う。

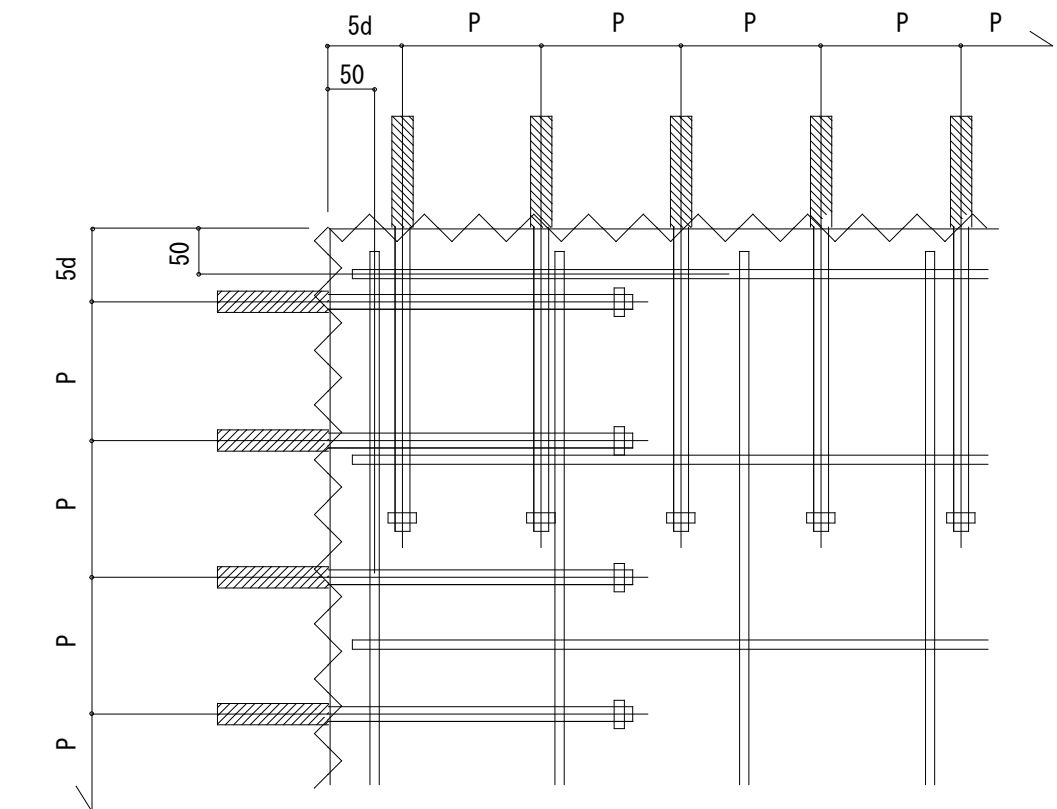


鉄筋フレア溶接要領

- 特記なき鉄筋のフレア溶接は、下図の片面または両面とする。
- 鉄筋のフレア溶接の溶接長さは、ビードの始点(La)及び、クレータ-(Lb)を除いた部分の長さとする。但し、La 及び Lbは 2d以上とする。



アンカー筋ピッチ標準



既存壁等撤去要領図

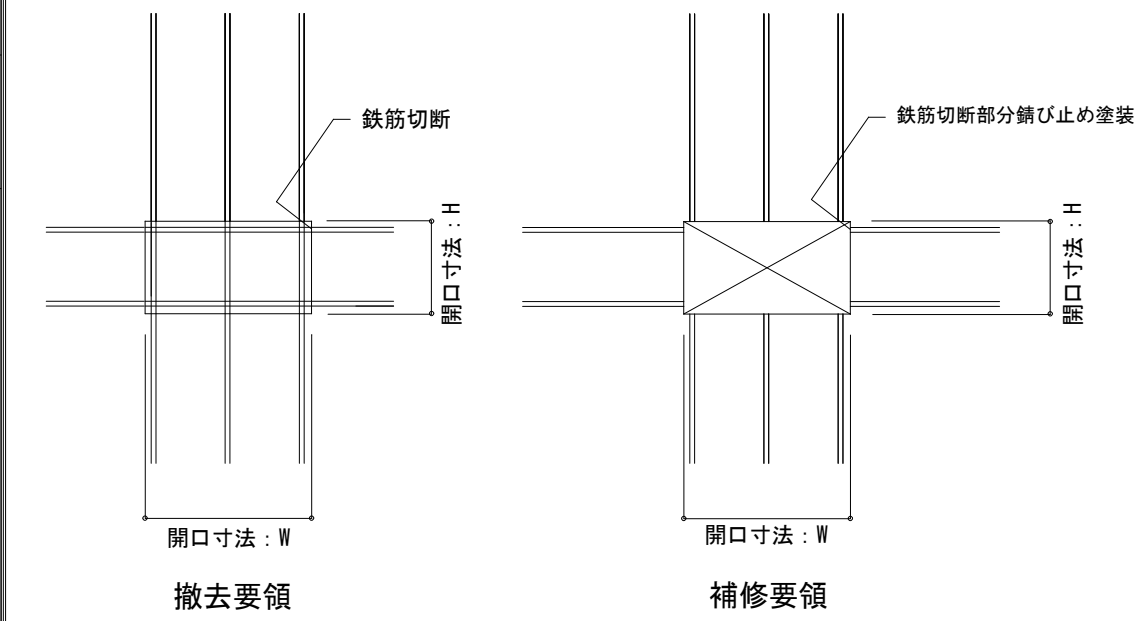
注記) 特記なき壁等の撤去は下図による。
注記) <印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30とする。
注記) 鉄筋切断部には、錆止め塗装を行う。
注記) 鉄筋はつり出しは、特記による。

撤去壁-梁 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-スラブ 取合部	撤去壁-梁 取合部 (壁を新設する場合)
撤去壁-柱 取合部 (撤去のみの場合)	撤去壁-直交壁 取合部	撤去壁-柱 取合部 (壁を新設する場合)
撤去庇-梁 取合部		

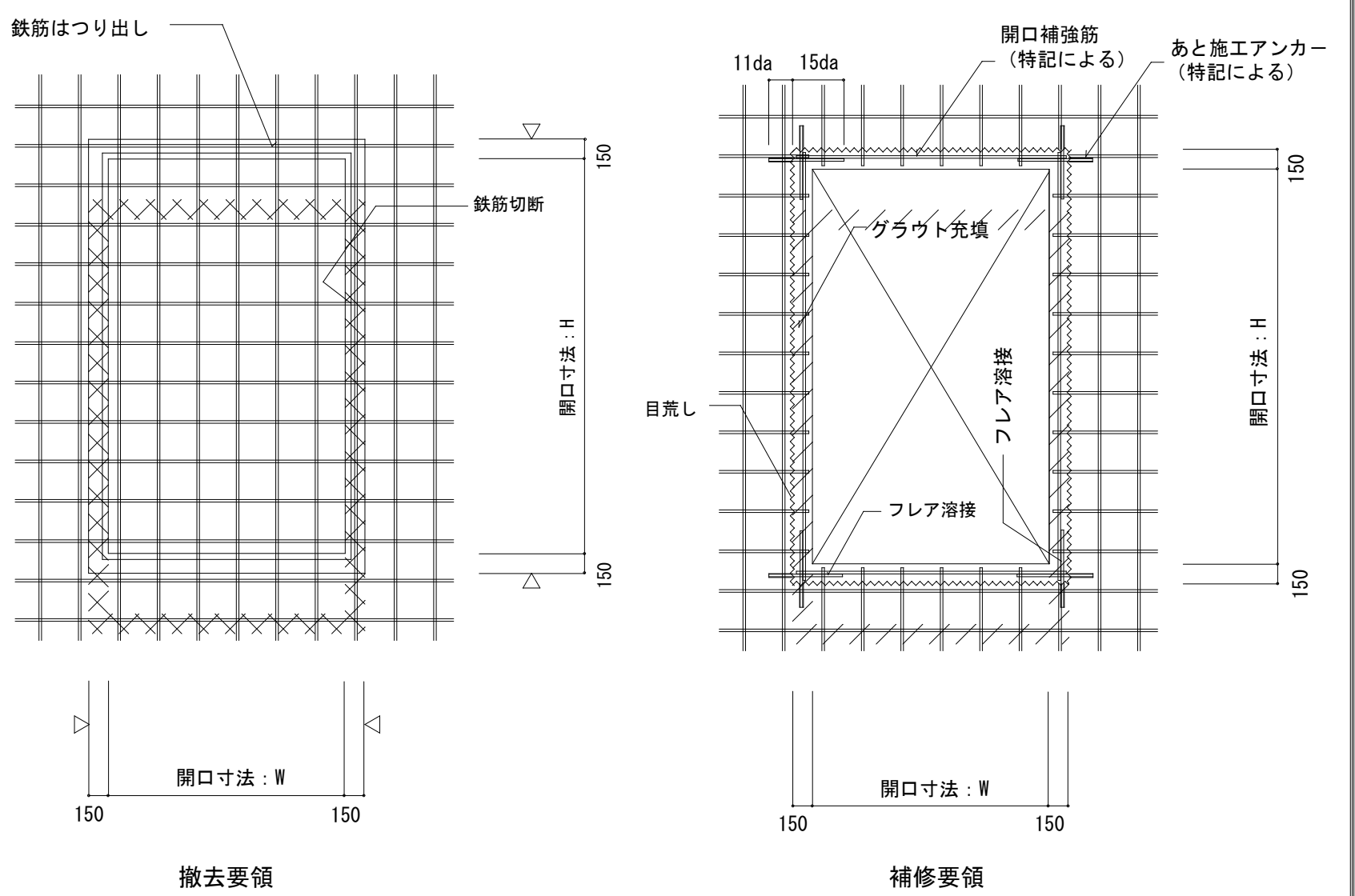
新設壁開口配筋要領図 (※註：意匠図による)

- 床・壁にコア抜きにより先導孔を開ける。
- 各開口寸法に合わせ、コンクリートカッター及び、はつり出しにより開口部を開ける。
- 小開口部は切断面の補修(錆び止め塗装)を施す。
大開口部はあと施工アンカーにより、開口補強筋を設ける。
開口補強筋を取り付けた後、内型枠に合わせグラウト材を充填する。

○小開口部 ・適用は特記による。

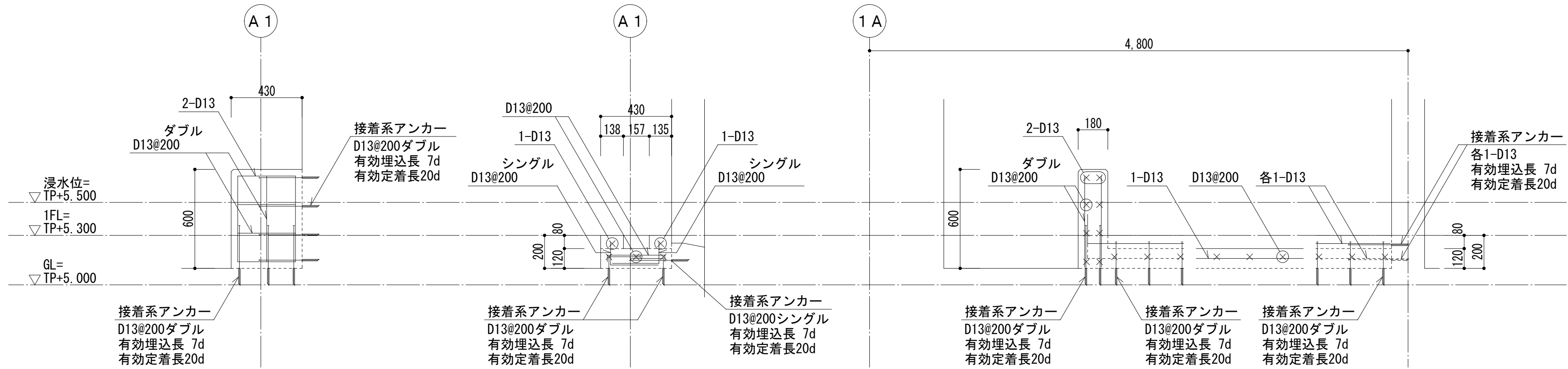


○大開口部 ・適用は特記による。



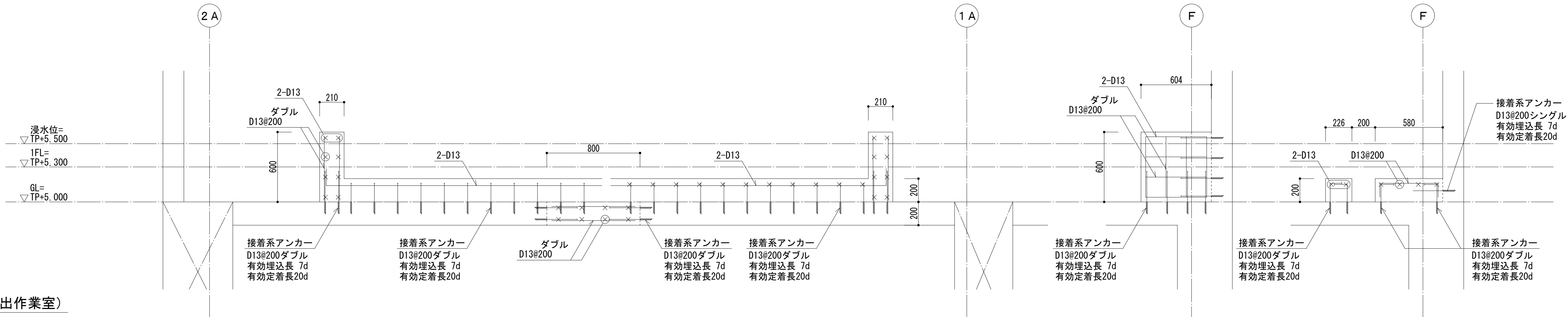
注記) <印は、コンクリートカッター位置を示し、カッター深さ30

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S1-01
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 改修標準詳細図		
縮 尺	—		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			



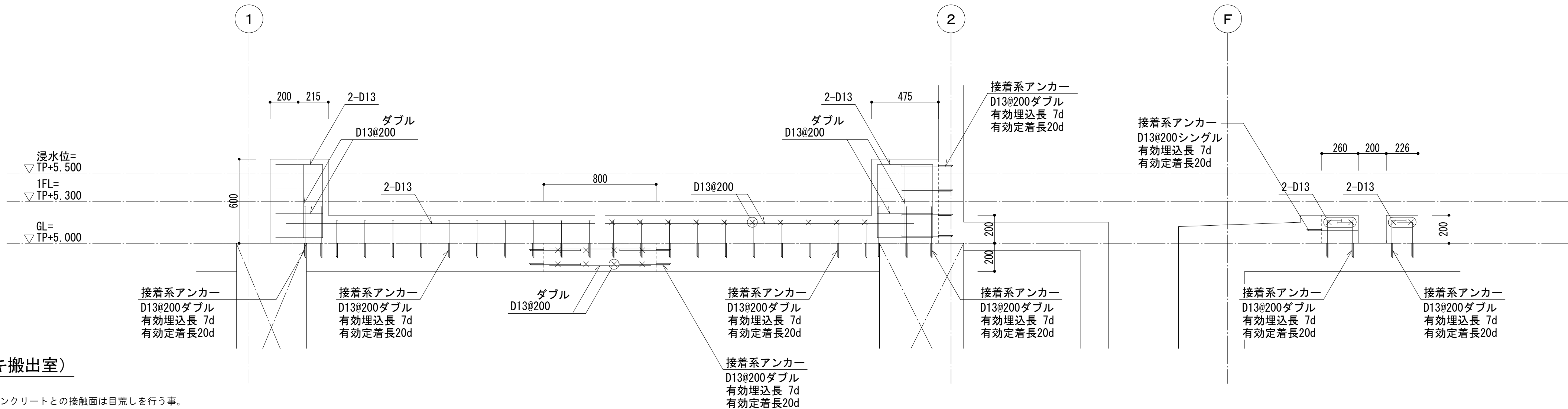
A 1 通り 1 A-2 A 間（脱臭気室）

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。



F 通り 2 A-1 A 間（搬出作業室）

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。



F 通り 1-2 間（ケーキ搬出室）

新設鉄筋コンクリート部の既設コンクリートとの接触面は目荒しを行う事。

工事番号	公セ補 第5機高5号	図面番号	S1-02
工事名	下水道センター 耐水化対策(建築)工事		
施工地名	上越市大字藤野新田		
図面名	脱水機棟 構造図		
縮 尺	1/20		
設計年月日	令和 7 年 2 月 2 8 日		
新 潟 県 上 越 市			